

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

研究進捗状況報告書の概要

1 研究プロジェクト

学校法人名	順天堂	大学名	順天堂大学
研究プロジェクト名	難治性“かゆみ”の発症機構解明と予防・治療法開発の研究基盤構築		
研究観点	研究拠点を形成する研究		

2 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

ヒトは、生体内外の環境要因によって生じる様々なストレスに曝されている。順天堂大学大学院医学研究科環境医学研究所は、環境要因と遺伝要因が絡み合って生じるアレルギー疾患やがんなどの環境要因関連疾患の発症機構の解明と、QOL 向上を目指した研究に取り組んできた。その過程で、腎不全患者の難治性かゆみ治療の標的分子として κ オピオイド受容体を同定するなど、治療等に繋がる標的分子を見出している。近年、難治性かゆみは環境要因関連疾患に伴う生体応答異常のサインであることが示され、米国に於いて国立衛生研究所の支援によるかゆみ研究センターが開設されるなど、かゆみ研究の重点化が世界的に始まっている。本事業では、かゆみに着目した本研究所の成果を基盤として、難治性かゆみの発生機序を解明し、予防・治療の方策を提言する。本事業を推進することは、環境要因関連疾患の発症機構の究明と国民生活の QOL 向上を目指した新技術開発の研究基盤構築に繋がることが期待される。

3 研究プロジェクトの進捗及び成果の概要

本事業は順調に進行しており、すでに難治性かゆみの発症機構に関する新知見及び治療・予防法の開発に結びつく標的分子や細胞を見出している。特に重要な成果を以下にあげる。①ヒト表皮角化細胞における神経反発因子 semaphorin 3A (Sema3A) の発現誘導因子 (ROR α アゴニスト、LL-37)を同定し、特許申請した。②セラミド代謝産物の sphingosine-1-phosphate (S1P)が、ケラチノサイトから炎症性サイトカインである TNF- α 産生を引き起こし、ヒスタミン非依存性のかゆみ刺激を誘発する endothelin-1 の産生を誘導することを発見した。③Leukotriene B4 (LTB4)で惹起されるかゆみに LTB4 receptor 1 (BLT1)が関与することを発見した。④アトピー性皮膚炎(AD)の皮膚 pH 上昇のメカニズムに表皮で発現する carbonic anhydrase III (CAIII)のニトロ化傷害が関与することを発見した。⑤表皮 pH が上昇すると kallikrein 5 (KLK5)が活性化され、protease-activated receptor 2 (PAR2)の開裂を介して thymic stromal lymphopoietin (TSLP)、interleukin-31 (IL-31)、nerve growth factor (NGF)などを増加させることで皮膚におけるかゆみ刺激を惹起することを発見した。⑥ヒスタミン非依存性のかゆみ情報はグルタミン酸、サブスタン P (SP)、gastrin-releasing peptide (GRP)によって脊髄後角に伝達されることを明らかにした。⑦脊髄内ミクログリアはADの難治性かゆみの治療標的に成り得ることを発見した。⑧伝染性のかゆみに関与するヒトの脳部位として大脳基底核、島回、中脳における活動が増加することを発見した。⑨かゆい部位を搔くことに伴う快感時に、報酬系、快楽中枢である中脳と線条体の脳活動が増強することを見出した。⑩第1次体性感覚野への経頭蓋直流電気刺激により、脳におけるかゆみ認知が抑制されることを発見した。⑪微量な新規生理活性脂質の高感度・高選択的な検出系の確立に成功した。今後、かゆみに関与する新規脂質メディエーターの同定に貢献することが期待される。

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

**平成25年度選定「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究進捗状況報告書**

1 学校法人名 順天堂 2 大学名 順天堂大学

3 研究組織名 環境医学研究所

4 プロジェクト所在地 千葉県浦安市富岡 2-1-1

5 研究プロジェクト名 難治性“かゆみ”の発症機構解明と予防・治療法開発の研究基盤構築

6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
高森建二	環境医学研究所	所長

8 プロジェクト参加研究者数 19 名

9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
高森建二	環境医学研究所・ 所長	知覚異常に基づくかゆみの 発生機序の解明と治療法の 開発	研究総括・かゆみ定量 法の開発
横溝岳彦	生化学・細胞機能 制御学・教授	生理活性脂質受容体を介し たかゆみ発症機序の解明	基礎医学からのアプロ ーチ(メディエーターと受 容体解析)
長岡 功	生化学・生体防御 学・教授	生体防御ペプチドによるマス ト細胞の活性化・かゆみ誘発 機構とその制御	基礎医学からのアプロ ーチ(メディエーターと受 容体解析)
森本幾夫	免疫病・がん先端 治療学・客員教授	CD26/DPPIV とサブスタンス P の相互作用による抗がん 剤によるかゆみに対する制 御機構	基礎医学からのアプロ ーチ(後天的遺伝子発現 変動解析)
樋野興夫	分子病理病態学・ 教授	形成的刺激(がん化とかゆ み)の分子機構の解明	基礎医学からのアプロ ーチ(後天的遺伝子発現 変動解析)
櫻井 隆	細胞・分子薬理学・ 教授	G タンパク質共役型受容体 のヘテロ複合体形成に着目 したかゆみ伝達の制御	基礎医学からのアプロ ーチ(オミックス解析)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

山倉文幸	医療看護学研究科・教授	環境要因がガス状メディエーターを介してかゆみを引き起こす機構の解明	基礎医学からのアプローチ(オミックス解析)
岩淵和久	医療看護学研究科・教授	皮膚疾患におけるケラチノサイト・セラミド代謝産物の役割の解明	基礎医学からのアプローチ(イメージング解析)
田部陽子	病態解析診断学・先任准教授	低線量放射線による慢性炎症とかゆみの発症、がん化誘導機構の解明	臨床医学からのアプローチ(環境発がん解析)
須賀 康	皮膚科学・アレルギー学・教授	乾癬患者におけるケラチノサイト・セラミド代謝酵素のエピジェネティクス解析	臨床医学からのアプローチ(皮膚疾患解析)
池田勝久	耳鼻咽喉科・教授	アレルギー性鼻炎・花粉症における鼻粘膜のかゆみ	臨床医学からのアプローチ(アレルギー疾患解析)
関川 巖	膠原病・リウマチ内科学・教授	全身性エリテマトーデスとの比較によるアトピー性皮膚炎の新たな病因論と治療戦略	臨床医学からのアプローチ(自己免疫疾患解析)
稲田英一	麻酔科学・教授	帯状疱疹患者におけるかゆみの発生機序の解明と治療法の開発	臨床医学からのアプローチ(ウイルス疾患解析)
北村庸雄	消化器内科学・先任准教授	胆汁うっ滞性肝・胆道疾患におけるかゆみの病態と制御機構の解明	臨床医学からのアプローチ(内臓疾患解析)
卜部貴夫	神経学・教授	虚血及びかゆみにおける神経軸索再生に関わる分子病態機構の解明	臨床医学からのアプローチ(脳疾患解析)
(共同研究機関等)			
柿木隆介	自然科学研究機構生理学研究所・教授	種々の神経イメージング手法を用いたかゆみの脳内認知機構の解明	機能的磁気共鳴画像を用いた脳内認知機構解明技術の提供
松田浩珍	東京農工大学大学院農学研究院・教授	新規搔破行動定量化装置を用いたアトピー性皮膚炎モデルマウスのかゆみメカニズムの分子解析	動物モデルを用いたかゆみ評価の開発と解析技術の提供
平林義雄	理化学研究所・BSI・チームリーダー	かゆみにおける新規生理活性脂質の役割	脂質メディエーターとその受容体に関する解析技術の提供
山口重樹	獨協医科大学・医学部・麻酔科学講座・教授	帯状疱疹に関連した痛みとかゆみが QOL に与える影響について	かゆみの臨床評価を目指した疫学調査協力

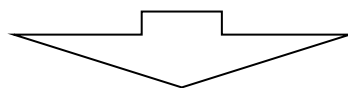
法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 年 月 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

11 研究進捗状況(※ 5枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

ヒトは、生活環境などの外的環境要因と、食生活や心理状態、臓器異常などの内的環境要因によって生じる様々なストレスに曝されている。順天堂大学大学院医学研究科環境医学研究所は、生体内外の環境要因が遺伝的要因と複雑に絡み合って生じる疾患(環境要因関連疾患)の発症機構の解明と、生活の質(QOL)の向上を目指した研究に取り組み、①環境要因による遺伝子発現の変動解析、②生体反応の変化の機構解明、③環境要因による影響の評価法の開発を目指して研究を進展させてきた。

環境要因関連疾患は、たとえ同じ遺伝的バックグラウンドを持っていても、生活習慣や生活環境等の後天的要因によって、発症の有無や症状が多様化するため、予防や治療に困難が伴うことが多い。痛みやかゆみ等の知覚障害は、がん、アレルギー疾患、ウイルス性疾患、内臓疾患、自己免疫疾患、皮膚疾患など様々な環境要因関連疾患に付随し、自己防衛反応や全身の異常を知らせるサインとして現れる生体反応である。近年、“難治性のかゆみ”が疾患発症に伴うだけではなく、抗がん剤療法や生物学的製剤などの治療に付随して生じ、不眠、自殺(願望)の増加、労働・勉学障害をもたらすなど、QOLを著しく低下させる深刻な問題として指摘されている。しかしながら、難治性かゆみの発症機構は未だに不明な点が多く、その治療は各疾患の病態に応じた対症療法であり、病因論に基づく疾患横断的な治療法の開発が切望されている。こうした背景から、2011年にアメリカ国立衛生研究所の支援を受けた“Center for the Study of Itch”が米国に設立されるなど、各国でかゆみ研究の重点化が始まっている。本研究所は、透析患者が示す難治性かゆみの抑制系受容体作動薬を開発することで、難治性かゆみが治療できることを世界で初めて示すとともに、生活環境の変化によるかゆみ発症の分子機構の解明に関する業績を上げるなど、難治性かゆみに関する研究分野では世界をリードしている。

本事業では、環境医学研究所の“かゆみ”に関連する研究成果を基盤とし、かゆみを各疾患の発症過程や治療過程で生じる生体からのサインと位置づけ、基礎医学と臨床医学の両方向からその発生機序を解明し、疾患横断的なかゆみ治療の方策を提言する。本事業を推進することは、生体応答のサインに由来する環境要因関連疾患の治療・予防法の開発に向けた標的分子やカスケードを見出す橋渡し研究(トランスレーショナルリサーチ)の基盤構築に繋がることが期待される。

(2) 研究組織

本事業では、高森建二研究代表による研究統括のもと、上記10に記載した役割分担の通り、環境医学研究所のプロジェクトにこれまで参画してきた基礎・臨床医学研究者の中から、“メディエーターと受容体解析”、“後天的遺伝子発現変動解析”、“オミックス解析”、“イメージング解析”、“疾患モデル解析”、“疾患の成因・病態形成機構の解明”を得意とする研究者15名をコアとしている。これに、かゆみ行動学の松田浩珍教授(東京農工大学)、脳イメージングの柿木隆介教授(生理学研究所)、神経生化学の平林義雄博士(理化学研究所)、知覚障害の臨床評価の山口重樹教授(獨協医科大学)の4名が学外研究者として参加することで、研究基盤形成の促進を図っている。また、定期的に会合(ワークショップ及びシンポジウム)を持ち、互いの研究課題の研究状況を討議することで、研究者間の有機的な連携を深めている。本事業では教職員11名、大学院生9名、PD11名、RA4名の若手研究者が環境医学研究所において、本事業に関連する研究を推進している。さらに、本事業に関連する研究課題を毎年度学内公募により採択することで、痒み研究の基礎医学・臨床医学の若手研究者の育成を図っている。外部評価は関連領域の外部有識者に委嘱し、プロジェクトの効率的な遂行を図っている。順天堂大学からの研究支援体制は整っており、文部科学省からの援助に見合う資金的援助も受けている。さらに、学外研究者とは共同研究契約を交わし、有機的に本事業を推進する体制となっている。

(3) 研究施設・設備等

当該拠点は、順天堂大学医学部附属浦安病院2号館8階に設置されている、大学院医学研究科附属施設である環境医学研究所を中心に研究施設の整備を図っている。更に、総面積747m²の実験室で、常時約40名の研究者が研究に従事している。本研究のために2013年度(平成25年度)以降に設置された主な研究装置と、その利用時間は以下の通りである。

- ① QTRAP6500 LC/MS/MS System: 4048時間(168.7時間/月)(2014/4/1~2016/3/31)
- ② 超解像レーザー顕微鏡 Gated STED アップグレードシステム: 901時間(34.7時間/月)(2014/2/9~2016/3/31)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

- ③ 蛍光細胞動態解析システム(TAXIScan-FLTM): 219 時間 (9.1 時間/月) (2014/4/1~2016/3/31)
 ④ SCLBA-Real システム: 1782 時間 (71 時間/月) (2014/3/27~2016/3/31)
 ⑤ SH800 細胞分取システム: 268 時間 (10.3 時間/月) (2014/2/1~2016/3/31)

(4)進捗状況・研究成果等 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

<現在までの進捗状況及び達成度>

1)高森らは、i) ヒト表皮角化細胞における神経反発因子 Sema3A の発現が転写因子 ROR α のアゴニスト及び抗菌ペプチド LL-37 によって誘導されることを見出した(*29, *31)。これら Sema3A 誘導因子がアトピー性皮膚炎(AD)やドライスキンに由来する難治性かゆみの外用治療薬における候補分子となることを示した。ii) かゆみの情報伝達に關与する神経伝達物質を *in vivo* 細胞外記録法により探索したところ、ヒスタミン非依存性のかゆみ情報は少なくともグルタミン酸、サブスタン P (SP)、gastrin-releasing peptide (GRP)によって脊髄後角に伝達されることを見出した(*106)。これら各受容体の拮抗薬を併用することで、脊髄レベルでの難治性かゆみ治療への応用が期待される。iii) AD モデル NC/Nga マウスの髄腔内にミクログリア活性化阻害剤であるミノサイクリンを投与したところ、かゆみ行動が抑制された(*1)。脊髄内ミクログリアは AD における難治性かゆみの治療標的に成り得ることを示した。2)近年、脊髄後角において G タンパク質共役型受容体(GPCR)の一種である GRP 受容体(GRPR)がかゆみの伝達に關与し、他の GPCR と相互作用することでかゆみ伝達を制御することが示唆されている。櫻井らは、神経細胞における異種 GPCR の相互作用とかゆみの伝達制御に注目した解析により、GRPR が代謝型グルタミン酸受容体 1 型(mGluR1)とアデノシン A1 受容体(A1R)が相互作用すること、mGluR1 と A1R は神経細胞や培養細胞上で相互に抑制し合うことを明らかにした(*57)。GRPR-mGluR1-A1R の三者複合体、および他の GPCR との相互作用により脊髄後角におけるかゆみ情報が制御される可能性を示した。3)横溝らは、i) LTB4 によって惹起されるかゆみ行動は、LTB4 受容体である BLT1 拮抗薬の ONO-4057 をマウスに事前投与することで消失したことから、LTB4 は BLT1 を介してかゆみを惹起することを見出した。BLT1 を標的とした難治性かゆみの治療法の開発に繋がること期待される。また、ii) アラキドン酸代謝産物の一斉定量解析を行う質量分析法を確立し、その分析法を用いて、関川、北村らと共同で乾癬や AD 患者、胆汁鬱滞モデル動物の血液検体におけるそれら代謝産物の変動を解析中である。4)長岡らは、LL-37 がマスト細胞に作用して脱顆粒やアラキドン酸カスケードの活性化を誘導するメカニズムの解明を行い、LL-37 が細胞表面のノイラミン酸との相互作用を介してマスト細胞内に移行して、脱顆粒を誘導することを見出した。この LL-37 による脱顆粒反応と LL-37 の取り込み反応の両方に Mas-related gene X2 が關与することが明らかとなり、マスト細胞における脱顆粒の新たな制御法に繋がることを示した。5)森本らは、高森、須賀らと協力して、i) CD26/DPPIV 分子によるかゆみの調節や CD26 とかゆみ誘導因子との相互作用について解析した。健常人と比べ、AD と乾癬の患者血清において可溶性 CD26 量は上昇しており、かゆみを惹起する神経ペプチド SP 及び GRP などを始め、かゆみ関連因子の発現上昇と相関を示した。特に、乾癬と比してケモカインの IP-10 が AD 特異的に上昇することを発見した。SP や GRP、IP-10 は CD26 の含む DPPIV 酵素の基質でもあり、CD26 はこれらかゆみ因子の切断を介してかゆみを調節する可能性が示された。ii) CD26 は AD 慢性化の原因因子 periostin と複合体を形成することも見出され、かゆみ疾患の慢性化に關与する可能性が示された。6)樋野らは、がん化とかゆみにおける形成的刺激の分子機構の解明を行い、正常中皮および上皮型中皮腫では発現しているが肉腫型では発現しない ERC/mesothelin (以下 ERC)を肉腫型中皮腫の培養細胞に強制発現させることで、epidermal growth factor receptor (EGFR) の発現が亢進することを発見した。近年、分子標的治療薬として用いられる EGFR 阻害剤の副作用として皮膚炎及び“かゆみ”が問題となっていることから、上皮型維持に關与する ERC は EGFR の発現を亢進させる作用があり、皮膚障害に対する防御効果を持つ可能性を示唆した。7)田部らは、低線量放射線による慢性炎症とかゆみの発症、がん化誘導機構の解明を行い、i) 低線量放射線ストレスに対してマイクロ RNA (miRNA)を介した遺伝子発現制御により前がん細胞の遺伝子・タンパク発現が変動することを発見した。また、ii) 生体微小環境は直接あるいは間接的に低線量放射線ストレス後の miRNA を介した遺伝子・タンパク発現の変動に關与することを見出した。RNA 分子が toll-like receptor 3 (TLR3)や TLR7 を介してかゆみを誘発すること、がんの発見に先立ってかゆみを発症する症例も存在することから、本成果は低線量放射線—がん—かゆみの関連性を示唆した。8)健常人と比べて、AD 患者の皮膚表面では pH が上昇するが、そのメカニズムについては不明である。山倉ら

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

は、高森らと協力して 酸化・ニトロ化ストレスに着目し、生体内の pH 調節に關与する carbonic anhydrase (CA)の一種である CAIII が AD モデル NC/Nga マウスの皮膚においてニトロ化傷害を受けることで、皮膚表面の pH を上昇させることを見出した(*132)。このニトロ化傷害は、AD の遺伝的素因がないコントロールマウスでは認められず、AD モデルマウスでは AD 発症以前から生じていた。このように CAIII のニトロ化傷害は AD の遺伝的素因と關係し、AD の発症機構そのものに関与することが示された。さらに、**9) 松田らは**、i) AD モデル NC/Tnd マウスでは皮膚炎の発症に伴い、皮膚表面 pH 及びバリア機能の指標となる経皮水分蒸散量が上昇すること、肉眼的皮膚病変が觀察される前から搔破行動が増加することを見出した。ii) 皮膚 pH が上昇した NC/Tnd マウスの皮膚では、表皮に存在するセリンプロテアーゼ KLK5 タンパク質の発現量及び酵素活性が亢進しており、KLK5 が PAR2 の開裂を促進して TSLP 産生を誘導することが示された(*25)。iii) Th2 型免疫反応を刺激するキーサイトカインであり、直接かゆみを惹起することが示唆されている TSLP を NC/Tnd マウスの皮内に注射すると、かゆみ行動が誘導された。また、TSLP の産生と同時に、かゆみ因子である IL-31 や表皮への知覚神経進展を誘導する神経成長因子 NGF の mRNA 発現量も増加することを見出した。表皮 pH が上昇すると KLK5 が活性化され、PAR2 の開裂を介して TSLP、IL-31、NGF などを増加させることでかゆみを惹起することが示された(*25)。**10) 岩淵、須賀らは**、かゆみを呈する皮膚疾患の表皮角化細胞におけるセラミド代謝産物の役割について検討した。その結果、S1P 刺激によって表皮角化細胞は TNF- α を産生し、分泌された TNF- α はその受容体を介して表皮角化細胞における起痒物質 endothelin-1 や IL-8 等の炎症性サイトカインやケモカイン産生を亢進することが示された(*134)。本成果により、セラミド代謝異常が難治性かゆみの発症に關与することが示唆された。**11) かゆみにおける新規生理活性脂質の役割を解明するため、平林らは**、微量な新規生理活性脂質ホスファチジルグルコシド(PtdGlc)及びそのホスホリパーゼ A2 消化によって得られるリゾ体(LPG)の高感度・高選択的な検出系樹立を試みた。LPG は極微量(10 nM 以下)で胎生期の感覚神経軸索末端の成長円錐に働いて反発応答を引き起こすが、成体での存在量は極めて少ないため、組織に多量に含まれる PE, PtdIns により検出が困難であった。これを解決するため、LC による分離と高感度質量分析計にイオンモビリティを組み合わせ、高感度・高選択的な分離検出を試み、成体からの PtdGlc 及び LPG 検出に成功した(*100)。QTRAP 6500 を用いて更なる極微量成分の生理活性を有する LPG の高感度・高選択的解析系を構築している。今後、慢性・難治性かゆみに關わる脂質メディエーターの同定に資する成果に繋がること期待される。**12) 鼻こすり(nasal salute)**は鼻の搔痒感によって誘発されるが、同時に鼻のかゆみの誘引物質を含む鼻汁を除去する防御反応の側面も持ち合わせている。**池田らは**、上気道炎症における鼻こすりの起因物質(鼻汁のかゆみ物質)の探索を BioPlex サスペンションアレイ測定にて行い、TSLP、MCP-1、G-CSF が鼻こすりのキーメディエーターであることを見出した。**13) 全身性エリテマトーデス(SLE)と AD の DNA 転写活性亢進時に DNA メチル化を規定する酵素活性(DNMT1)が低下し、miRNA がその転写統御に關連する。関川らは**、SLE 及び AD 患者の転写活性亢進における miRNA の役割を比較検討し、両疾患での病因における miRNA を介した epigenetic な共通性を探索する目的で、血中 miRNA の網羅的測定系を確立し、SLE 12 検体(血漿)中、治療前後で発現上昇する 28 種類の miRNA と、発現低下する 4 種類の miRNA を見出した。**14) 帯状疱疹後搔痒(PHI)の原因は炎症や神経障害によるものと考えられているがその詳細は不明である。稲田らは**、順天堂医院及び関連施設で PHI 患者にアンケート調査を実施し、i) PHI の発生数は急性期を過ぎたあとも残存することを明らかにした。次に、帯状疱疹後痛(PHN)患者において、PHI との關連についてアンケート調査を実施したところ、ii) PHI の発生率は、急性期に 71%、発症 1~4 ヶ月亜急性期に 48%、6 ヶ月以上の慢性期でも 51% 存在することを見出した。PHN の強さとかゆみの程度には相関がないことから、PHI の発生機序は PHN とは同一でないことが判明した。iii) 慢性期まで PHI が残存する患者では痛みも残存しており、神経障害性の機序が關与することが示唆された。**15) 帯状疱疹後に出現するかゆみの発現率や、そのかゆみが QOL や ADL(Activities of Daily Living) に及ぼす影響の詳細は不明である。山口らは**、i) 文献的考察を行ったところ、帯状疱疹罹患患者の一部に、痛みの軽減後に治療抵抗性のかゆみが発現し、そのかゆみによって QOL や ADL が著しく低下する可能性を示した。ii) 獨協医科大学病院通院中の帯状疱疹後神経痛患者においてかゆみを自覚する患者の割合を調べたところ、半数を超え、何らかの治療を必要とする状態にあった。iii) これらの患者において文献的にかゆみを軽減する可能性が指摘されているプレガバリン内服の有無について調べたところ、帯状疱疹後のかゆみに対するプレガバリン

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

の有効性が考えられた。上記の調査をもとに、現在、「帯状疱疹後のかゆみが QOL や ADL に及ぼす影響」、「帯状疱疹後のかゆみへのプレガバリンの効果」の2つの臨床研究を行っている。16)胆汁うっ滞による全身性のかゆみ(cholestatic itch)は従来胆汁酸に起因するものと考えられていた。近年では、リゾリン脂質である lysophosphatidic acid とその制御に関与する autotaxin に関心が寄せられている。北村らは、ラットの総胆管結紮モデルにおける搔破行動を定量的に解析することを試みた。ラットの総胆管結紮モデルを作製し、搔破行動を定量解析すると同時に、血中の脂質メディエーターのリピドミクス解析を行ったところ、搔破行動回数の多いモデルラットにおいて血中リゾリン脂質が上昇することを見出した。17)ト部らは、虚血及びかゆみにおける神経軸索再生に関わる分子病態機構の共通性に着目した。i) ラット慢性脳低灌流モデルを用いて、大脳白質障害における各種軸索マーカーの変動及び抗酸化作用を有する L-carnitine 投与による防御機構の検討を行った。L-carnitine 投与により大脳白質における脂質過酸化代謝産物と酸化的 DNA 障害は抑制され、PTEN/Akt/mTOR シグナル伝達系を制御して軸索マーカーであるリン酸化 neurofilament H の発現が増加することで軸索可塑性を増強することを発見した(*91)。ii) かゆみの病態に関連する神経反発因子 Sema3A の発現が急性脳梗塞モデルの虚血周辺部で一過性に増加した後、慢性期にかけて低下することを見出した。18)柿木らは、独自に開発した電気刺激によるかゆみ誘発装置と脳波、脳磁図、機能的 MRI および経頭蓋電気刺激を組み合わせ、ヒトの脳内かゆみ認知機構を研究した。i) 「かゆみが伝染するメカニズム」を解明するために、被験者に「かゆそうに見える画像」を提示したところ、かゆみを感じ「掻きたくなる気持ち」になり、その時に大脳基底核、島回、中脳における活動が増加することでかゆみを起こすことを発見した(*193)。ii) かゆい部位を掻いた時に快感を覚える時の脳活動を機能的 MRI により解析したところ、中脳と線条体といった「報酬系、快楽中枢」の活動が増強し、掻くときの快感はこの部位の活動によって生じることを見出した(*147)。iii) 経頭蓋直流電気刺激を第1次体性感覚野に与えることによりかゆみが抑制されることを見出し、かゆみの新しい治療法となる可能性を示した(*24)。

<特に優れた研究成果>

- ① 表皮角化細胞における Sema3A 発現誘導因子の発見とその誘導方法に関する特許申請
- ② AD の難治性かゆみに対する治療標的として脊髄ミクログリアを発見
- ③ LTB4 によるかゆみ発現に BLT1 が関与することを発見
- ④ S1P でケラチノサイトが起痒物質 endothelin-1 を産生することを発見
- ⑤ AD における皮膚 pH の上昇に表皮で発現する CAIII のニトロ化傷害が関与することを発見
- ⑥ 表皮 pH が上昇すると KLK5 が活性化され、PAR2 の開裂を介して TSLP、IL-31、NGF などを増加させることでかゆみを惹起することを発見
- ⑦ 「かゆみが伝染する」ときに活動が増強する脳部位として大脳基底核、島回、中脳を特定
- ⑧ かゆい部位を掻いた時に快感を覚える時、中脳と線条体といった「報酬系、快楽中枢」の脳活動が増強することを発見
- ⑨ 脳に外部から弱い電気刺激を与えることでかゆみが抑制されることを発見
- ⑩ 微量な新規生理活性脂質の高感度・高選択的な検出系の確立

<問題点とその克服方法>

本事業において各研究分担者から難治性かゆみの予防・治療法の開発に結び付く様々な分子や細胞が同定されている。しかしながら、これらは多様であり、互いの関連性についての解析は必ずしも進んではない。今後は、定期会合において互いの研究成果の関連性についての検討を実施するなどにより、研究者間の連携をより高めることで研究成果を統合し、予防・治療法の開発に向けて標的を絞った研究を展開する。

<研究成果の副次的効果(実用化や特許の申請など研究成果の活用の見直しを含む。)>

- ① 2014年8月から東レ株式会社と共に、承認済み医薬品化合物ライブラリーからの強力な Sema3A 誘導剤の同定と難治性かゆみ治療への応用に向けて共同研究を開始(高森)。
- ② 難治性皮膚潰瘍の新規治療薬として BLT2 作働薬に関する特許を出願中。2015年4月から興和株式会社と共に、難治性皮膚潰瘍治療薬の開発を目指した共同研究を開始(横溝)。
- ③ ヒト化 CD26 抗体は 2014年9月にフランスで施行していた悪性中皮腫をターゲットにした First in

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

Man 第1相臨床試験は終了し、安全性の確認、期待される効果を示唆する結果が得られた。PMDA とも対面助言を受け、2016年8月頃に本邦においても悪性中皮腫患者をターゲットにした第1相臨床試験を施行予定(森本)。

- ④ ヒト化 CD26 抗体適用患者選択としてのコンパニオン診断薬候補を開発し、現在ニチレイ株式会社とそのコンパニオン診断薬のキット開発を交渉中(森本)。
- ⑤ 日本農産(株)・富山大学医学部との機密保持契約を結んでの共同研究:抗 CTGF (Connective tissue growth factor) 抗体の乾癬や関節リウマチでの有効性を研究中(関川)。

<今後の研究方針>

前年度までの成果と中間評価を踏まえ、基礎研究の更なる展開と、臨床応用に向けた治療法及び予防法の開発研究を加速する。最終年度は、前年度までの本事業の成果を総括し、具体的な医療基盤技術の開発・応用に向けた探索の継続と提言を行う。具体的には、脂質メディエーターを中心とした難治性かゆみの標的分子とその受容体の更なる発見と、分子機構を解明することで、臨床応用を目指した研究を展開する。

<今後期待される研究成果>

本事業の遂行により、以下の成果が期待される。

- ① 末梢及び中枢神経系を標的とした難治性かゆみの治療法開発
- ② マスト細胞の脱顆粒を誘発する新規ペプチドの同定
- ③ GPCRs を標的とした難治性かゆみ治療薬の開発
- ④ AD 発症予防に向けた皮膚 pH 制御法の開発
- ⑤ アレルギー性鼻炎に伴う難治性かゆみの解消
- ⑥ 分子標的治療薬(EGFR 阻害剤)によって誘発されるかゆみの治療法開発
- ⑦ CD26/DPP IV に着眼した難治性かゆみの制御機構の解明と治療への応用
- ⑧ 脂質メディエーター・受容体システムを標的とする難治性かゆみ治療法の開発
- ⑨ 皮膚機能恒常性の維持に關与するグルコース化脂質の同定と機能解明
- ⑩ 帯状疱疹に伴う難治性かゆみの治療戦略の提言

<自己評価の実施結果及び対応状況>

高森研究代表の統括のもとで運営委員8名(櫻井、横溝、長岡、樋野、森本、関川、北村、岩渕)の体制で研究の進捗状況を常に検討している。各研究者は年度ごとに研究の進捗と今後の計画を報告し、運営会議において全体の進捗状況と問題点とその対応について討議し、事業計画の改善を図っている。基礎研究では、難治性かゆみに関連する標的分子や細胞の候補を見出しており、既に動物モデルを用いて臨床応用を目指した研究を開始した研究もある。また、極微量リポミクス解析技術の確立とともに、かゆみに関連する脂質メディエーターの探索研究も進展している。臨床研究では、本大学医学部倫理委員会にて包括的倫理申請の承認を得たのち(順大医倫第2013074号)、研究を開始した。当初は、臨床検体が順調には集まらない状況であったが、運営会議での協議に基づき浦安病院皮膚科等の協力を要請するなどの対応を実施したことにより、臨床検体数が集まりつつある。平成26年度からは血液検体を使用した共同研究も開始され、治療標的分子の候補が見出されつつある。また、胆汁鬱滞や乾癬のかゆみを呈する動物モデルを用いたかゆみに関する臨床応用に向けた研究に着手している。

<外部(第三者)評価の実施結果及び対応状況>

外部評価は五十嵐靖之(北海道大学)、出原賢治(佐賀大学)、塩田邦朗(東京大学)、丸山征郎(鹿児島大学)、Sandro Sonnino (University of Milan)の5名に委嘱し、運営会議及びワークショップ等において常に外部評価委員から評価を得ている。外部評価委員からの中間評価として、本事業が順調に進んでおり、難治性かゆみの治療に繋がる標的分子等を見出すなど研究内容は非常に優れているが、発見された分子等を統合した研究を進展させて臨床応用を目指すことが今後の課題であるとの講評を得ている(資料1)。それらの講評を運営会議において討議し、研究者間の連携をより高め、臨床応用を視野に入れて標的を絞った研究を展開することとした。

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- | | | |
|-----------------|-------------------|-----------------|
| (1) <u>知覚異常</u> | (2) <u>生理活性脂質</u> | (3) <u>GPCR</u> |
| (4) <u>脳内認知</u> | (5) <u>免疫応答</u> | (6) <u>帯状疱疹</u> |
| (7) <u>環境要因</u> | (8) <u>皮膚バリア</u> | |

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

【英文原著論文】

2016

高森建二

1. *Torigoe K, Tominaga M, Ko KC, Takahashi N, Matsuda H, Hayashi R, Ogawa H, Takamori K. Intrathecal minocycline suppresses itch-related behavior and improves dermatitis in atopic dermatitis model mouse. J Invest Dermatol. 2016; 136: 879-81. 査読有
2. Misery L, Ständer S, Szepietowski JC, Reich A, Wallengren J, Evers AW, Takamori K, Brenaut E, Gall-Ianotto CL, Fluhr J, Berardesca E, Weisshaar E. Definition of Sensitive Skin: an Expert Position Paper from the Special Interest Group on Sensitive Skin of the International Forum for the Study of Itch. Acta Derm Venereol. 2016; doi: 10.2340/00015555-2397. 査読有
3. Kamo A, Tominaga M, Matsuda H, Kina K, Kamata Y, Umehara Y, Ogawa H, Takamori K. Neurotrophin suppresses itch-related behavior in NC/Nga mice with atopic dermatitis-like symptoms. J Dermatol Sci. 2016; 81: 212-5. 査読有
4. Misaki K, Takamura-Enya T, Ogawa H, Takamori K, Yanagida M. Tumour-promoting activity of polycyclic aromatic hydrocarbons and their oxygenated or nitrated derivatives. Mutagenesis. 2016; 31: 205-13. 査読有

横溝岳彦

5. Chiba T, Nakahara T, Hashimoto-Hachiya A, Yokomizo T, Uchi H, Furue M. The leukotriene B4 receptor BLT2 protects barrier function via actin polymerization with phosphorylation of myosin phosphatase target subunit 1 in human keratinocytes. Exp Dermatol. 2016; doi: 10.1111/exd.12976. 査読有
6. Ichiki T, Koga T, Okuno T, Saeki K, Yamamoto Y, Yamamoto H, Sakaguchi M, Yokomizo T. Modulation of leukotriene B4 receptor 1 signaling by receptor for advanced glycation end products, RAGE. FASEB J. 2016; pii: fj.201500117 査読有
7. Ishii Y, Saeki K, Liu M, Sasaki F, Koga T, Kitajima K, Meno C, Okuno T, Yokomizo T. Leukotriene B4 receptor type 2 (BLT2) enhances skin barrier function by regulating tight junction proteins. FASEB J. 2016; 30: 933-47. 査読有

長岡 功

8. Suzuki K, Nagaoka I. The effect of human host defense peptide LL-37 on endothelial cells. Juntendo Med J. 2016; 62: in press. 査読有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

9. Tamura H, Reich J, Nagaoka I. Bacterial endotoxin assays relevant to host defense peptides. *Juntendo Med J*. 2016; 62: in press. 査読有
10. Kubomura D, Ueno T, Yamada M, Nagaoka I. Evaluation of the chondroprotective action of N-acetylglucosamine on a rat experimental osteoarthritis model. *Exp Ther Med*. 2016; in press. 査読有
11. Kubomura D, Ueno T, Yamada M, Tomonaga A, Nagaoka I. Effect of N-acetylglucosamine administration on cartilage metabolism and safety in healthy subjects without symptoms of arthritis: a randomized, double-blind, placebo-controlled study. *Exp Ther Med*. 2016; in press. 査読有
12. Suzuki K, Murakami T, Hu Z, Tamura H, Kuwahara-Arai K, Iba T, Nagaoka I. Human host defense cathelicidin peptide LL-37 enhances the lipopolysaccharide uptake by liver sinusoidal endothelial cells without cell activation. *J Immunol*. 2016; 196: 1338-47. 査読有
13. Hu Z, Murakami T, Suzuki K, Tamura H, Reich J, Kuwahara-Arai K, Iba T, Nagaoka I. Antimicrobial cathelicidin peptide LL-37 inhibits the pyroptosis of macrophages and improves the survival of polybacterial septic mice. *Int Immunol*. 2016; pii: dxv113. 査読有
14. Murakami T, Hu Z, Tamura H, Nagaoka I. Release mechanism of high mobility group nucleosome-binding protein 1 from lipopolysaccharide-stimulated macrophages. *Mol Med Rep*. 2016; 13: 3115-20. 査読有
15. Tomonaga A, Watanabe K, Fukagawa M, Suzuki A, Kurokawa M, Nagaoka I. Evaluation of the effect of N-acetyl-glucosamine administration on biomarkers for cartilage metabolism in healthy individuals without symptoms of arthritis: a randomized double-blind placebo-controlled clinical study. *Exp Ther Med*. 2016; in press. 査読有

樋野興夫

16. Aizawa Y, Shirai T, Kobayashi T, Hino O, Tsujii Y, Inoue H, Kazami M, Tadokoro T, Suzuki T, Kobayashi K, Yamamoto Y. The tuberous sclerosis complex model Eker (TSC2+/-) rat exhibits hyperglycemia and hyperketonemia due to decreased glycolysis in the liver. *Arch Biochem Biophys*. 2016; 590: 48-55. 査読有

山倉文幸

17. Takamiya S, Hashimoto M, Mita T, Yokota T, Nakajima Y, Yamakura F, Sugio S, Fujimura T, Ueno T, Yamasaki H. Bioinformatic identification of cytochrome b₅ homologues from the parasitic nematode *Ascaris suum* and the free-living nematode *Caenorhabditis elegans* highlights the crucial role of *A. suum* adult-specific secretory cytochrome b₅ in parasitic adaptation. *Parasitol Int*. 2016; 65: 113-20. 査読有

岩淵和久

18. Kitatani K, Iwabuchi K, Snider A, Riboni L. Editorial: Sphingolipids in Inflammation: From Bench to Bedside. *Mediators Inflamm*. 2016; 2016: 7602526. 査読有

田部陽子

19. Tabé Y, Hatanaka Y, Nakashiro M, Sekihara K, Yamamoto S, Matsushita H, Kazuno S, Fujimura T, Ikegami T, Nakanaga K, Matsumoto H, Ueno T, Aoki J, Yokomizo T, Konopleva M, Andreeff M, Miida T, Iwabuchi K, Sasai K. Integrative genomic and proteomic analyses identifies glycerol-3-phosphate acyltransferase as a target of low-dose ionizing radiation in EBV

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

infected-B cells. *Int J Radiat Biol.* 2016; 92: 24-34. 査読有

20. Horiuchi Y, Taba Y, Kasuga K, Maenou I, Idei M, Horii T, Miida T, Ohsaka A. The efficacy of an internet-based e-learning system using the CellaVision Competency Software for continuing professional development. *Clin Chem Lab Med.* 2016; 54: e127-31. 査読有

須賀 康

21. Ise Y, Suga Y, Okumura K, Negi O, Ishii N, Hashimoto T. Erythematous Variety of Bullous Pemphigoid: Case Report and Literature Review. *Acta Derm Venereol.* 2016; 96: 412-3. 査読有
22. Teye K, Suga Y, Numata S, Soejima M, Ishii N, Krol RP, Ohata C, Matsuda M, Honma M, Ishida-Yamamoto A, Hamada T, Koda Y, Hashimoto T. A founder deletion of corneodesmosin gene is prevalent in Japanese patients with peeling skin disease: identification of 2 new cases. *J Dermatol Sci.* 2016; doi: 10.1016/j.jdermsci.2016.01.012. 査読有

稲田先生

23. Hori N, Narita M, Yamashita A, Horiuchi H, Hamada Y, Kondo T, Watanabe M, Igarashi K, Kawata M, Shibasaki M, Yamazaki M, Kuzumaki N, Inada E, Ochiya T, Iseki M, Mori T, Narita M. Changes in the expression of IL-6-mediated microRNAs in the dorsal root ganglion under neuropathic pain in mice. *Synapse.* 2016; doi: 10.1002/syn.21902. 査読有

柿木先生

24. *Nakagawa K, Mochizuki H, Koyama S, Tanaka S, Sadato N, Kakigi R. Transcranial direct current stimulation over the sensorimotor cortex modulates the itch sensation induced by histamine. *Clin Neurophysiol.* 2016; 127: 827-32. 査読有

松田浩珍

25. *Jang H, Matsuda A, Jung K, Karasawa K, Matsuda K, Oida K, Ishizaka S, Ahn G, Amagai Y, Moon C, Kim SH, Arkwright PD, Takamori K, Matsuda H, Tanaka A. Skin pH Is the Master Switch of Kallikrein 5-Mediated Skin Barrier Destruction in a Murine Atopic Dermatitis Model. *J Invest Dermatol.* 2016; 136: 127-35. 査読有
26. Jang H, Makita Y, Jung K, Ishizaka S, Karasawa K, Oida K, Takai M, Matsuda H, Tanaka A. Linoleic acid salt with ultrapure soft water as an antibacterial combination against dermato-pathogenic *Staphylococcus* spp. *J Appl Microbiol.* 2016; 120: 280-8. 査読有

2015

高森建二

27. Ko KC, Tominaga M, Kamata Y, Umehara Y, Matsuda H, Takahashi N, Kina K, Ogawa M, Ogawa H, Takamori K. Possible anti-pruritic mechanisms of cyclosporine A in atopic dermatitis. *Acta Derm Venereol.* 2015; doi: 10.2340/00015555-2318. 査読有
28. Noguchi A, Tominaga M, Ko KC, Matsuda H, Suga Y, Ogawa H, Takamori K. Topical application of Tenshino-softgelTM reduces epidermal nerve fiber density in a chronic dry skin model mouse. *Journal of Cosmetics, Dermatological Sciences and Applications.* 2015; 5: 254-61. 査読有
29. *Umehara Y, Kamata Y, Tominaga M, Niyonsaba F, Ogawa H, Takamori K. Cathelicidin LL-37 induces semaphorin 3A expression in human epidermal keratinocytes: implications for possible application to pruritus. *J Invest Dermatol.* 2015; 135: 2887-90. 査読有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

30. Tominaga M, Takamori K. A report of the 1st Symposium and the 2nd Workshop on intractable Itch in Juntendo University. Juntendo Med J. 2015; 61: 353-357. 査読有
31. *Kamata Y, Tominaga M, Umehara Y, Negi O, Ogawa H, Takamori K. Retinoid-related orphan receptor alpha is involved in semaphorin 3A expression in normal human epidermal keratinocytes. J Dermatol Sci. 2015; 79: 84-6. 査読有
32. Hamamura K, Nonaka D, Ishikawa H, Banzai M, Yanagida M, Nojima M, Yoshida K, Lee LJ, Tanaka K, Takamori K, Takeda S, Yoshihiko A. ANNALS EXPRESS: Simple quantitation for potential serum disease biomarker peptides, primarily identified by a peptidomics approach in the serum with hypertensive disorders of pregnancy. Ann Clin Biochem. 2015; pii: 0004563215583697. 査読有

横溝岳彦

33. Hori T, Nakamura M, Yokomizo T, Shimizu T, Miyano M. The leukotriene B4 receptor BLT1 is stabilized by transmembrane helix capping mutations. Biochem Biophys Rep. 2015; 4: 243-9. 査読有
34. Kubota S, Watanabe M, Shirato M, Okuno T, Higashimoto I, Machida K, Yokomizo T, Inoue H. An inhaled phosphodiesterase 4 inhibitor E6005 suppresses pulmonary inflammation in mice. Eur J Pharmacol. 2015; 768: 41-8. 査読有
35. Sawada Y, Honda T, Hanakawa S, Nakamizo S, Murata T, Ueharaguchi-Tanada Y, Ono S, Amano W, Nakajima S, Egawa G, Tanizaki H, Otsuka A, Kitoh A, Dainichi T, Ogawa N, Kobayashi Y, Yokomizo T, Arita M, Nakamura M, Miyachi Y, Kabashima K. Resolvin E1 inhibits dendritic cell migration in the skin and attenuates contact hypersensitivity responses. J Exp Med. 2015; 212: 1921-30. 査読有
36. Asahara M, Ito N, Yokomizo T, Nakamura M, Shimizu T, Yamada Y. The absence of the leukotriene B4 receptor BLT1 attenuates peripheral inflammation and spinal nociceptive processing following intraplantar formalin injury. Mol Pain. 2015; 11: 11. 査読有
37. Okuno T, Ishitani T, Yokomizo T. Biochemical Characterization of Three BLT Receptors in Zebrafish. PLoS One. 2015; 10: e0117888. 査読有
38. Zandi S, Nakao S, Chun KH, Fiorina P, Sun D, Arita R, Zhao M, Kim E, Schueller O, Campbell S, Taher M, Melhorn MI, Schering A, Gatti F, Tezza S, Xie F, Vergani A, Yoshida S, Ishikawa K, Yamaguchi M, Sasaki F, Schmidt-Ullrich R, Hata Y, Enaida H, Yuzawa M, Yokomizo T, Kim YB, Sweetnam P, Ishibashi T, Hafezi-Moghadam A. ROCK-Isoform-Specific Polarization of Macrophages Associated with Age-Related Macular Degeneration. Cell Rep. 2015; 10: 1173-86. 査読有

長岡 功

39. Yamaguchi K, Kumakura S, Murakami T, Someya A, Inada E, Nagaoka I. Ketamine suppresses the substance P-induced production of IL-6 and IL-8 by human U373MG astrocytoma cells. Int J Mol Med. 2015; in press. 査読有
40. Iba T, Hashiguchi N, Nagaoka I, Tabe Y, Kadota K, Sato K. Heparins attenuated

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

- histone-mediated cytotoxicity in vitro and improved the survival in a rat model of histone-induced organ dysfunction. *Intensive Care Med Exp.* 2015; 3: 36. 査読有
41. Hosoda H, Tamura H, Nagaoka I. Evaluation of the lipopolysaccharide-induced transcription of human TREM-1 gene in vitamin D3-matured THP-1 macrophage-like cells. *Int J Mol Med.* 2015; 36: 1300-10. 査読有
42. Miyamoto M, Takano M, Iwaya K, Shinomiya N, Goto T, Kato M, Suzuki A, Aoyama T, Hirata J, Nagaoka I, Tsuda H, Furuya K. High-temperature-required protein A2 as a predictive marker for response to chemotherapy and prognosis in patients with high-grade serous ovarian cancers. *Br J Cancer.* 2015; 112: 739-44. 査読有
43. Nagura N, Komatsu J, Iwase H, Hosoda H, Ohbayashi O, Nagaoka I, Kaneko K. Effects of the combination of vitamin K and teriparatide on the bone metabolism in ovariectomized rats. *Biomed Rep.* 2015; 3: 295-300. 査読有

森本幾夫

44. Katayose T, Iwata S, Oyaizu N, Hosono O, Yamada T, Dang NH, Hatano R, Tanaka H, Ohnuma K, Morimoto C. DPP4 in anti-tumor immunity: going beyond the enzyme. *Nat Immunol.* 2015; 16: 791-2. 査読有
45. Hatano R, Ohnuma K, Otsuka H, Komiya E, Taki I, Iwata S, Dang NH, Okumura K, Morimoto C. CD26 mediated induction of EGR2 and IL-10 as potential regulatory mechanism for CD26 costimulatory pathway. *J Immunol.* 2015; 194: 960-72. 査読有
46. Ohnuma K, Saito T, Hatano R, Hosono O, Iwata S, Dang NH, Ninomiya H, Morimoto C. Comparison of two commercial ELISAs against an in-house ELISA for measuring soluble CD26 in human serum. *J Clin Lab Anal.* 2015; 29: 106-11. 査読有
47. Otsuki N, Iwata S, Yamada T, Hosono O, Dang NH, Hatano R, Ohnuma K, Morimoto C. Modulation of immunological responses and amelioration of collagen-induced arthritis by the novel roxithromycin derivative 5-I. *Mod Rheumatol.* 2015; 25: 562-70. 査読有
48. Ohnuma K, Hatano R, Aune TM, Otsuka H, Iwata S, Dang NH, Yamada T, Morimoto C. Regulation of pulmonary GVHD by IL-26⁺ CD4 T lymphocytes through CD26/caveolin-1 interaction. *J Immunol.* 2015; 194: 3697-712. 査読有
49. Katayose T, Iwata S, Oyaizu N, Hosono O, Yamada T, Dang NH, Hatano R, Tanaka H, Ohnuma K, Morimoto C. The role of Cas-L/NEDD9 as a regulator of collagen-induced arthritis in a murine model. *Biochem Biophys Res Commun.* 2015; 460: 1069-75. 査読有

樋野興夫

50. Imai M, Hino O. "Environmental carcinogenesis-100th anniversary of creating cancer." *Cancer Sci.* 2015; 106: 1483-5. 査読有
51. Kawano H, Ito Y, Kanai F, Nakamura E, Tada N, Takai S, Horie S, Kobayashi T, Hino O. Aberrant differentiation of Tsc2-deficient teratomas associated with activation of the mTORC1-TFE3 pathway. *Oncol Rep.* 2015; 34: 2251-8. 査読有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

52. Horimoto Y, Arakawa A, Tanabe M, Kuroda K, Matsuoka J, Igari F, Himuro T, Yoshida Y, Tokuda E, Shimizu H, Hino O, Saito M. Menstrual cycle could affect Ki67 expression in estrogen receptor-positive breast cancer patients. *J Clin Pathol*. 2015; 68: 825-9. 査読有
53. Ito Y, Kawano H, Kanai F, Nakamura E, Tada N, Takai S, Horie S, Arai H, Kobayashi T, Hino O. Establishment of Tsc2-deficient rat embryonic stem cells. *Int J Oncol*. 2015; 46: 1944-52. 査読有
54. Saeki H, Suzuki C, Yamasaki S, Hashizume A, Izumi H, Suzuki F, Ishi K, Nojima M, Hino O. Cotyledonoid dissecting leiomyoma of the uterus: report of two case. *Arch Gynecol Obstet*. 2015; 291: 357-61. 査読有
55. Sugiura H, Yasuda S, Katsurabayashi S, Kawano H, Endo K, Takasaki K, Iwasaki K, Ichikawa M, Kobayashi T, Hino O, Yamagata K. Rheb activation disrupts spine synapse formation through accumulation of syntenin in tuberous sclerosis complex. *Nat Commun*. 2015; 6: 6842. 査読有
56. Horimoto Y, Arakawa A, Harada-Shoji N, Sonoue H, Yoshida Y, Himuro T, Igari F, Tokuda E, Mamat O, Tanabe M, Hino O, Saito M. Low FOXA1 expression predicts good response to neo-adjuvant chemotherapy resulting in good outcomes for luminal HER2-negative breast cancer cases. *Br J Cancer*. 2015; 112: 345-51. 査読有

櫻井 隆

57. *Kamikubo Y, Tabata T, Sakairi H, Hashimoto Y, Sakurai T. Complex formation and functional interaction between adenosine A1 receptor and type-1 metabotropic glutamate receptor. *J Pharmacol Sci*. 2015; 128: 125-30. 査読有

山倉文幸

58. Uda M, Kawasaki H, Iizumi K, Shigenaga A, Baba T, Naito H, Yoshioka T, Yamakura-F. Sumoylated α -skeletal muscle actin in the skeletal muscle of adult rats. *Mol Cell Biochem*. 2015; 409: 59-66. 査読有

岩淵和久

59. Iwabuchi K, Nakayama H, Oizumi A, Suga Y, Ogawa H, Takamori K. Role of Ceramide from Glycosphingolipids and Its Metabolites in Immunological and Inflammatory Responses in Humans. *Mediators Inflamm*. 2015; 2015: 120748. doi: 10.1155/2015/120748. 査読有
60. Iwabuchi K. Involvement of glycosphingolipid-enriched lipid rafts in inflammatory responses. *Front Biosci (Landmark Ed)*. 2015; 20: 325-34. 査読有
61. Ekyalongo RC, Nakayama H, Kina K, Kaga N, Iwabuchi K. Organization and functions of glycolipid-enriched microdomains in phagocytes. *Biochim Biophys Acta*. 2015; 1851: 90-7. 査読有
62. Chiricozzi E, Ciampa MG, Brasile G, Compostella F, Prinetti A, Nakayama H, Ekyalongo RC, Iwabuchi K, Sonnino S, Mauri L. Direct interaction, instrumental for signaling processes, between LacCer and Lyn in the lipid rafts of neutrophil-like cells. *J Lipid Res*. 2015; 56: 129-41. 査読有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

63. Iwabuchi K, Masuda H, Kaga N, Nakayama H, Matsumoto R, Iwahara C, Yoshizaki F, Tamaki Y, Kobayashi T, Hayakawa T, Ishii K, Yanagida M, Ogawa H, Takamori K. Properties and Functions of Lactosylceramide from Mouse Neutrophils. *Glycobiology*. 2015; 25: 655-68. 査読有
64. Murate M, Abe M, Kasahara K, Iwabuchi K, Umeda M, Kobayashi T. Transbilayer lipid distribution in nano scale. *J Cell Sci*. 2015; 128: 1627-3820. 査読有

田部陽子

65. Hayashi K, Tabe Y, Miida T. Impact of clotting condition on the measurement of circulating microRNAs in serum. *Clin Lab*. 2015; in press. 査読有
66. Yokoo M, Kubota Y, Motoyama K, Higashi T, Taniyoshi M, Tokumaru H, Nishiyama R, Tabe Y, Mochinaga S, Sato A, Sueoka-Aragane N, Sueoka E, Arima H, Irie T, Kimura S. 2-Hydroxypropyl- β -Cyclodextrin Acts as a Novel Anticancer Agent. *PLoS One*. 2015; 10: e0141946. 査読有
67. Harada M, Benito J, Yamamoto S, Kaur S, Arslan D, Ramirez S, Jacamo R, Platanius L, Matsushita H, Fujimura T, Kazuno S, Kojima K, Tabe Y, Konopleva M. The novel combination of dual mTOR inhibitor AZD2014 and pan-PIM inhibitor AZD1208 inhibits growth in acute myeloid leukemia via HSF pathway suppression. *Oncotarget*. 2015; 6: 37930-47. 査読有
68. Tabe Y, Kojima K, Yamamoto S, Sekihara K, Matsushita H, Davis RE, Wang Z, Ma W, Ishizawa J, Kazuno S, Kauffman M, Shacham S, Fujimura T, Ueno T, Miida T, Andreeff M. Ribosomal Biogenesis and Translational Flux Inhibition by the Selective Inhibitor of Nuclear Export (SINE) XPO1 Antagonist KPT-185. *PLoS One*. 2015; 10: e0137210. 査読有
69. Yuri M, Tabe Y, Tsuchiya K, Sadatsuki R, Aoki J, Horii T, Iba T, Ohsaka A. Evaluation of Factor Xa-Specific Chromogenic Substrate Assays and the Determination of Pharmacokinetics of Fondaparinux. *Clin Appl Thromb Hemost*. 2015; pii: 1076029615595878. 査読有
70. Yokoo M, Kubota Y, Tabe Y, Kimura S. Comparative study of the anti-leukemic effects of imatinib mesylate, GlivecTM tablet and its generic formulation, OHK9511. *Biol Pharm Bull*. 2015; 38: 411-6. 査読有
71. Tabe Y, Konopleva M. Role of microenvironment in resistance to therapy in AML. *Curr Hematol Malig Rep*. 2015; 10: 96-103. 査読有
72. Tabe Y, Yamamoto T, Maenou I, Nakai R, Idei M, Horii T, Miida T, Ohsaka A. Performance evaluation of the digital cell imaging analyzer DI-60 integrated into the fully automated Sysmex XN hematology analyzer system. *Clin Chem Lab Med*. 2015; 53: 281-9. 査読有
73. Yamada H, Tabe Y, Terao Y, Yamashita Y, Horii T, Takeda S, Ohsaka A. Clinical performance evaluation of a high-risk human papillomavirus genotyping test "Clinichip HPV" using cervical scrape specimens. *Clin Lab*. 2015; 61: 851-5. 査読有
74. Yamada H, Tabe Y, Watanabe K, Morishita S, Yuri M, Yokoo M, Horii T, Shimizu N, Kimura S, Ohsaka A. Harmonization of quantitative BCR-ABL measurements using the secondary reference material anchored to the WHO primary standards. *Int J Lab Hematol*. 2015; 37: e29-33. 査読有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

須賀 康

75. Okamura K, Abe Y, Fukai K, Tsuruta D, Suga Y, Nakamura M, Funasaka Y, Oka M, Suzuki N, Wataya-Kaneda M, Seishima M, Hozumi Y, Kawaguchi M, Suzuki T. Mutation analyses of patients with dyschromatosis symmetrica hereditaria: Ten novel mutations of the ADAR1 gene. J Dermatol Sci. 2015; 79: 88-90. 査読有
76. Hayashi R, Inoue A, Suga Y, Aoki J, Shimomura Y. Analysis of unique mutations in the LPAR6 gene identified in a Japanese family with autosomal recessive woolly hair/hypotrichosis: Establishment of a useful assay system for LPA6. J Dermatol Sci. 2015; 78: 197-205. 査読有
77. Kimura U, Yokoyama K, Hiruma M, Kano R, Takamori K, Suga Y. Tinea Faciei Caused by Trichophyton mentagrophytes (Molecular Type Arthroderma benhamiae) Mimics Impetigo: A Case Report and Literature Review of Cases in Japan. Med Mycol J. 2015; 56: E1-5. 査読有

池田勝久

78. Ikeda K, Misawa N. Comparative Bactericidal Activity of three Fluoroquinolones against Streptococcus pneumoniae and Hemophilus influenzae isolated from Acute Bacterial Rhinosinusitis. J Otol Rhinol. 2015; S1:3-5. 査読有
79. Ikeda K, Kusunoki T, Saitoh T, Yao T, Kase K, Minekawa A, Inoshita A, Yokoi H, Kawano K. Effectiveness of Glucocortico- steroid for Postoperative Recurrence of Nasal Polyps in Chronic Rhinosinusitis associated with Asthma. J Otol Rhinol. 2015; S1: 6-9. 査読有
80. Kusunoki T, Ono N, Ikeda K. Correlations between Cu, Zn-Superoxide dismutase and Macrophages or MUC5AC in Human Eosinophilic Chronic Rhinosinusitis. J Otol Rhinol. 2015; S1: 10-4. 査読有
81. Miwa M, Ono N, Sasaki D, Shiozawa A, Miwa M, Ikeda K. Peroxide Tone in Human Inferior Nasal Turbinate with Allergy. J Otol Rhinol. 2015; S1: 15-19. 査読有
82. Miwa M, Sasaki D, Hirotsu M, Ono N, Shiozawa A, Miwa M, Ikeda K. Changes in Contents of Arachidonic Acid Metabolites in Nasal Lavage and Mucosal Tissues in response to Allergen Challenge in Patients with Allergic Rhinitis. J Otol Rhinol. 2015; S1: 20-5. 査読有
83. Ikeda K, Misawa S, Kusunoki T. Comparative bactericidal activity of four fluoroquinolones against Pseudomonas aeruginosa isolated from chronic suppurative otitis media. BMC Ear Nose Throat Disord. 2015; 15: 5. 査読有.
84. Tokunaga T, Sakashita M, Haruna T, Asaka D, Takeno S, Ikeda H, Nakayama T, Seki N, Ito S, Murata J, Sakuma Y, Yoshida N, Terada T, Morikura I, Sakaida H, Kondo K, Teraguchi K, Okano M, Otori N, Yoshikawa M, Hirakawa K, Haruna S, Himi T, Ikeda K, Ishitoya J, Iino Y, Kawata R, Kawauchi H, Kobayashi M, Yamasoba T, Miwa T, Urashima M, Tamari M, Noguchi E, Ninomiya T, Imoto Y, Morikawa T, Tomita K, Takabayashi T, Fujieda S. Novel scoring system and algorithm for classifying chronic rhinosinusitis: the JESREC Study. Allergy. 2015; 70: 995-1003. 査読有
85. Shiozawa A, Miwa M, Ono N, Homma H, Hirotsu M, Ikeda K. Comparative analysis of cytokine release from epithelial cell cultures of the upper airway. Rhinology. 2015; 53: 135-41. 査読有

関川 巖

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

86. Yamada Y, Nozawa K, Nakano S, Mitsuo Y, Hiruma K, Doe K, Sekigawa I, Yamanaka K, Takasaki Y. Antibodies to Microtubule Associated Protein-2 in the Cerebrospinal Fluid are a Useful Diagnostic Biomarker for Neuropsychiatric Systemic Lupus Erythematosus. *Mod Rheumatol*. 2015; 14: 1-29. 査読有
87. Miyashita T, Morimoto S, Fujishiro M, Hayakawa K, Suzuki S, Ikeda K, Miyazawa K, Morioka M, Takamori K, Ogawa H, Sekigawa I, Takasaki Y. Inhibition of each module of connective tissue growth factor as a potential therapeutic target for rheumatoid arthritis. *Autoimmunity*. 2015; 19: 1-6. 査読有
88. Nakano S, Morimoto S, Suzuki S, Tsushima H, Yamanaka K, Sekigawa I, Takasaki Y. Immunoregulatory role of IL-35 in T cells of patients with rheumatoid arthritis. *Rheumatology (Oxford)*. 2015; 54: 1498-506. 査読有
89. Suzuki S, Morimoto S, Fujishiro M, Kawasaki M, Hayakawa K, Miyashita T, Ikeda K, Miyazawa K, Yanagida M, Takamori K, Ogawa H, Sekigawa I, Takasaki Y. Inhibition of the insulin-like growth factor system is a potential therapy for rheumatoid arthritis. *Autoimmunity*. 2015; 48: 251-8. 査読有

北村庸雄

90. Kagawa T, Hirose S, Arase Y, Oka A, Anzai K, Tsuruya K, Shiraishi K, Orii R, Ieda S, Nakazawa T, Tomita K, Hokari R, Miura S, Ebinuma H, Saito H, Kitamura T, Horie Y, Okuse C, Wasada M, Inoko H, Tohkin M, Saito Y, Maekawa K, Takikawa H, Mine T. No Contribution of the ABCB11 p.444A Polymorphism in Japanese Patients with Drug-Induced Cholestasis. *Drug Metab Dispos*. 2015; 43: 691-7. 査読有

卜部貴夫

91. * Ueno Y, Koike M, Shimada Y, Shimura H, Hira K, Tanaka R, Uchiyama Y, Hattori N, Urabe T. L-carnitine enhances axonal plasticity and improves white-matter lesions after chronic hypoperfusion in rat brain. *J Cereb Blood Flow Metab*. 2015; 35: 382-91. 査読有
92. Yatomi Y, Tanaka R, Shimada Y, Yamashiro K, Liu M, Mitome-Mishima Y, Miyamoto N, Ueno Y, Urabe T, Hattori N. Type 2 diabetes reduces the proliferation and survival of oligodendrocyte progenitor cells in ischemic white matter lesions. *Neuroscience*. 2015; 289: 214-23. 査読有
93. Mitome-Mishima Y, Oishi H, Yamamoto M, Yatomi K, Nonaka S, Miyamoto N, Urabe T, Arai H. Differences in tissue proliferation and maturation between Matrix2 and bare platinum coil embolization in experimental swine aneurysms. *J Neuroradiol*. 2015; doi: 10.1016/j.neurad.2015.04.003. 査読有
94. Tanaka R, Yamashiro K, Okuma Y, Shimura H, Nakamura S, Ueno Y, Tanaka Y, Miyamoto N, Tomizawa Y, Nakahara T, Furukawa Y, Watada H, Kawamori R, Hattori N, Urabe T. Effects of pioglitazone for secondary stroke prevention in patients with impaired glucose tolerance and newly diagnosed diabetes: The J-SPIRIT Study. *J Atheroscler Thromb*. 2015; 22: 1305-16. 査読有
95. Ueno Y, Tanaka R, Yamashiro K, Shimada Y, Kuroki T, Hira K, Urabe T, Hattori N. Impact of BNP on cryptogenic stroke without potential embolic sources on transesophageal echocardiography. *J Neurol Sci*. 2015; 359: 287-92. 査読有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

松田浩珍

96. Matsuda K, Orito K, Amagai Y, Jang H, Matsuda H, Tanaka A. Swing time ratio, a new parameter of gait disturbance, for the evaluation of the severity of neuropathic pain in a rat model of partial sciatic nerve ligation. *J Pharmacol Toxicol Methods*. 2015; 79: 7-14. 査読有
97. Ahn G, Amagai Y, Matsuda A, Kang SM, Lee WW, Jung K, Oida K, Ishizaka S, Matsuda K, Jeon YJ, Jee Y, Matsuda H, Tanaka A. Dieckol, a phlorotannin of *Ecklonia cava*, suppresses IgE-mediated mast cell activation and passive cutaneous anaphylactic reaction. *Exp Dermatol*. 2015; 24: 968-970. 査読有
98. Tanaka A, Matsuda A, Jung K, Jang H, Ahn G, Ishizaka S, Amagai Y, Oida K, Arkwright PD, Matsuda H. Ultra-pure soft water ameliorates atopic skin disease by preventing metallic soap deposition in NC/Tnd mice and reduces skin dryness in humans. *Acta Derm Venereol*. 2015; 95: 787-91. 査読有
99. Amagai Y, Oida K, Matsuda A, Jung K, Kakutani S, Tanaka T, Matsuda K, Jang H, Ahn G, Xia Y, Kawashima H, Shibata H, Matsuda H, Tanaka A. Dihomo- γ -linolenic acid prevents the development of atopic dermatitis through prostaglandin D1 production in NC/Tnd mice. *J Dermatol Sci*. 2015; 79: 30-7. 査読有

平林義雄

100. *Guy AT, Nagatsuka Y, Ooashi N, Inoue M, Nakata A, Greimel P, Inoue A, Nabetani T, Murayama A, Ohta K, Ito Y, Aoki J, Hirabayashi Y, Kamiguchi H. NEURONAL DEVELOPMENT. Glycerophospholipid regulation of modality-specific sensory axon guidance in the spinal cord. *Science*. 2015; 349: 974-7. 査読有

2014

高森建二

101. Kamo A, Tominaga M, Kamata Y, Kaneda K, Ko KC, Matsuda H, Kimura U, Ogawa H, Takamori K. The excimer lamp induces cutaneous nerve degeneration and reduces scratching in a dry-skin mouse model. *J Invest Dermatol*. 2014; 134: 2977-84. 査読有
102. Akiyama T, Tominaga M, Takamori K, Iodi Carstens M, Carstens E. Role of spinal bombesin-responsive neurons in non-histaminergic itch. *J Neurophysiol*. 2014; 112: 2283-9. 査読有
103. Hiruma J, Kano R, Kimura U, Takamori K, Suga Y, Hiruma M, Hasegawa A, Tsuboi R. Mating type gene for isolates of *Trichophyton mentagrophytes* from guinea pigs. *J Dermatol*. 2014; 41: 743-5. 査読有
104. Kimura U, Takeuchi K, Kinoshita A, Takamori K, Suga Y. Long-pulsed 1064-nm neodymium:yttrium-aluminum-garnet laser treatment for refractory warts on hands and feet. *J Dermatol*. 2014; 41: 252-7. 査読有
105. Kamo A, Negi O, Tengara S, Kamata Y, Noguchi A, Ogawa H, Tominaga M, Takamori K. Histamine H₄ receptor antagonists ineffective against itch and skin inflammation in atopic

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

dermatitis mouse model. J Invest Dermatol. 2014; 134: 546-8. 査読有

106. * Akiyama T, Tominaga M, Takamori K, Carstens MI, Carstens E. Roles of glutamate, substance P and gastrin releasing peptide as spinal neurotransmitters of histaminergic and non-histaminergic itch. Pain. 2014; 155: 80-92. 査読有

横溝 岳彦

107. Back M, Powell WS, Dahlen SE, Drazen JM, Evans JF, Serhan CN, Shimizu T, Yokomizo T, Rovati GE. Update on leukotriene, lipoxin and oxoeicosanoid receptors: IUPHAR Review 7. Br J Pharmacol. 2014; 171: 3551-74. 査読有
108. Dugu L, Nakahara T, Wu Z, Uchi H, Liu M, Hirano K, Yokomizo T, Furue M. Neuronatin is related to keratinocyte differentiation by up-regulating involucrin. J Dermatol Sci. 2014; 73: 225-31. 査読有
109. Liu M, Saeki K, Matsunobu T, Okuno T, Koga T, Sugimoto Y, Yokoyama C, Nakamizo S, Kabashima K, Narumiya S, Shimizu T, Yokomizo T. 12-hydroxyheptadecatrienoic acid promotes epidermal wound healing by accelerating keratinocyte migration via the BLT2 receptor. J Exp Med. 2014; 211: 1063-78. 査読有
110. Obinata H, Gutkind S, Stitham J, Okuno T, Yokomizo T, Hwa J, Hla T. Individual variation of human S1P1 coding sequence leads to heterogeneity in receptor function and drug interactions. J Lipid Res. 2014; 55: 2665-75. 査読有
111. Sato Y, Hara H, Okuno T, Ozaki N, Suzuki S, Yokomizo T, Kaisho T, Yoshida H. IL-27 affects helper T cell responses via regulation of PGE2 production by macrophages. Biochem Biophys Res Commun. 2014; 451: 215-21. 査読有

長岡 功

112. Ochiai T, Nishimura K, Watanabe T, Kitajima M, Nakatani A, Sato T, Kishine K, Futagawa S, Mashiko S, Nagaoka I. Mechanism underlying the transient increase of serum iron during FOLFOX/FOLFIRI therapy. Mol Clin Oncol. 2014; 2: 968-72. 査読有
113. Iba T, Miki T, Hashiguchi N, Tabé Y, Nagaoka I. Combination of antithrombin and recombinant thrombomodulin modulates neutrophil cell-death and decreases circulating DAMPs levels in endotoxemic rats. Thromb Res. 2014; 134: 169-73. 査読有
114. Hu Z, Murakami T, Suzuki K, Tamura H, Kuwahara-Arai K, Iba T, Nagaoka I. Antimicrobial cathelicidin peptide LL-37 inhibits the LPS/ATP-induced pyroptosis of macrophages by dual mechanism. PLoS One. 2014; 9: e85765. 査読有
115. Iba T, Miki T, Hashiguchi N, Yamada A, Nagaoka I. Combination of antithrombin and recombinant thrombomodulin attenuates leukocyte-endothelial interaction and suppresses the increase of intrinsic damage-associated molecular patterns in endotoxemic rats. J Surg Res. 2014; 187: 581-6. 査読有
116. Iba T, Nagaoka I, Yamada A, Nagayama M, Miki T. Effect of hemoperfusion using polymyxin

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

B-immobilized fibers on acute lung injury in a rat sepsis model. *Int J Med Sci.* 2014; 11: 255-61.
 査読有

森本幾夫

117. Okamoto T, Iwata S, Yamazaki H, Hatano R, Komiya E, Dang NH, Ohnuma K, Morimoto C. CD9 Negatively Regulates CD26 Expression and Inhibits CD26-Mediated Enhancement of Invasive Potential of Malignant Mesothelioma cells. *PLoS One.* 2014; 9: e86671. 査読有
118. Hatano R, Yamada T, Matsuoka S, Iwata S, Yamazaki H, Komiya E, Okamoto T, Dang NH, Ohnuma K, Morimoto C. Establishment of monoclonal anti-human CD26 antibodies suitable for immunostaining of formalin-fixed tissue. *Diagn Pathol.* 2014; 9: 30. 査読有
119. Kwan JC, Liu Y, Ratnayake R, Hatano R, Kuribara A, Morimoto C, Ohnuma K, Paul VJ, Ye T, Luesch H. Grassypeptolides as Natural Inhibitors of Dipeptidyl Peptidase 8 and T-Cell Activation. *Chembiochem.* 2014; 15: 799-804. 査読有
120. Yamamoto J, Ohnuma K, Hatano R, Okamoto T, Komiya E, Yamazaki H, Iwata S, Dang NH, Aoe K, Kishimoto T, Yamada T, Morimoto C. Regulation of somatostatin receptor 4-mediated cytostatic effects by CD26 in malignant pleural mesothelioma. *Br J Cancer.* 2014; 110: 2232-45. 査読有
121. Komiya E, Ohnuma K, Yamazaki H, Hatano R, Iwata S, Okamoto T, Dang NH, Yamada T, Morimoto C. CD26-mediated regulation of periostin expression contributes to migration and invasion of malignant pleural mesothelioma cells. *Biochem Biophys Res Commun.* 2014; 4: 609-15. 査読有
122. Nishida H, Suzuki H, Madokoro H, Hayashi M, Morimoto C, Sakamoto M, Yamada T. Blockade of CD26 signaling inhibits human osteoclast development. *J Bone Miner Res.* 2014; 29: 2439-55. 査読有
123. Fujimoto N, Ohnuma K, Aoe K, Hosono O, Yamada T, Kishimoto T, Morimoto C. Clinical significance of soluble CD26 in malignant pleural mesothelioma. *PLoS One.* 2014; 9: e115647. 査読有

樋野興夫

124. Sato T, Suzuki Y, Mori T, Maeda M, Abe M, Hino O, Takahashi K. Newly established ELISA for N-ERC/mesothelin improves diagnostic accuracy in patients with suspected pleural mesothelioma. *Cancer Med.* 2014; 3: 1377-84. 査読有
125. Shiono M, Kobayashi T, Takahashi R, Ueda M, Ishikawa C, Hino O. Transgenic expression of the N525S-tuberin variant in Tsc2 mutant (Eker) rats causes dominant embryonic lethality. *Sci Rep.* 2014; 4: 5927. 査読有
126. Hirohashi T, Igarashi K, Abe M, Maeda M, Hino O. Retrospective analysis of large-scale research screening to the construction workers for an early diagnosis of mesothelioma. *Mol Clin Oncol.* 2014; 2: 26-30. 査読有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

127. Yasuda S, Sugiura H, Katsurabayashi S, Shimada T, Tanaka H, Takasaki K, Iwasaki K, Kobayashi T, Hino O, Yamagata K. Activation of Rheb, but not of MTORC1, impairs spine synapse morphogenesis in tuberous sclerosis complex. *Sci Rep*. 2014; 4: 5155. 査読有
128. Ito T, Kajino K, Abe M, Sato K, Maekawa H, Sakurada M, Orita H, Wada R, Kajiyama Y, Hino O. ERC/mesothelin is expressed in human gastric cancer tissues and cell lines. *Oncol Rep*. 2014; 31: 27-33. 査読有
129. Fukamachi K, Iigo M, Hagiwara Y, Shibata K, Futakuchi M, Alexander DB, Hino O, Suzui M, Tsuda H. Rat N-ERC/mesothelin as a marker for in vivo screening of drugs against pancreas cancer. *PLoS One*. 2014; 9: e111481. 査読有
130. Toriyama A, Mori T, Sekine S, Yoshida A, Hino O, Tsuta K. Utility of PAX8 mouse monoclonal antibody in the diagnosis of thyroid, thymic, pleural and lung tumours: a comparison with polyclonal PAX8 antibody. *Histopathology*. 2014; 65: 465-72. 査読有
131. Kawamata F, Homma S, Kamachi H, Einama T, Kato Y, Tsuda M, Tanaka S, Maeda M, Kajino K, Hino O, Takahashi N, Kamiyama T, Nishihara H, Taketomi A, Todo S. C-ERC/mesothelin provokes lymphatic invasion of colorectal adenocarcinoma. *J Gastroenterol*. 2014; 49: 81-92. 査読有

山倉文幸

132. *Kawasaki H, Tominaga M, Shigenaga A, Kamo A, Kamata Y, Iizumi K, Kimura U, Ogawa H, Takamori K, Yamakura F. Importance of tryptophan nitration of carbonic anhydrase III for the morbidity of atopic dermatitis. *Free Radic Biol Med*. 2014; 73: 75-83. 査読有

岩淵和久

133. Shima S, Kawamura N, Ishikawa T, Masuda H, Iwahara C, Niimi Y, Ueda A, Iwabuchi K, Mutoh T. Anti-neutral Glycolipids Antibodies In Encephalomyeloradiculoneuropathy. *Neurology*. 2014; 82: 114-8. 査読有
134. *Oizumi A, Nakayama H, Okino N, Iwahara C, Kina K, Matsumoto R, Ogawa H, Takamori K, Ito M, Suga Y, Iwabuchi K. Pseudomonas-derived ceramidase induces production of inflammatory mediators from human keratinocytes via sphingosine-1-phosphate. *PLoS One*. 2014; 9: e89402. 査読有

田部陽子

135. Yoshimura M, Ishizawa J, Ruvolo V, Dilip A, Quintas-Cardama A, McDonnell TJ, Neelapu SS, Kwak LW, Shacham S, Kauffman M, Tabe Y, Yokoo M, Kimura S, Andreeff M, Kojima K. Induction of p53-mediated transcription and apoptosis by Exportin-1 (XPO1) inhibition in mantle cell lymphoma. *Cancer Sci*. 2014; 105: 795-801. 査読有
136. Bournier G, De la Salle B, George T, Tabe Y, Baum H, Culp N, Keng TB. The International Committee for Standardization in Hematology (ICSH). ICSH guidelines for the verification and performance of automated cell counters for body fluids. *Int J Lab Hematol*. 2014; 36: 598-612.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

査読有

137. Tabe Y, Jin L, Konopleva M, Shikami M, Kimura S, Andreeff M, Raffeld M, Miida T. Class IA PI3K inhibition inhibits cell growth and proliferation in mantle cell lymphoma. *Acta Haematol.* 2014; 131: 59-69. 査読有
138. Iba T, Aihara K, Yamada A, Nagayama M, Tabe Y, Ohsaka A. Rivaroxaban attenuates leukocyte adhesion in the microvasculature and thrombus formation in an experimental mouse model of type 2 diabetes mellitus. *Thromb Res.* 2014; 133: 276-80. 査読有

池田勝久

139. Hirotsu M, Shiozawa A, Ono N, Miwa M, Kikuchi K, Ikeda K. Fungal extracts detected in eosinophilic chronic rhinosinusitis induced cytokines from the nasal polyp cells. *Laryngoscope.* 2014; 124: E347-53. 査読有

関川 巖

140. Nozawa K, Fujishiro M, Takasaki Y, Sekigawa I. Inhibition of rheumatoid arthritis by blocking connective tissue growth factor. *World J Orthop.* 2014; 18: 653-9. 査読有
141. Ikeda K, Takasaki Y, Sekigawa I. Rapid onset of small intestinal perforation after successful steroid treatment in eosinophilic granulomatosis with polyangiitis. *Mod Rheumatol.* 2014; 11: 1-3. 査読有
142. Doe K, Nozawa K, Hiruma K, Yamada Y, Matsuki Y, Nakano S, Ogasawara M, Nakano H, Ikeda T, Ikegami T, Fujishiro M, Kawasaki M, Ikeda K, Amano H, Morimoto S, Ogawa H, Takamori K, Sekigawa I, Takasaki Y. Antibody against chromatin assembly factor-1 is a novel autoantibody specifically recognized in systemic lupus erythematosus. *Lupus.* 2014; 23: 1031-41. 査読有

稲田英一

143. Kitajima Y, Yamaguchi K, Hori K, Murakami T, Someya A, Konishi K, Hara A, Hachisu M, Kajiyama Y, Nagaoka I, Inada E. The relationship between the preoperative transition of serum anticholinergic activity and postoperative delirium in patients undergoing esophagectomy and gastrectomy. *Juntendo Med J.* 2014; 60: 147-50. 査読有
144. Wakabayashi S, Yamaguchi K, Kumakura S, Murakami T, Someya A, Kajiyama Y, Nagaoka I, Inada E. Effects of anesthesia with sevoflurane and propofol on the cytokine/chemokine production at the airway epithelium during esophagectomy. *Int J Mol Med.* 2014; 34: 137-44. 査読有

卜部貴夫

145. Mitome-Mishima Y, Miyamoto N, Tanaka R, Shimosawa T, Oishi H, Arai H, Hattori N, Urabe T. Adrenomedullin deficiency and aging exacerbate ischemic white matter injury after prolonged cerebral hypoperfusion in mice. *Biomed Res Int.* 2014; 861632. 査読有
146. Shimada Y, Tanaka R, Shimura H, Yamshiro K, Urabe T, Hattori N. Phosphorylation enhances

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

recombinant HSP27 neuroprotection against focal cerebral ischemia in mice. *Neuroscience*. 2014; 278: 113-21. 査読有

柿木隆介

147. *Mochizuki H, Tanaka S, Morita T, Wasaka T, Sadato N, Kakigi R. The cerebral representation of scratching-induced pleasantness. *J Neurophysiol*. 2014; 111: 488-98. 査読有

松田浩珍

148. Togawa Y, Kambe N, Shimojo N, Nakano T, Sato Y, Mochizuki H, Tanaka A, Matsuda H, Matsue H. Ultra-pure soft water improves skin barrier function in children with atopic dermatitis: a randomized, double-blind, placebo-controlled, crossover pilot study. *J Dermatol Sci*. 2014; 76: 269-71. 査読有
149. Xia Y, Tanaka A, Oida K, Matsuda A, Jang H, Amagai Y, Ishizaka S, Matsuda H. Distinct reactivity of transient receptor potential vanilloid subtype 1 in a murine model of atopic dermatitis with serious scratching. *The Open Allergy J*. 2014; 7: 10-16. 査読有

山口重樹

150. Matsuzawa R, Fujiwara T, Nemoto K, Fukushima T, Yamaguchi S, Akagawa K, Hori Y. Presynaptic inhibitory actions of pregabalin on excitatory transmission in superficial dorsal horn of mouse spinal cord: further characterization of presynaptic mechanisms. *Neurosci Lett*. 2014; 558: 186-91. 査読有

2013

高森建二

151. Kamo A, Tominaga M, Taneda K, Ogawa H, Takamori K. Neurotrophin inhibits the increase in intraepidermal nerve density in the acetone-treated mouse dry skin model. *Clin Exp Dermatol*. 2013; 38: 665-8. 査読有
152. Shibata A, Sugiura K, Kimura U, Takamori K, Akiyama M. A novel ATP2C1 early truncation mutation suggests haploinsufficiency as a pathogenic mechanism in a patient with Hailey-Hailey disease. *Acta Derm Venereol*. 2013; 93: 719-20. 査読有
153. Araki Y, Nonaka D, Hamamura K, Yanagida M, Ishikawa H, Banzai M, Maruyama M, Endo S, Tajima A, Lee LJ, Nojima M, Takamori K, Yoshida K, Takeda S, Tanaka K. Clinical peptidomic analysis by a one-step direct transfer technology: its potential utility for monitoring of pathophysiological status in female reproductive system disorders. *J Obstet Gynaecol Res*. 2013; 39: 1440-8. 査読有

横溝岳彦

154. Matsunaga Y, Fukuyama S, Okuno T, Sasaki F, Matsunobu T, Asai Y, Matsumoto K, Saeki K, Oike M, Sadamura Y, Machida K, Nakanishi Y, Kubo M, Yokomizo T, Inoue H. Leukotriene B4 receptor BLT2 negatively regulates allergic airway eosinophilia. *FASEB J*. 2013; 27: 3306-14. 査読有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

155. Matsunobu T, Okuno T, Yokoyama C, Yokomizo T. Thromboxane A synthase-independent production of 12-hydroxyheptadecatrienoic acid, a BLT2 ligand. *J Lipid Res.* 2013; 54: 2979-87. 査読有
156. Ohkubo H, Ito Y, Minamino T, Mishima T, Hirata M, Hosono K, Shibuya M, Yokomizo T, Shimizu T, Watanabe M, Majima M. Leukotriene B4 type-1 receptor signaling promotes liver repair after hepatic ischemia/reperfusion injury through the enhancement of macrophage recruitment. *FASEB J.* 2013; 27: 3132-43. 査読有
157. Saiwai H, Kumamaru H, Ohkawa Y, Kubota K, Kobayakawa K, Yamada H, Yokomizo T, Iwamoto Y, Okada S. Ly6C(+) Ly6G(-) Myeloid-derived suppressor cells play a critical role in the resolution of acute inflammation and the subsequent tissue repair process after spinal cord injury. *J Neurochem.* 2013; 125: 74-88. 査読有
158. Taketomi Y, Ueno N, Kojima T, Sato H, Murase R, Yamamoto K, Tanaka S, Sakanaka M, Nakamura M, Nishito Y, Kawana M, Kambe N, Ikeda K, Taguchi R, Nakamizo S, Kabashima K, Gelb MH, Arita M, Yokomizo T, Nakamura M, Watanabe K, Hirai H, Nakamura M, Okayama Y, Ra C, Aritake K, Urade Y, Morimoto K, Sugimoto Y, Shimizu T, Narumiya S, Hara S, Murakami M. Mast cell maturation is driven via a group III phospholipase A2-prostaglandin D2-DP1 receptor paracrine axis. *Nat Immunol.* 2013; 14: 554-563. 査読有
159. Tojo T, Wang Q, Okuno T, Yokomizo T, Kobayashi Y. Synthesis of (S,5Z,8E,10E)-12-Hydroxyheptadeca-5,8,10-trienoic Acid (12S-HHT) and its Analogues. *Synlett.* 2013; 24: 1545-8. 査読有

長岡 功

160. Ochiai T, Nishimura K, Watanabe T, Kitajima M, Nakatani A, Inou T, Shibata H, Sato T, Kishine K, Seo S, Okubo S, Futagawa S, Mashiko S, Nagaoka I. Serum iron levels as a new biomarker in chemotherapy with leucovorin and fluorouracil plus oxaliplatin or leucovorin and fluorouracil plus irinotecan, with or without molecular-targeted drugs. *Mol Clin Oncol.* 2013; 1: 805-10. 査読有
161. Koikawa N, Aoki E, Suzuki Y, Sakuraba K, Nagaoka I, Aoki K, Shimmura Y, Sawaki K. Wheat gluten hydrolysate affects race performance in the triathlon. *Biomed Rep.* 2013; 1: 646-50. 査読有
162. Kumakura S, Yamaguchi K, Sugasawa Y, Murakami T, Kikuchi T, Inada E, Nagaoka I. Effects of nitrous oxide on the production of cytokines and chemokines at the airway epithelium during anesthesia with sevoflurane. *Mol Med Rep.* 2013; 8: 1643-8. 査読有
163. Momomura R, Naito K, Igarashi M, Watari T, Terakado A, Oike S, Sakamoto K, Nagaoka I, Kaneko K. Evaluation of the effect of glucosamine administration on the biomarkers for cartilage and bone metabolism in bicycle racers. *Mol Med Rep.* 2013; 7: 742-6. 査読有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

164. Ikeda T, Kurosawa M, Morimoto C, Kitayama S, Nukina N. Multiple effects of repetitive transcranial magnetic stimulation on neuropsychiatric disorders. *Biochem Biophys Res Commun.* 2013; 436: 121-7. 査読有
165. Yamada K, Hayashi M, Madokoro H, Nishida H, Du W, Ohnuma K, Sakamoto M, Morimoto C, Yamada T. Nuclear Localization of CD26 Induced by a Humanized Monoclonal Antibody Inhibits Tumor Cell Growth by Modulating of POLR2A Transcription. *PLoS One.* 2013; 8: e62304. 査読有
166. Hatano R, Ohnuma K, Yamamoto J, Dang NH, Yamada T, Morimoto C. Prevention of acute graft-versus-host disease by humanized anti-CD26 monoclonal antibody. *Br J Haematol.* 2013; 162: 263-77. 査読有
167. Tao X, Hill TE, Morimoto C, Peters CJ, Ksiazek TG, Tseng CT. Bilateral Entry and Release of Middle East Respiratory Syndrome-Coronavirus Induces Profound Apoptosis of Human Bronchial Epithelial Cells. *J Virol.* 2013; 87: 9953-8. 査読有
168. Saito T, Ohnuma K, Suzuki H, Dang NH, Hatano R, Ninomiya H, Morimoto C. Polyarthropathy in type 2 diabetes patients treated with DPP4 inhibitors. *Diabetes Res Clin Pract.* 2013; 102: e8-e12. 査読有
169. Ohnuma K, Haagmans BL, Hatano R, Raj VS, Mou H, Iwata S, Dang NH, Bosch BJ, Morimoto C. Inhibition of middle east respiratory syndrome coronavirus (MERS-CoV) infection by Anti-CD26 monoclonal antibody. *J Virol.* 2013; 87: 13892-9. 査読有
170. Havre PA, Dang LH, Ohnuma K, Iwata S, Morimoto C, Dang NH. CD26 Expression on T-anaplastic large cell lymphoma (ALCL) line karpas 299 is associated with increased expression of versican and MT1-MMP and enhanced adhesion. *BMC Cancer.* 2013; 13: 517. 査読有

樋野興夫

171. Obulhasim G, Yasen M, Kajino K, Mogushi K, Tanaka S, Mizushima H, Tanaka H, Arai S, Hino O. Up-regulation of dbpA mRNA in hepatocellular carcinoma associated with metabolic syndrome. *Hepatol Int.* 2013; 7: 215-25. 査読有
172. Osawa M, Kobayashi T, Okura H, Igarashi T, Mizuguchi M, Hino O. TSC1 controls distribution of actin fibers through its effect on function of Rho family of small GTPases and regulates cell migration and polarity. *PLoS One.* 2013; 8: e54503. 査読有
173. Nomura R, Fujii H, Abe M, Sugo H, Ishizaki Y, Kawasaki S, Hino O. Mesothelin Expression is a prognostic factor in cholangiocellular carcinoma. *Int Surg.* 2013; 98: 164-9. 査読有
174. Okura H, Kobayashi T, Koike M, Ohsawa M, Zhang D, Arai H, Uchiyama Y, Hino O. Tuberin activates and controls the distribution of Rac1 via association with p62 and ubiquitin through the mTORC1 signaling pathway. *Int J Oncol.* 2013; 43: 447-56. 査読有
175. Mori T, Tajima K, Hirama M, Sato T, Kido K, Iwakami S, Sasaki S, Iwase A, Shiomi K, Maeda M, Hino O, Takahashi K. The N-ERC index is a novel monitoring and prognostic marker for

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

- advanced malignant pleural mesothelioma. *J Thorac Dis.* 2013; 5: 145-8. 査読有
176. Hirano S, Kakinuma S, Amasaki Y, Nishimura M, Imaoka T, Fujimono S, Hino O, Shimada Y. Ikaros is a critical target during simultaneous exposure to X-rays and N-ethyl-N-nitrosourea in mouse T-cell lymphomagenesis. *Int J Cancer.* 2013; 132: 259-68. 査読有
177. Abe H, Mochizuki S, Ohara K, Ueno M, Ohiai H, Kitagawa Y, Hino O, Sato H, Okada Y. Src plays a key role in ADAM28 expression in v-src-transformed epithelial cells and human carcinoma cells. *Am J Pathol.* 2013; 183: 1667-78. 査読有
178. Kawai A, Kobayashi T, Hino O. Folliculin regulates cyclin D1 expression through cis-acting elements in the 3' untranslated region of cyclin D1 mRNA. *Int J Oncol.* 2013; 42: 1597-604. 査読有
179. Ito M, Kajino K, Abe M, Fujimura T, Mineki R, Ikegami T, Ishikawa T, Hino O. NP-1250, an ABCG2 inhibitor, induces apoptotic cell death in mitoxantrone-resistant breast carcinoma MCF7 cells via a caspase-independent pathway. *Oncol Rep.* 2013; 29: 1492-500. 査読有
- 櫻井 隆**
180. Kamikubo Y, Shimomura T, Fujita Y, Tabata Y, Kashiyama T, Sakurai T, Fukurotani K, Kano M. Functional Cooperation of Metabotropic Adenosine and Glutamate Receptors Regulates Postsynaptic Plasticity in the Cerebellum. *J Neurosci.* 2013; 33: 18661-71. 査読有
- 岩淵和久**
181. Watanabe K, Iwahara C, Nakayama H, Iwabuchi K, Matsukawa T, Yokoyama K, Yamaguchi K, Kamiyama Y, Inada E. Sevoflurane Suppresses TNF- α -Induced Inflammatory Responses in Small Airway Epithelial Cells under Anoxia/Reoxygenation Conditions. *Br J Anaesth.* 2013; 110: 637-45. 査読有
- 田部陽子**
182. Jin L, Tabe Y, Kojima K, Shikami M, Benito J, Ruvolo V, Wang RY, McQueen T, Ciurea SO, Miida T, Andreeff M, Konopleva M. PI3K inhibitor GDC-0941 enhances apoptotic effects of BH-3 mimetic ABT-737 in AML cells in the hypoxic bone marrow microenvironment. *J Mol Med (Berl).* 2013; 91: 1383-97. 査読有
183. Tabe Y, Shi YX, Zeng Z, Jin L, Shikami M, Hatanaka Y, Miida T, Hsu FJ, Andreeff M, Konopleva M. TGF- β -Neutralizing Antibody 1D11 Enhances Cytarabine-Induced Apoptosis in AML Cells in the Bone Marrow Microenvironment. *PLoS One.* 2013; 27; 8: e62785. 査読有
184. Jin L, Tabe Y, Lu H, Borthakur G, Miida T, Kantarjian H, Andreeff M, Konopleva M. Mechanisms of apoptosis induction by simultaneous inhibition of PI3K and FLT3-ITD in AML cells in the hypoxic bone marrow microenvironment. *Cancer Lett.* 2013; 329: 45-58. 査読有
185. Maenou I, Tabe Y, Bengtsson HI, Ishii K, Miyake K, Horiuchi Y, Idei M, Horii T, Satoh N, Miida T, Ohsaka A. Performance evaluation of the automated morphological analysis of erythrocytes by CellaVision DM96. *Clin Lab.* 2013; 59: 1413-17. 査読有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

186. Nakamura A, Miyake K, Misawa S, Kuno Y, Horii T, Kondo S, Tabe Y, Ohsaka A. Meropenem as predictive risk factor for isolation of multidrug-resistant *Pseudomonas aeruginosa*. *J Hosp Infect.* 2013; 83: 153-5. 査読有

池田勝久

187. Ikeda K, Shiozawa A, Ono N, Kusunoki T, Hirotsu M, Homma H, Saitoh T, Murata J. Subclassification of chronic rhinosinusitis with nasal polyp based on eosinophil and neutrophil. *Laryngoscope.* 2013; 123: E1-9. 査読有
188. Homma H, Kamiya K, Kusunoki T, Ikeda K. Multiplex analyses of cytokine and chemokine release from the cultured fibroblast of nasal polyps: the effect of IL-17A. *Acta Otolaryngol.* 2013; 133: 1065-72. 査読有
189. Ono N, Kusunoki T, Miwa M, Hirotsu M, Shiozawa A, Ikeda K. Reduction in superoxide dismutase expression in the epithelial mucosa of eosinophilic chronic rhinosinusitis with nasal polyps. *Int Arch Allergy Immunol.* 2013; 162: 173-80. 査読有

関川 巖

190. Yanagida M, Kawasaki M, Fujishiro M, Miura M, Ikeda K, Nozawa K, Kaneko H, Morimoto S, Takasaki Y, Ogawa H, Takamori K, Sekigawa I. Serum proteome analysis in patients with rheumatoid arthritis receiving therapy with tocilizumab: an anti-interleukin-6 receptor antibody. *Biomed Res Int.* 2013; 2013: 607137. 査読有
191. Nozawa K, Fujishiro M, Kawasaki M, Yamaguchi A, Ikeda K, Morimoto S, Iwabuchi K, Yanagida M, Ichinose S, Morioka M, Ogawa H, Takamori K, Takasaki Y, Sekigawa I. Inhibition of connective tissue growth factor ameliorates disease in a murine model of rheumatoid arthritis. *Arthritis Rheum.* 2013; 65: 1477-86. 査読有
192. Yamaguchi A, Nozawa K, Fujishiro M, Kawasaki M, Suzuki F, Takamori K, Ogawa H, Takasaki Y, Sekigawa I. CC motif chemokine ligand 13 is associated with rheumatoid arthritis pathogenesis. *Mod Rheumatol.* 2013; 23: 856-63. 査読有

柿木隆介

193. *Mochizuki H, Baumgartner U, Kamping S, Ruttorf M, Schad LR, Flor H, Kakigi R, Treede RD. Cortico-subcortical activation patterns for itch and pain imagery. *Pain.* 2013; 154: 1989-98. 査読有

松田浩珍

194. Higuchi H, Tanaka A, Nishikawa S, Oida K, Matsuda A, Jung K, Amagai Y, Matsuda H. Suppressive effect of mangosteen rind extract on the spontaneous development of atopic dermatitis in NC/Tnd mice. *J Dermatol.* 2013; 40: 786-96. 査読有
195. Kobayashi T, Hayakawa K, Tanaka A, Matsuda H. Increased expression of gelatinase and caspase activities in the skin of NC/Tnd mice: a model for atopic dermatitis. *Dermatitis.* 2013; 24: 254-5. 査読有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

196. Amagai Y, Matsuda H, Tanaka A. Abnormalities in itch sensation and skin barrier function in atopic NC/Tnd mice. Biol Pharm Bull. 2013; 36: 1248-52. 査読有
197. Jung K, Miyagawa M, Matsuda A, Amagai Y, Oida K, Okamoto Y, Takai M, Nishikawa S, Jang H, Ishizaka S, Ahn G, Tanaka A, Matsuda H. Antifungal effects of palmitic acid salt and ultrapure soft water on *Scedosporium apiospermum*. J Appl Microbiol. 2013; 115: 711-7. 査読有
198. Amagai Y, Tanaka A, Matsuda A, Jung K, Oida K, Nishikawa S, Jang H, Matsuda H. Heterogeneity of internal tandem duplications in the c-kit of dogs with multiple mast cell tumours. J Small Anim Pract. 2013; 54: 377-80. 査読有
199. Tanaka A, Jung K, Matsuda A, Jang H, Kajiwara N, Amagai Y, Oida K, Ahn G, Ohmori K, Kang KG, Matsuda H. Daily intake of Jeju groundwater improves the skin condition of the model mouse for human atopic dermatitis. J Dermatol. 2013; 40: 193-200. 査読有

山口重樹

200. Terashima T, Xu Q, Yamaguchi S, Yaksh TL. Intrathecal P/Q- and R-type calcium channel blockade of spinal substance P release and c-Fos expression. Neuropharmacology. 2013; 75: 1-8. 査読有

【和文原著論文】

2016

長岡 功

201. 鈴木 香, 村上泰介, 胡 忠双, 長岡 功. 肝類洞内皮細胞の血液浄化作用に対するヒト生体防御ペプチド LL-37 の効果—エンドトキシン除去作用に着目して—。日本血管血流学会誌. 2016; 1: in press. 査読有

山口重樹

202. 山口重樹, 長嶋祥子, 五月女俊也. 突出痛の理解とフェンタニル口腔内吸収剤の適正使用. ファルマシア. 2016; 52: 36-8. 査読有

2015

長岡 功

203. 石島旨章, 内藤聖人, 渡 泰士, 金子晴香, 二見一平, 長岡 功, 黒澤 尚, 金子和夫. 初期変形性膝関節症におけるバイオマーカーを用いた疼痛と軟骨代謝の連関. 別冊整形外科. 2015; 67: 51-6. 査読有
204. 山岸淑恵, 今井乾介, 長尾淳二, 長岡 功. 滑膜細胞に対するグルコサミンをはじめとする機能性素材の抗炎症作用の評価. 日本未病システム学会雑誌. 2015; 21: 156-61. 査読有
205. 神崎範之, 出雲貴幸, 柴田浩志, 渡邊景太, 朝長昭仁, 長岡 功. グルコサミン塩酸塩、コンドロイチン硫酸およびケルセチン配糖体を含む食品の膝関節機能に対する有効性に関する研究 - K-L 分類による層別解析. 薬理と治療. 2015; 43: 1017-23. 査読有

田部陽子

206. 石井 清, 田部陽子, 佐野麻衣, 岩崎陽介, 清水長子, 常名正弘, 堀井 隆, 佐藤尚武, 三井田孝, 大坂顯通. 血液検査効率化に資する血液像目視再検基準の設定と評価 —自動血球

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

分析装置 XE-5000 を用いた場合。日本検査血液学会雑誌. 2015; in press. 査読有

須賀 康

207. 滝沢佐和, 春名邦隆, 濱田尚宏, 沼田早苗, 橋本 隆, 須賀 康. TGM1 遺伝子変異が同定された葉状魚鱗癬の姉弟症例. 臨床皮膚科. 2015; 69: 917-22. 査読有

池田勝久

208. 藤枝重治, 坂下雅文, 徳永貴広, 岡野光博, 春名威範, 吉川 衛, 鴻 信義, 浅香大也, 春名眞一, 中山次久, 石戸谷淳一, 佐久間康徳, 平川勝洋, 竹野幸夫, 氷見徹夫, 関 伸彦, 飯野ゆき子, 吉田尚弘, 小林正佳, 坂井田寛, 近藤健二, 山岨達也, 三輪高喜, 山田奏子, 河田 了, 寺田哲也, 川内秀之, 森倉一朗, 池田勝久, 村田潤子, 池田浩己, 野口恵美子, 玉利真由美, 広田朝光, 意元義政, 高林哲司, 富田かおり, 二之宮貴裕, 森川太洋, 浦島充佳. 好酸球性副鼻腔炎. 診断ガイドライン(JESREC Study). 日本耳鼻咽喉科学会会報. 2015; 118: 728-35. 査読有

山口重樹

209. 高薄敏史, 山口重樹, Donald R Taylor. オピオイドを理解する～オピオイドを開始するときの併用薬の注意点～薬物代謝. Locomotive Pain Frontier. 2015; 4: 112-4.
210. 山口重樹, 白川賢宗, 石川和由, Donald R Taylor. 鎮痛補助薬の特徴と選択・使用の注意. Oncology Nurse. 2015; 8: 80-6. 査読有
211. 山口重樹, 五月女俊也, 長嶋祥子, Donald R Taylor. ترامadol単剤(非がん性慢性痛に対する適応). ペインクリニック. 2015; 36: 819-23. 査読有
212. 山口重樹, Donald R Taylor. 帯状疱疹関連痛の予防と治療のポイント. 東京内科医会会誌. 2015; 30: 239-42. 査読有
213. 山口重樹, 高薄敏史, 長嶋祥子, 五月女俊也, Donald R Taylor. オピオイドを理解するオピオイドを開始するときの併用薬の注意点～相互作用. Locomotive Pain Frontier. 2015; 4: 48-50. 査読有
214. 山口重樹, Donald R Taylor. オピオイド～非がん性の慢性痛に対するオピオイド処方の最新の考え方. 麻酔科学レビュー. 2015: 77-83. 査読有

2014

田部陽子

215. 松木美貴, 竹村浩之, 上野 剛, 脇田 満, 久野 豊, 堀井 隆, 田部陽子, 大坂顯通. 尿ケトン体改良試験紙法の特異性に関する評価. 医学検査. 2014; 63: 586-9. 査読有

山口重樹

216. 小川節郎, 内田英二, 紺野慎一, 井関雅子, 山口重樹, 肥後成人, 南 秀尚, 大川宏司, 大高邦章. HFT-290 の帯状疱疹後神経痛、慢性腰痛および変形性関節症を対象としたランダム化二重盲検試験. 臨床医薬. 2014; 30: 1111-26. 査読有
217. 小川節郎, 内田英二, 紺野慎一, 井関雅子, 山口重樹, 肥後成人, 南 秀尚, 大川宏司, 大高邦章. HFT-290 の非がん性慢性疼痛を対象とした長期投与試験. 臨床医薬. 2014; 30: 1127-43. 査読有
218. 五月女俊也, 濱口眞輔, 長嶋祥子, 武村 優, 秦 要人, 山口重樹. 当院における舌痛症患者の治療経験. 慢性疼痛. 2014; 33: 169-73. 査読有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

219. 根本興平, 濱口眞輔, 沼田祐貴, 五月女俊也, 山口重樹. 結核性髄膜炎後の慢性難治性疼痛に対して脊髄刺激療法が著効した1症例. 慢性疼痛. 2014; 33: 109-13. 査読有

2013

田部陽子

220. 大木まゆみ, 三澤成毅, 荒井ひろみ, 川瀬友季子, 長南正佳, 川上剛明, 久野 豊, 堀井 隆, 近藤成美, 三宅一徳, 田部陽子, 大坂顯通. 酵素抗体法(迅速キット)による Clostridium difficile トキシン検出検査と毒素産生性 C.difficile の分離培養との比較検討. 日本臨床微生物学雑誌. 2013; 23: 259-63. 査読有
221. 青木優子, 脇田 満, 久野 豊, 堀井 隆, 三宅一徳, 田部陽子, 大坂顯通. 尿中有形成分自動分析装置における目視鏡検実施基準の検討 病的円柱の効果的な検出方法. 医学検査. 2013; 62: 562-6. 査読有

山口重樹

222. 篠崎未緒, 白川賢宗, 塚田妹子, 池田知史, 山口重樹, 濱口眞輔. 眼窩下孔および卵円孔の奇形症例について. ペインクリニック. 2013; 34: 401-4. 査読有
223. 景山めぐみ, 濱口眞輔, 松澤理恵, 東奈央子, 池田知史, 山口重樹. ガバペンチンとデュロキセチンの併用が有効であった硬膜内硬膜外腫瘍症例の治験経験. 日本ペインクリニック学会誌. 2013; 20: 56-9. 査読有
224. 白川賢宗, 濱口眞輔, 根本興平, 松澤理恵, 矢崎美和, 永尾 勝, 山口重樹. 慢性疼痛に対するエスシタロプラムの有用性に関する検討. ペインクリニック. 2013; 34: 1127-31. 査読有
225. 福田澄子, 濱口眞輔, 大谷太郎, 根本興平, 池田知史, 永尾勝, 山口重樹. 腰部交感神経節ブロック後に菌血症を発症した高齢患者の1症例. ペインクリニック. 2013; 34: 1157-9. 査読有
226. 長嶋祥子, 濱口眞輔, 五月女俊也, 沼田祐貴, 藤井宏一, 山口重樹. オピオイド療法中に急性帯状疱疹を発症した1症例. 慢性疼痛. 2013; 32: 115-8. 査読有
227. 沼田祐貴, 濱口眞輔, 五月女俊也, 長嶋祥子, 藤井宏一, 山口重樹. 精神疾患患者の運動器疼痛に対するオピオイドの使用経験. 慢性疼痛. 2013; 32: 119-21. 査読有
228. 藤岡照久, 篠崎未緒, 濱口眞輔, 五月女俊也, 藤井宏一, 山口重樹. SSRI によって片頭痛が増悪した非定型顔面痛の治療経験. 慢性疼痛. 2013; 32: 267-70. 査読有

【英文総説】

2015

高森建二

229. Tominaga M, Kamata Y, Umehara Y, Ko KC, Takamori K. Mechanisms of itch in atopic dermatitis. J Environ Dermatol Cutan Allergol. 2015; 9: 1-11. 査読有

横溝岳彦

230. Liu M, Yokomizo T. The role of leukotrienes in allergic diseases. Allergol Int. 2015; 64: 17-26. 査読有
231. Yokomizo T. Two distinct leukotriene B4 receptors, BLT1 and BLT2. J Biochem. 2015; 157:

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

65-71. 査読有

田部陽子

232. Tabe Y, Konopleva M. Role of Microenvironment in Resistance to Therapy in AML. *Curr Hematol Malig Rep*. 2015; 10: 96-103. 査読有

柿木隆介

233. Mochizuki H, Kakigi R. Central mechanisms of itch. *Clin Neurophysiol*. 2015; 126: 1650-60. 査読有

234. Mochizuki H, Kakigi R. Itch and Brain. *J Dermatol*. 2015; 42: 761-7. 査読有

2014

高森建二

235. Tominaga M, Takamori K. Itch and nerve fibers with special reference to atopic dermatitis: therapeutic implications. *J Dermatol*. 2014; 41: 205-12. 査読有

横溝岳彦

236. Yokomizo T. Aspirin delays skin wound healing. *Juntendo Med J*. 2014; 60, 284-6. 査読有

長岡 功

237. Nagaoka I. Recent aspects of the chondroprotective and anti-inflammatory actions of glucosamine, a functional food. *Juntendo Med J*. 2014; 60: 580-7. 査読有

238. Ishijima M, Kaneko H, Kubota M, Liu L, Sadatsuki R, Hada S, Kinoshita M, Yusup A, Futami I, Sakamoto Y, Shimura Y, Naito K, Watari T, Saita Y, Takazawa Y, Kim S-G, Ikeda H, Nagaoka I, Arikawa-Hirasawa E, Kurosawa H, Kaneko K. Osteoarthritis of the knee as one of the major musculoskeletal diseases responsible for locomotive syndrome: the role of synovitis in pain. *Juntendo Med J*. 2014; 60: 300-1. 査読有

239. Iba T, Yamada A, Hashiguchi N, Nagaoka I. New therapeutic options for patients with sepsis and disseminated intravascular coagulation. *Pol Arch Med Wewn*. 2014; 124: 321-8. 査読有

240. Iba T, Miki T, Hashiguchi N, Tabe Y, Nagaoka I. Is the neutrophil a ‘prima donna’ in the procoagulant process during sepsis? *Critical Care*. 2014; 18: 230. 査読有

樋野興夫

241. Hino O. Cancer Philosophy～Thinking“Cancer Cells”Deeply. *Juntendo Med J*. 2014; 60: 200-9. 査読有

242. Imai M, Hino O. Asbestos-related mesothelioma: Prevention, early detection, treatment. *JSM Clinical Oncology and Research*. 2014; 2: 1018. 査読有

田部陽子

243. Tabe Y, Konopleva M. Advances in understanding the leukaemia microenvironment. *Br J Haematol*. 2014; 164: 767-78. 査読有

244. Tabe Y. Therapeutic targeting of microenvironmental interactions in leukemia: mechanisms and

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

approaches. Juntendo Med J. 2014; 60: 156-60. 査読無

245. Iba T, Murai M, Nagaoka I, Tabé Y. Neutrophil extracellular traps, damage-associated molecular patterns, and cell death during sepsis. Acute Medicine & Surgery. 2014; 1:2-9. 査読有

2013

高森建二

246. Tominaga M, Takamori K. An update on peripheral mechanisms and treatments of itch. Biol Pharm Bull. 2013; 36: 1241-7. 査読有

長岡 功

247. Iba T, Hashiguchi N, Nagaoka I, Tabé Y, Murai M. Neutrophil cell death in response to infection and its relation to coagulation. J Intensive Care. 2013; 1: 13. 査読有
248. Iba T, Nagaoka I, Boulat M. The anticoagulant therapy for sepsis-associated disseminated intravascular coagulation. Thrombosis Research. 2013; 131: 383-9. 査読有

岩淵和久

249. Nakayama H, Ogawa H, Takamori K, Iwabuchi K. GSL-enriched membrane microdomains in innate immune responses. Arch Immunol Ther Exp. 2013; 61: 217-28. 査読有

【和文総説】

2016

高森建二

250. 富永光俊, 穂山 祐, Earl Carstens, 高森建二. 脊髄におけるかゆみの神経伝達物質受容体. BIO Clinica. 2016; 31: 83-7. 査読無

平林義雄

251. 長塚靖子, 中嶋和紀, 平林義雄. 新しい脳脂質フォスファチジルグルコシドとそのリゾ体脂質の生物機能. 生体の科学. 2016; 67: in press. 査読有

山口重樹

252. 山口重樹, Donald R Taylor. 新しいオピオイド鎮痛薬～がん突出痛治療薬：フェンタニル口腔粘膜吸収製剤（TIRF）～. Anet. 2016; 20: 34-42. 査読無
253. 山口重樹, 高薄敏史, 長嶋祥子, 五月女俊也, Donald R Taylor. 慢性疼痛に対するオピオイド治療. 臨床麻酔. 2016; 40: 224-30. 査読無

2015

高森建二

254. 富永光俊, 高森建二. かゆみと高齢者. 臨床と研究. 2015; 92: 65-7. 査読無
255. 富永光俊, 高森建二. かゆみと皮膚—セマフォリン他について—. 日皮会誌「皮膚科セミナリウム」. 2015; 125: 395-402. 査読無
256. 富永光俊, 加茂敦子, 鎌田弥生, 高森建二. かゆみのメカニズム. Mebio. 2015; 31: 29-37. 査読無
257. 高森建二. 透析のかゆみにレミッチ®(ナルフラフィン塩酸塩)はどこまで有用か? EBM 皮膚疾患の治療. 2015; 62-65. 査読無

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

横溝岳彦

258. 五十嵐靖之, 清水孝雄, 徳村 彰, 西島正弘, 村上 誠, 横溝岳彦. あなたの知らない「脂質」の世界 脂質研究の過去、現在、そして未来. 実験医学. 2015; 33: 2336-43. 査読有
259. 佐伯和子, 劉 珉, 横溝岳彦. 12-HHT 皮膚創傷治癒に働く新しい COX 代謝物. 医学のあゆみ. 2015; 254: 1121-5. 査読有
260. 佐伯和子, 劉 珉, 横溝岳彦. 血小板由来の脂質メディエーター12-HHT は角化細胞の移動を亢進させ皮膚創傷治癒を促進する. 血栓止血. 2015; 26: 611-8. 査読有
261. 李 賢哲, 奥野利明, 横溝岳彦. 脂質メディエーターによる免疫・炎症応答の制御. 臨床免疫・アレルギー科. 2015; 64: 386-90. 査読有
262. 横溝岳彦. 第1世代脂質メディエーター エイコサノイド. 実験医学. 2015; 33: 2344-8. 査読有
263. 横溝岳彦. 【アセトアミノフェン】薬理的側面から 古くて新しい謎だらけの薬. LiSA. 2015; 22: 874-7. 査読有

須賀 康

264. 須賀 康. アトピー性皮膚炎の鑑別疾患、特にネザートン症候群について. 第3回小児アトピー性皮膚炎フォーラム記録集. インターサイエンス. 2015; 4-5. 査読無
265. 木村有太子, 今 泰子, 木下綾子, 高森建二, 比留間政太郎, 須賀 康. 広範囲の脱毛を形成した *Microsporum canis* による乳児ケルスス禿瘡の1例. 日本小児皮膚科学会雑誌. 2015; 34: 55-9. 査読有
266. 野口 篤, 木村有太子, 高森建二, 須賀 康. イベルメクチン内服療法を試みた乳幼児疥癬の2症例. 日本小児皮膚科学会雑誌. 2015; 34: 41-5. 査読有

長岡 功

267. 胡 忠双, 長岡 功. LPS 誘導性ピロトーシスと抗菌ペプチド. 医学のあゆみ. 2015; 253: 1087-91. 査読無

松田浩珍

268. 田中あかね, 種田久美子, 雨貝陽介, 松田浩珍. 動物の皮膚アレルギー：疾患モデルとしての有用性. Visual Dermatology. 2015; 14: 1014-20. 査読有

2014**高森建二**

269. 高森建二. 皮膚掻痒. medicine～内科医のための皮疹の診かたのロジック～. 2014; 51: 842-7. 査読無
270. 高森建二. 透析患者の皮疹. medicine～内科医のための皮疹の診かたのロジック～. 2014; 51: 880-4. 査読無
271. 高森建二. 皮膚科的合併症(掻痒症を除く). 腎と透析. 2014; 76: 388-90. 査読無
272. 高森建二. 冬に多い肌トラブルを解消するポイントは乾燥から肌を守ること. 鉄道弘済会健康保険組合 保険だより. 2014; 186: 14-5. 査読無
273. 富永光俊, 鎌田弥生, 加茂敦子, 高森建二. 加齢と皮膚の生理機能(バリア機能を中心に). アレルギー・免疫. 2014; 21: 34-43. 査読無
274. 加茂敦子, 高森建二. 光線療法. Monthly Book Derma. 2014; 214: 35-40. 査読無
275. 高森建二. 透析患者の皮膚掻痒症治療の決め手—難治なかゆみを和らげる解決法は? —. 苦手な外来皮膚疾患 100 の解決法～そのとき達人はどのように苦手皮膚疾患を克服したか?～.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

2014; 20: 68-9. 査読無

横溝岳彦

276. 佐伯和子, 劉 珉, 横溝岳彦. アスピリンによる生理活性脂質 12-HHT の産生阻害は皮膚創傷治癒の遅延をひきおこす. 実験医学. 2014; 32: 2267-70. 査読無
277. 佐伯和子, 横溝岳彦. ロイコトリエンの生体内における役割. 医学のあゆみ. 2014; 248: 970-6. 査読無
278. 横溝岳彦. アスピリンを服用すると血液が凝固しにくくなるメカニズムとは. *LiSA*. 2014; 21: 739-41. 査読無
279. 横溝岳彦. Science に掲載された論文のリラクションにかかわった話. *LiSA*. 2014; 21: 988-9. 査読無

長岡 功

280. 長岡 功. サプリメントと変形性関節症関節一マーカーを用いた評価、特にグルコサミンについて一. 日本未病システム学会誌. 2014; 20: 49-54. 査読有
281. 染谷明正, 坂本廣司, 長岡 功. グルコサミンは転写因子 Sp1 の O-N-アセチルグルコサミン修飾を介して IL-8 の発現を抑制する. 日本未病システム学会雑誌. 2014; 20: 89-93. 査読有
282. 長岡 功, 胡 忠双, 鈴木 香, 田村弘志. 抗菌ペプチドによる敗血症ショックの制御. 化学療法の領域. 2014; 30: 615-23. 査読有

田部陽子

283. 田部陽子. 【赤血球造血と疾患をめぐる最近の進歩】MDS の分子病態解析研究の進展. 血液内科. 2014; 68: 609-15. 査読無
284. 田部陽子, 小島研介. 【血液疾患の分子標的薬一進化する血液疾患治療研究の最新動向一】基礎研究 造血器腫瘍における p53-HDM2 系異常. 日本臨床. 2014; 72: 1042-6. 査読無

ト部貴夫

285. ト部貴夫. アポトーシス. IV. 病態生理 1. 虚血による神経障害の分子メカニズム. 最新脳卒中学 上巻一最新の診断と治療一. 日本臨床. 2014; 72: 101-5. 査読有

柿木隆介

286. 望月秀紀, 柿木隆介. 超の世界 痒いところと搔くと気持ちよくなる脳内メカニズム (The Cerebral Mechanism of Pleasure induced by Scratching an Itch.). Journal of Society of Automotive Engineers of Japan. 2014; 68: 80-3. 査読有

山口重樹

287. 山口重樹, 池田知史, Taylor Donald R. 腰痛治療最前線一腰痛に対するオピオイド鎮痛薬の使い方. Physician. 2014; 34: 305-13. 査読無
288. 山口重樹, 秦 要人, 武村 優, 小澤継史. 【日常診療における疑問を解消鎮痛薬の使い分け】NSAIDs(臨床編). 月刊レジデント. 2014; 7: 59-66. 査読無
289. 五月女俊也, 山口重樹, 沼田祐貴, 高薄敏史, Donald R Taylor. オピオイド鎮痛薬の薬物相互作用 メサドンの薬物相互作用. ペインクリニック. 2014; 35: S445-S453. 査読無

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

290. 沼田祐貴, 山口重樹, 五月女俊也, 高薄敏史, Donald R. Taylor. オピオイド鎮痛薬の薬物相互作用 オキシコドンの薬物相互作用. ペインクリニック. 2014; 35: S30-S437. 査読無
291. 山口重樹, 橋本智貴, 石川和由. メサドンの可能性と問題点. 臨床麻酔. 2104; 38: 1175-86. 査読無
292. 山口重樹, Donald R. Taylor. 【痛みのマネジメント update 基礎知識から緩和ケアまで】術後痛コントロール—術後痛コントロールの実際—脊椎外科の術後鎮痛. 日本医師会雑誌. 2014; 143: S300-S301. 査読無
293. 山口重樹, Donald R. Taylor. 【痛みのマネジメント update 基礎知識から緩和ケアまで】部位別にみた一般臨床医にできる疼痛コントロール—全身の疼痛—複合性局所疼痛症候群. 日本医師会雑誌. 2014; 143: S216-S217. 査読無
294. 山口重樹, Donald R. Taylor. 【痛みのマネジメント update 基礎知識から緩和ケアまで】痛みの治療法—薬物療法—オピオイド(経口薬、貼付薬). 日本医師会雑誌. 2014; 143: S156-S157. 査読無

2013

高森建二

295. 高森建二. 全身性皮膚癢痒症. JIM. 2013; 23: 132-4. 査読無
296. 高森建二. 透析のかゆみに対して抗ヒスタミン薬とナロキソン塩酸塩を併用することは可能か? 抗ヒスタミン薬～達人の処方箋 Rx～. 2013; 86-7. 査読無
297. 高森建二. STIとかゆみ. 日本性感染症学会誌. 2013; 24: 28-34. 査読無
298. 高森建二. 中高年のかゆみを招く乾燥肌は体の老化現象で肌の神経が過敏になり刺激に反応. 健康 365. 2013; 7: 26-7. 査読無
299. 高森建二. 乾皮症になる前に. Slowage. 2013; 10: 56. 査読無
300. 高森建二, 富永光俊, 加茂敦子. バリア機能破綻に起因するアトピー性皮膚炎の痒みのメカニズムの解明—知覚神経と表皮ケラチノサイトの相互作用の観点から—. 平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業(免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業)研究報告書(免疫アレルギー疾患分野)第2分冊. 2013; 433-6. 査読無
301. 高森建二. 慢性痒疹の痒みのメカニズム. 株式会社中山書店. 皮膚科臨床アセット 18 紅斑と痒疹 病態・治療の新たな展開. 2013; 189-97. 査読無
302. 根木 治, 富永光俊, 高森建二. かゆみとスキンケア. Monthly Book Derma. 2013; 210: 23-30. 査読無
303. 富永光俊, 加茂敦子, 高森建二. 老人性乾皮症の痒み発生機序の解明と治療法開発. 加齢皮膚医学セミナー. 2013; 8: 23-8. 査読有
304. 高森建二, 富永光俊. アトピー性皮膚炎のかゆみのメカニズムと新たなる治療戦略. 臨床免疫・アレルギー科. 2013; 59: 191-7. 査読無
305. 富永光俊, 高森建二. バリア機能と痒み. アレルギーの臨床. 2013; 33: 39-43. 査読無

長岡 功

306. 五十嵐庸, 澤田陽子, 井口佳則, 杉山 洋, 北川 泰, 長岡 功. 筋骨草の関節炎症に対する抗炎症効果の検討. 日本未病システム学会誌. 2013; 19: 112-5. 査読有
307. 長岡 功, 伊藤裕之, 桑 晃智, 山口英世. グルコサミン含有乳飲料の変形性膝関節患者の症

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

状と軟骨代謝マーカーに対する効果. 細胞. 2013; 45: 351-5. 査読有

308. 長岡 功, 渡邊景太, 朝長昭仁, 山本哲郎, 山口英世. 変形性膝関節症における関節痛と軟骨代謝マーカーに及ぼすグルコサミン含有乳飲料の効果. 日本未病システム学会雑誌. 2013; 19: 84-8. 査読有
309. 染谷明正, 坂本廣司, 長岡 功. グルコサミンによる滑膜炎の分子制御メカニズム. 日本未病システム学会雑誌. 2013; 19: 111-5. 査読有
310. 長岡 功. グルコサミンと変形性膝関節症. 順天堂醫事雑誌. 2013; 59: 152-62. 査読有
311. 長岡 功. 低分子化ヒアルロン酸含有食品の変形性膝関節症患者における症状および軟骨代謝マーカーに対する効果. Medical Science Digest. 2013; 39: 40-4. 査読有

横溝岳彦

312. 奥野利明, 劉 珉, 佐伯和子, 松延武彦, 横溝岳彦. 皮膚創傷治癒における新規脂質メディエーター・12-HHT の役割. 順天堂醫事雑誌. 2013; 59: 528-9. 査読有
313. 横溝岳彦. 脂質マシナリー. 感染 炎症 免疫. 2013; 43: 44-54. 査読無
314. 横溝岳彦. エイコサノイド:臨床検査項目としての可能性. 臨床化学. 2013; 42: 221-8. 査読無
315. 横溝岳彦. ロイコトリエン受容体. メディカル ドゥ社 (大阪). 2013; 193-8. 査読無
316. 横溝岳彦. 脂質由来メディエーターの種類・構造と生体での役割. 内分泌・糖尿病・代謝内科. 2013; 36: 540-7. 査読無

田部陽子

317. 射場敏明, 村井美和, 長岡 功, 田部陽子. 敗血症における neutrophil extracellular traps(NETs), damage-associated molecular patterns(DAMPs), そして細胞死. 日本救急医学会雑誌. 2013; 24: 827-36. 査読無

池田勝久

318. 池田勝久. 慢性鼻副鼻腔炎・鼻茸の病態と治療. 耳鼻咽喉科. 2013; 106: 573-80. 査読無
319. 池田勝久. 【unified airway からみた鼻副鼻腔病変】気道疾患と鼻副鼻腔病変・鼻副鼻腔炎と気管支喘息. JOHNS. 2013; 29: 845-49. 査読有

柿木隆介

320. 柿木隆介. 痛みと痒みの脳内認知機構. HUMAN SCIENCE. 2013; 24: 18-21, 査読有

山口重樹

321. 山口重樹, 藤井宏一, Donald R.Taylor. レストレスレッグス症候群とガバペンチン. 臨床麻酔. 2013; 37: S829-S304. 査読無
322. 高薄敏史, 濱口眞輔, 山口重樹. 麻酔関連薬による脊髄サブスタンスP放出制御. 臨床麻酔. 2013; 37: 615-23. 査読無
323. 池田知史, 濱口眞輔, 山口重樹. 痛み治療薬としての抗うつ薬の使い方. ペインクリニック. 2013; 34: 185-94. 査読無
324. 山口重樹, 濱口眞輔, 藤井宏一, 石川和由. 大学病院におけるペインクリニック診療の課題と展望—麻酔管理とペインクリニック診療を両立する獨協医科大学病院麻酔科・ペインクリニック科

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

- の試みー。ペインクリニック. 2013; 34: 745-52. 査読無
325. 藤井宏一, 山口重樹, 松澤理恵, 藤岡照久, 矢崎美和, 濱口眞輔. 本邦におけるメサドンの流通管理体制. ペインクリニック. 2013; 34: 1521-30. 査読無
326. 山口重樹, Donald R. Taylor. 慢性疾患における薬剤アドヒアランスを向上させる工夫ー慢性疼痛. Progress in Medicine. 2013; 33: 1311-6. 査読無
327. 山口重樹. オピオイドの臨床:なぜオピオイドが必要なのか?なぜオピオイドが危ないのか? 薬局. 2013; 64: 2012-8. 査読無
328. 山口重樹, 藤井宏一. 帯状疱疹関連痛の薬物療法と留意点. 日本医事新報. 2013; 4672: 32-8. 査読無
329. 藤井宏一, 山口重樹. 肝硬変患者の肝切除術の麻酔管理=肝血流量と麻酔震度を天秤にかける手探りの麻酔管理は卒業!. *LiSA*. 2013; 20: 1126-31. 査読無
330. 山口重樹. 帯状疱疹の疼痛対策:麻酔科医の立場から. デルマ. 2013; 212: 43-50. 査読無

<図書>

【英文図書】

2016

高森建二

1. Tominaga M, Takamori K. Atopic dermatitis. Pruritus, Second Edition, edited by Laurent Misery and Sonja Ständer. Springer Science+Business Media. 2016; in press.
2. Kamata Y, Tominaga M, Takamori K. Itch in Atopic Dermatitis Management. Itch-Management in Clinical Practice. 2016; in press.

横溝岳彦

3. Narumiya S, Yokomizo T, Aoki J. Lipid mediators in inflammation. Inflammation Book. 2016; in press.

2015

横溝岳彦

4. Koga T, Yokomizo T. Leukotriene B4 Receptors. Bioactive Lipid Mediator: Current Reviews and Protocols. Springer. 2015; in press.
5. Okuno T, Yokomizo T. Basic techniques for lipid extraction from tissues and cells. Bioactive Lipid Mediators: Current Reviews and Protocols. Springer. 2015; in press.
6. Murakami M, Yokomizo T, editors. Bioactive Lipid Mediators: Current Reviews and Protocols. Springer. 2015; in press.
7. Koga T, Yokomizo T. Leukotriene B4 Receptors. Bioactive Lipid Mediators: Current Reviews and Protocols. Springer. 2015; 85-93.
8. Okuno T, Yokomizo T. Basic techniques for lipid extraction from tissues and cells. Bioactive Lipid Mediators: Current Reviews and Protocols. Springer. 2015; 331-6.
9. Sasaki F, Yokomizo T. A novel anti-FLAG monoclonal antibody useful for GPCR study. Bioactive Lipid Mediators: Current Reviews and Protocols. Springer. 2015; 409-17.

2014

高森建二

10. Tominaga M, Takamori K. Sensitization of Itch Signaling. Itch Sensitization—Nerve Growth

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

Factor, Semaphorins. Carstens E, Akiyama T, editors. Itch: Mechanisms and Treatment. Boca Raton (FL). CRC Press. 2014; Chapter 17: 293-303.

岩渕先生

11. Nakayama H, Iwabuchi K. Glycosphingolipid-Receptor Interactions in the Innate Immune Responses. Glycoscience. Biology and Medicine. 2014; 7: 699-705.

2013

森本幾夫

12. Ohnuma K, Morimoto C. Atlas Genet Cytogenet Oncol Haematol. DPP4 (dipeptidyl-peptidase4). 2013; 17: 301-12.

【和文図書】

2016

高森建二

13. 鎌田弥生, 高森建二. 抗ヒスタミン薬. 膠原病・リウマチ・アレルギー研修ノート. 診断と治療社. 2016; in press.

2015

横溝岳彦

14. 村上 誠, 横溝岳彦. 脂質疾患学. 羊土社. 2015.
 15. 古賀友紹, 横溝岳彦. ロイコトリエン. 疾患モデルの作製と利用. 2015; 187-96.
 16. 横溝岳彦. 脂質メディエーター 概論. サイトカイン・増殖因子キーワード事典. 羊土社. 2015; 326-30.
 17. 横溝岳彦. ロイコトリエン. サイトカイン・増殖因子キーワード事典. 羊土社. 2015; 333-4.
 18. 石浦章一, 板部洋之, 高木正道, 中谷一秦, 水島昇, 横溝岳彦. カラー生化学第4版. 西村書店. 2015; 1193

長岡 功

19. 鈴木 香, 長岡 功. Cathelicidin ファミリーの抗菌ペプチド LL-37 によるエンドトキシン除去作用. エンドトキシン・自然免疫研究 18 -自然免疫における生体防御ペプチドの多様性. 長岡 功, 谷 徹, 横地高志 編集. 医学図書出版. 東京. 2015; 1-6.
 20. 胡 忠双, 村上泰介, 鈴木 香, 田村弘志, 長岡 功. ピロトーシスに対する抗菌ペプチド LL-37 の作用. エンドトキシン・自然免疫研究 18 -自然免疫における生体防御ペプチドの多様性. 長岡 功, 谷 徹, 横地高志 編集. 医学図書出版. 東京. 2015; 86-8.
 21. 多田浩之, 松下健二, 松山考司, 長岡 功, 高田春比古. *Porphyromonas gingivalis* ジンジパインによるヒト歯肉上皮細胞の IL-33 誘導を介した CAP18/LL-37 ダウンレギュレーション機構. エンドトキシン・自然免疫研究 18 -自然免疫における生体防御ペプチドの多様性. 長岡 功, 谷 徹, 横地高志 編集. 医学図書出版. 東京. 2015; 93-7.
 22. 長岡 功, 坂本廣司, 山本哲郎. 軟骨代謝マーカーを用いたグルコサミンの評価—機能性表示食品を目指して. グルコサミン研究 11 -グルコサミン研究: 10年間の軌跡と新たな時代への挑戦. 橋本三四郎, 奥村正裕, 岡本芳晴, 中村 洋, 野村義宏, 福井尚志, 和田政裕, 長岡 功 編集. エイド出版. 東京. 2015; 10-9.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

23. 五十嵐 庸, 鈴木 香, 坂本廣司, 長岡 功. グルコサミンは軟骨細胞においてII型コラーゲン遺伝子の発現を亢進する. グルコサミン研究 11 –グルコサミン研究: 10年間の軌跡と新たな時代への挑戦. 橋本三四郎, 奥村正裕, 岡本芳晴, 中村 洋, 野村義宏, 福井尚志, 和田政裕, 長岡 功 編集. エイド出版. 東京. 2015; 20-2.
24. 染谷明正, 坂本廣司, 長岡 功. グルコサミンは糖化修飾作用を介して転写因子 Sp1 の細胞内局在を調節する. グルコサミン研究 11 –グルコサミン研究: 10年間の軌跡と新たな時代への挑戦. 橋本三四郎, 奥村正裕, 岡本芳晴, 中村 洋, 野村義宏, 福井尚志, 和田政裕, 長岡 功 編集. エイド出版. 東京. 2015; 23-7.
25. 斉木彩乃, 信夫 正, 澤田陽子, 五十嵐庸, 長岡 功. 滑膜細胞の炎症応答に対するグルコサミンとリンゴポリフェノールの効果. グルコサミン研究 11 –グルコサミン研究: 10年間の軌跡と新たな時代への挑戦. 橋本三四郎, 奥村正裕, 岡本芳晴, 中村 洋, 野村義宏, 福井尚志, 和田政裕, 長岡 功 編集. エイド出版. 東京. 2015; 46-50.
26. 鶴田曉史, 長岡 功. 女性アスリートにおける軟骨代謝とゼリードリンク型機能性食品の効果. グルコサミン研究 11 –グルコサミン研究: 10年間の軌跡と新たな時代への挑戦. 橋本三四郎, 奥村正裕, 岡本芳晴, 中村 洋, 野村義宏, 福井尚志, 和田政裕, 長岡 功 編集. エイド出版. 東京. 2015; 55-7.

田部陽子

27. 田部陽子. 白血球減少. 考える臨床検査. 松尾収二 編集. 文光堂. 2015

稲田英一

28. 稲田英一. 麻酔への知的アプローチ. 日本医事新報社. 2015; 691.
29. 稲田英一. 鎮痛・解熱薬. メディカルビュー社. 矢崎義雄編. 2015; 1-10.

ト部貴夫

30. ト部貴夫. 脳血管障害. MR テキスト II 疾病と治療 2012 臨床 2015 年度改定. 浦部晶夫, 越前宏俊, 下澤達雄, 鄭 東孝, 平山陽示, 古谷伸之, 松村譲児編. 公益財団法人 MR 認定センター教育研修委員会監修. 南山堂. 東京. 2015; 13-20.
31. ト部貴夫. ラクナ梗塞. 神経内科研修ノート. 永井良三シリーズ総監修, 鈴木則宏責任編集. 荒木信夫, 神田 隆, 吉良潤一, 塩川芳昭, 西野一三, 水澤英洋編. 診断と治療社, 東京. 2015; 213-8.

山口重樹

32. 山口重樹. Managing Cancer Breakthrough pain. Donald R Taylor 編集. がん突出痛のマネジメント. メディカルレビュー社. 2015; 1-97.
33. 山口重樹, Donald R Taylor. 麻酔科学レビュー2015. オピオイド～非がん性の慢性痛に対するオピオイド処方の最新の考え方. 天羽敬祐編集. 2015; 77-83. 総合医学社.
34. 山口重樹, Donald R Taylor. 慢性疼痛治療現場で役立つオピオイド鎮痛薬の必須知識. 乱用と依存. 医療ジャーナル社. 細川豊史編集. 2015.
35. 山口重樹, Donald R Taylor. 慢性疼痛治療現場で役立つオピオイド鎮痛薬の必須知識. オピオイド鎮痛薬を用いた慢性疼痛治療の近未来への課題と対策. 細川豊史編集. 医療ジャーナル社. 2015

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

長岡 功

36. 胡 忠双, 村上泰介, 鈴木 香, 田村弘志, 長岡 功. 抗菌ペプチド LL-37 によるマクロファージ系細胞のピロトーシスの制御. エンドトキシン・自然免疫研究 17 -エンドトキシン・自然免疫の展開:新しい機序、診断、応用. 谷 徹, 横地高志 編集. 医学図書出版. 2014; 73-5.
37. 五十嵐庸, 鈴木 香, 坂本廣司, 長岡 功. グルコサミンおよび N-アセチルグルコサミンは軟骨細胞においてサーチュイン1の遺伝子発現を亢進する. グルコサミン研究10 -グルコサミンをめぐる科学的証拠と研究の展開. 奥村正裕, 岡本芳晴, 中村 洋, 野村義宏, 和田政裕, 長岡 功 編集. エイド出版. 2014; 27-30.

田部陽子

38. 田部陽子. 貧血の診断プロセスと病態. ベックマンコールター1. 東京. 2014

山口重樹

39. 山口重樹. 症例で身につくがん疼痛治療薬～効果判定から薬の増減、次の一手まで、患者にあった処方わかる. 山口重樹, 下山直人編集. 羊土社. 2014

2013**横溝岳彦**

40. 横溝岳彦. 最新生理活性脂質研究 -実験手法、基礎的知識とその応用- 遺伝子医学 MOOK 24 号. 横溝岳彦編集. メディカル ドゥ社. 2013.
41. 横溝岳彦. エイコサノイドの代謝. 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 改訂第2版. 南江堂. 2013; 157-60.

長岡 功

42. 長岡 功, 五十嵐庸. グルコサミンの関節に及ぼす効果と機能性食品開発. アンチ・エイジングシリーズ 3 骨研究最前線～代謝・疾患のメカニズムから再生医療・創薬・リハビリ機器・機能性食品開発まで～. 株式会社エヌ・ティー・エス. 2013; 393-401.
43. 百村 励, 内藤聖人, 五十嵐庸, 渡 泰士, 寺門厚彦, 大池新次, 岩瀬秀明, 坂本廣司, 板垣愛, 長岡 功, 金子和夫. 競輪選手の骨・軟骨代謝に及ぼすグルコサミンの効果. グルコサミン研究9 -より多くの人達の関心を得るために. 菅原 忍, 岡本芳晴, 奥村正裕, 中村 洋, 野村義宏, 和田政裕, 長岡 功 編集. エイド出版. 2013; 17-20.
44. 五十嵐庸, 鈴木 香, 坂本廣司, 長岡 功. サーチュイン 1 は軟骨細胞におけるグルコサミンの標的遺伝子である. グルコサミン研究 9 -より多くの人達の関心を得るために. 菅原 忍, 岡本芳晴, 奥村正裕, 中村 洋, 野村義宏, 和田政裕, 長岡 功 編集. エイド出版. 2013; 21-4.
45. 長岡 功, 朝長昭仁, 渡邊景太, 深川光彦. 麻杏薏甘湯加防己(痛散湯)の膝関節痛と慢性筋肉痛に対する改善効果. グルコサミン研究9 -より多くの人達の関心を得るために. 菅原 忍, 岡本芳晴, 奥村正裕, 中村 洋, 野村義宏, 和田政裕, 長岡 功 編集. エイド出版. 2013; 31-9.
46. 長岡 功, 鈴木朝日, 黒川美保子, 朝長昭仁, 深川光彦, 渡邊景太, 山本哲郎. コラーゲンペプチド含有食品の膝関節痛と各種バイオマーカーに対する効果. グルコサミン研究 9 -より多くの人達の関心を得るために. 菅原 忍, 岡本芳晴, 奥村正裕, 中村 洋, 野村義宏, 和田政裕, 長岡 功 編集. エイド出版. 2013; 40-7.
47. 染谷明正, 坂本廣司, 長岡 功. グルコサミンによる転写因子 Sp1 の O-N-アセチルグルコサミン修飾. グルコサミン研究 9 -より多くの人達の関心を得るために. 菅原 忍, 岡本芳晴, 奥村正裕, 中村 洋, 野村義宏, 和田政裕, 長岡 功 編集. エイド出版. 2013; 48-52.
48. 長岡 功. 骨、関節の健康. 機能性食品素材のためのヒト評価. 山本哲郎監修. シーエムシー

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

出版. 2013; 22-30.

山口重樹

49. 山口重樹, Donald R.Taylor. 拮抗性鎮痛薬 1)総論. 痛みの薬物治療. 山本達郎編集. 文光堂. 2013; 149-51.
50. 山口重樹, Donald R.Taylor. 拮抗性鎮痛薬 2)ペンタゾシン. 痛みの薬物治療. 山本達郎編集. 文光堂. 2013; 152-3.
51. 山口重樹, Donald R.Taylor. 拮抗性鎮痛薬 5)トラマドール. 痛みの薬物治療. 山本達郎編集. 文光堂. 2013; 161-4.
52. 山口重樹, 藤井宏一. 消化器系がん-肝臓がん. 病態・疾患別-がん性疼痛の治療. 井関雅子編集. 文光堂. 2013; 155-160.
53. 山口重樹, 藤井宏一. 消化器系がん-胆道がん. 病態・疾患別-がん性疼痛の治療. 井関雅子編集. 文光堂. 2013; 161-6.
54. 山口重樹, 藤井宏一. 消化器系がん-膵臓がん. 病態・疾患別-がん性疼痛の治療. 井関雅子編集. 文光堂. 2013; 167-72.
55. 山口重樹. 痛みの治療と医療用麻薬. 必要なくすりだがたよらない社会、くすりにたよらない精神医学. 井原 裕, 松本俊彦 編集. 日本評論社. 2013; 143-7.

<学会発表>

【国際学会】

2016

高森建二

1. Takamori K. Itching in atopic dermatitis: what's new. American Academy of Dermatology (AAD) 47th Annual Meeting, 2016 (3月・アメリカ)

横溝岳彦

2. Ishii Y, Liu M, Saeki K, Kabashima K, Yokomizo T. Roles of leukotriene B4 receptor type 2 in skin barrier function and wound healing. Keystone Symposium, Immunity in Skin Development, Homeostasis and Disease, 2016 (2月・アメリカ)

平林義雄

3. Hirabayashi Y. Critical Roles of Lipid Modification with Glucose in Life: Unexpected Synthesis of Novel Glycolipids in the ER Membrane. The 14th Gordon Research Conference on Glycolipid and Sphingolipid Biology, 2016 (3月・イタリア)

2015

高森建二

4. Takamori K, Tominaga M, Kamo A, Kamata Y. The Kuraishi Lecture: A message from nerve fibers-Involvement of nerve fibers in intractable itch in atopic dermatitis. 8th World Congress on Itch, 2015(9月・奈良)
5. Takamori K, Kamo A, Utako K, Kamata Y, Tominaga M. New therapeutic tool for itch-usefulness of excimer lamp in the treatment of intractable itch in atopic dermatitis. 8th World Congress on Itch, 2015(9月・奈良)
6. Tominaga M, Ko KC, Kamata Y, Umehara Y, Matsuda H, Takahashi N, Kina K, Ogawa M, Ogawa

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

- H, Takamori K. Pleiotropic action of cyclosporine on pruritus of atopic dermatitis. 8th World Congress on Itch, 2015(9月・奈良)
7. Kamata Y, Kimura U, Matsuda H, Tengara S, Tominaga M, Ogawa H, Takamori K. Correlation of plasma granzyme B levels with pruritus of atopic dermatitis. 8th World Congress on Itch, 2015(9月・奈良)
 8. Umehara Y, Kamata Y, Tominaga M, Niyonsaba F, Ogawa H, Takamori K. The effects of cathelicidin LL-37 on semaphorin 3A expression in normal human epidermal keratinocytes. 8th World Congress on Itch, 2015(9月・奈良)
 9. Torigoe K, Tominaga M, Takamori K. Intrathecal minocycline attenuates itch in atopic dermatitis mouse model. 8th World Congress on Itch, 2015(9月・奈良)
 10. Takamori K, Ko KC, Tominaga M. Antipruritic mechanisms of cyclosporine A in atopic dermatitis. 16th congress The European Society for Dermatology and Psychiatry, 2015(6月・ロシア)
 11. Takamori K, Tominaga M. Epidermal nerve fibers in atopic dermatitis-updates. 23rd World Congress of Dermatology, 2015(6月・カナダ)
 12. Umehara Y, Kamata Y, Tominaga M, Niyonsaba F, Ogawa H, Takamori K. The antimicrobial peptide cathelicidin LL-37 induces semaphorin 3A production in normal human epidermal keratinocytes. 2015 SOCIETY FOR INVESTIGATIVE DERMATOLOGY (SID), 2015(5月・アメリカ)
 13. Kamata Y, Sakaguchi A, Umehara Y, Tominaga M, Ogawa H, Takamori K. Effects of H1-antihistamines on expression of axon guidance molecules in normal human epidermal keratinocytes. 2015 SOCIETY FOR INVESTIGATIVE DERMATOLOGY (SID), 2015(5月・アメリカ)
- 横溝岳彦**
14. Liu M, Saeki K, Okuno T, Koga T, Yokomizo T. Crucial role of the 12-HHT receptor BLT2 in epidermal wound healing. 14th International Conference on Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation and Related Diseases, 2015(7月・ハンガリー)
 15. Shigematsu M, Koga T, Saeki K, Okuno T, Hoka S, Yokomizo T. BLT2 protects against mouse acute lung injury caused by a pneumococcal toxin pneumolysin. 14th International Conference on Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation and Related Diseases, 2015(7月・ハンガリー)
 16. Plenary Lecture, Yokomizo T. Distinct roles of two leukotriene B4 receptors. 14th International Conference on Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation and Related Diseases, 2015(7月・ハンガリー)
 17. Iwamoto S, Koga T, Liu M, Matsuda A, Yokomizo T, Murakami A. 12-HHT accelerates corneal wound healing through leukotriene B4 receptor 2 (BLT2). Association for Research in Vision and Ophthalmology 2015, 2015(5月・アメリカ)
 18. Koga T, Sasaki F, Saeki K, Ichiki T, Okuno T, Yokomizo T. Distinct roles of BLT1hi DCs and BLT1lo DCs in activating T cells. Keystone Symposium, 2015(3月・カナダ)
 19. Sasaki F, Koga T, Saeki K, Okuno T, Yokomizo T. Leukotriene B4 receptor 1 signaling promotes neovascular age-related macular degeneration. Keystone Symposium, 2015(3月・カナダ)
 20. Ichiki T, Koga T, Okuno T, Saeki K, Yamamoto Y, Sakaguchi M, Yokomizo T. Functional Interplay between the Leukotriene B4 receptor BLT1 and RAGE. 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators, 2015(2月・東京)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

21. Ishii Y, Saeki K, Min L, Okuno T, Yokomizo T. Leukotriene B4 receptor BLT2 enhances the formation of epithelial barrier by increasing claudin-4 expression. 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators, 2015(2月・東京)
22. Iwamoto S, Liu M, Matsuda A, Murakami A, Yokomizo T. 12-HHT accelerates corneal wound healing through leukotriene B4 receptor 2 (BLT2). 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators, 2015(2月・東京)
23. Koga T, Sasaki F, Saeki K, Ichiki T, Okuno T, Yokomizo T. BLT1 defines dendritic cell subsets with different characteristics in differentiation and proliferation of T cells. 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators, 2015(2月・東京)
24. Okuno T, Ishitani T, Yokomizo T. Identification and characterization of zebrafish BLT1 and BLT2. 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators, 2015(2月・東京)
25. Saeki K, Min L, Matsunobu T, Okuno T, Koga T, Nakamizo S, Kabashima K, Yokomizo T. 12-HHT promotes epidermal wound healing by accelerating keratinocyte migration via the BLT2 receptor. 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators, 2015(2月・東京)
26. Sasaki F, Koga T, Saeki K, Okuno T, Yokomizo T. M2 macrophages promote neovascular age-related macular degeneration through the activation of the leukotriene B4 receptor 1 signaling. 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators, 2015(2月・東京)
27. Shigematsu M, Koga T, Okuno T, Saeki K, Hoka S, Yokomizo T. BLT2 protects against mouse acute lung injury induced by pneumococcal toxin pneumolysin. 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators, 2015(2月・東京)
28. Takahashi N, Okuno T, Ooba M, Makino S, Takeda S, Yokomizo T. Multiplexed quantitative analysis of eicosanoids in pregnant women. 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators, 2015(2月・東京)
29. Yokomizo T. Distinct roles of two leukotriene B4 receptors. 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators, 2015(2月・東京)
30. Yokomizo T. BLT1 and BLT2, receptors for bioactive lipid mediators. Topics in regenerative biology, 2015(1月・チリ)

長岡 功

31. Suzuki K, Murakami T, Moribayashi T, Nagaoka I. A novel mechanism for the human host defense peptide LL-37-Induced mast cell degranulation. 48th Annual Meeting of the Society for Leukocyte Biology -Immunity in Health and Disease, Abstract book 17. 2015(9月・アメリカ)
32. Murakami T, Hu Z, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I. Mechanism for the lipopolysaccharide-induced release of high mobility group nucleosome-binding domain-1 from murine macrophage like RAW264.7. 48th Annual Meeting of the Society for Leukocyte Biology -Immunity in Health and Disease, Abstract book 85. 2015(9月・アメリカ)
33. Hu Z, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I. NETs (neutrophil extracellular traps) induce IL-1 β production by macrophages in the presence of lipopolysaccharide. 48th Annual Meeting of the Society for Leukocyte Biology -Immunity in Health and Disease, Abstract book 115. 2015(9月・アメリカ)

森本幾夫

34. Nishida H, Morimoto C, Sakamoto M, Yamada T. CD26 Is a Novel Target of Treatment for Tumor

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

Progression and Its Related Bone Disease in Multiple Myeloma. The 57th ASH Annual Meeting and Exposition, 2015(12月・アメリカ)

35. Fujimoto N, Ohnuma K, Aoe K, Hosono O, Yamada T, Kishimoto T, Morimoto C. Clinical significance of soluble CD26 in malignant pleural mesothelioma. 16th World Conference of Lung Cancer, 2015(9月・アメリカ)
36. Angevin E, Isambert N, Trillet-Lenoir VN, You B, Alexandre J, Zalcmann G, Viehl P, Farace F, Valleix F, Podoll T, Kuramochi Y, Miyashita I, Hosono O, Dang NH, Ohnuma K, Yamada T, Kaneko Y, Morimoto C. First-in-human Phase I administration of YS110, a humanized monoclonal antibody directed against the CD26 immunostimulatory molecule in advanced cancer patients. 2015 American Society of Clinical Oncology (ASCO), 2015(5月・アメリカ)

岩淵和久

37. Iwabuchi K, Nakayama H. Role of Lactosylceramide-enriched lipid rafts in innate immune response of human phagocytes. 12th International Conference on Innate Immunity, 2015(6月・ギリシャ)

池田勝久

38. Ikeda K. Effects of cytokine and chemokine release from the cultured fibroblasts and epithelial cells derived from the nasal polyps of eosinophilic chronic rhinosinusitis. 17th Asia Research Symposium in Rhinology, 2015(4月・中国)
39. Ikeda K. Postoperative management of eosinophilic chronic rhinosinusitis with nasal polyps. 2015 Korean Society of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, 2015(4月・韓国)
40. Ikeda K. Control of exacerbated features of eosinophil-dominant chronic rhinosinusitis with nasal polyps after endoscopic sinus surgery. 13th Asia-Oceania ORL-HNS Congress, 2015(3月・台湾)

2014

高森建二

41. Akiyama T, Tominaga M, Davoodi A, Nagamine M, Takamori K, Carstens MI, Carstens E. Spinal antinociceptive effect of gastrin releasing peptide (GRP) via GABAergic inhibitory interneurons expressing the GRP receptor (GRPR). Neuroscience 2014, 2014(11月・アメリカ)
42. Takamori K. Recent topics of itch in atopic dermatitis. Baltic Association of Dermatovenerologists, 2014(5月・ラトビア)
43. Kamata Y, Tominaga M, Umehara Y, Takamori K. The retinoid-related orphan receptor ROR α promote semaphorin 3A expression in human keratinocytes. 2014 SOCIETY FOR INVESTIGATIVE DERMATOLOGY (SID), 2014(5月・アメリカ)

横溝岳彦

44. Yokomizo T. Lipid mediators in health and disease - a tribute to Bengt Samuelsson. Receptor for leukotriene B₄, 2014(8月・スウェーデン)
45. Okuno T, Matsunobu T, Yokomizo T. Biosynthetic pathway of 12-hydroxyheptadecatrienoic acid revealed by LC-MS/MS system. 62nd ASMS Conference, 2014(6月・アメリカ)
46. Iwamoto S, Koga T, Liu M, Ohba M, Okuno T, Matsuda A, Yokomizo T, Murakami A. The relationships between corneal wound healing and leukotriene B₄ receptor 2 (BLT2) in Balb/c mice. Association for Research in Vision and Ophthalmology, 2014(5月・アメリカ)
47. Ichiki T, Sasaki F, Yokomizo T. Highly efficient immunoprecipitation using high-affinity FLAG antibody and magnetic beads. Keystone Symposium, 2014(3月・アメリカ)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

長岡 功

48. Suzuki K, Hu Z, Tamura H, Nagaoka I. Human host defense peptide LL-37 enhances the LPS uptake by endothelial cells without cell activation: a possible role in the LPS clearance. Joint Meeting of the Society for Leukocyte Biology and the International Endotoxin and Innate Immunity Society, Abstract book S25. 2014(10月・アメリカ)
49. Hu Z, Murakami T, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I. Antimicrobial peptide LL-37 inhibits pyroptosis of macrophages and protects sepsis in a murine model. Joint Meeting of the Society for Leukocyte Biology and the International Endotoxin and Innate Immunity Society, Abstract book S57. 2014(10月・アメリカ)
50. Ochiai T, Nishimura K, Watanabe T, Nakatani A, Yoshino K, Sato T, Kishine K, Murakami H, Myoujin M, Nagaoka I. Individualized chemotherapy for advanced colorectal cancer (CRC) based on collagen gel droplet-embedded drug sensitivity test (CD-DST) in clinical setting. 22nd United European Gastroenterology Week, Final Program 286, P1538. 2014(10月・オーストリア)
51. Hu Z, Murakami T, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I. The effects of antimicrobial peptide LL-37 on the pyroptosis of macrophages and a polymicrobial sepsis model. The 12th Japan-Korea International Symposium on Microbiology 2014, Program & Abstracts 58. 2014(3月・東京)
52. Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I. Human antimicrobial peptide LL-37 enhances the LPS uptake without cell activation in endothelial cells. The 12th Japan-Korea International Symposium on Microbiology 2014, Program & Abstracts 59, 2014(3月・東京)
53. Murakami T, Tamura H, Nagaoka I. Characterization of release mechanism of HMGN1, an alarmin, from LPS-stimulated RAW264.7 cells. The 12th Japan-Korea International Symposium on Microbiology 2014, Program & Abstracts 64. 2014(3月・東京)
54. Hosoda H, Tamura H, Nagaoka I. Regulation of TREM-1 gene expression in LPS-stimulated human monocytes/macrophages. The 12th Japan-Korea International Symposium on Microbiology 2014, Program& Abstracts 65. 2014(3月・東京)

岩淵和久

55. Nakayama H, Iwabuchi K. Lactosylceramide mediates innate immune responses depending on PAMPs in human neutrophils. Joint Meeting of the Society for Glycobiology (SFG) and the Japanese Society of Carbohydrate Research, 2014(11月・アメリカ)
56. Iwabuchi K, Nakayama H, Chiricozzi E, Prinetti A, Mauri L, Sonnino S. Lactosylceramide is a key player in infection and immunity. 2nd International workshop on molecular medicine of sphingolipids, 2014(10月・ドイツ)
57. Iwabuchi K. Lactosylceramide is a possible target for prevention of infectious disease. 2nd Microbiology & infectious Diseases Asia Congress, 2014(6月・シンガポール)

田部陽子

58. Tabe Y, Harada M, Miyamae Y, Matsushita H, Kojima K, Fujimura T, Kazuno S, Ueno T, Miida T, Marina Konopleva, Michael Andreeff. The mTOR kinase inhibitor AZD-2014 effectively reverses XPO1/CRM1 antagonist KPT-185-induced glycolysis/gluconeogenesis, enhancing antitumor effects in mantle cell lymphoma. 56th American Society of Hematology, 2014(12月・アメリカ)
59. Tabe Y, Harada M, Miyamae Y, Fujimura T, Kazuno S, Ueno T, Miida T, Michael Andreeff, Marina Konopleva. Metabolic re-programming in Notch-activated T-ALL by mTOR inhibitor AZD2014 combined with L-Asparaginase. 56th American Society of Hematology, 2014(12月・ア

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

メリカ)

60. Tabe Y, Hatanaka Y, Peter Ruvolo, Miida T, Steve Kornblau, Michael Andreeff, Marina Konopleva. Pro-survival effects of TGF- β 1 are associated with molecular signaling changes of ERK, FLI-1, and CD44 in AML cells. 56th American Society of Hematology, 2014(12月・アメリカ)
61. Tabe Y, Harada M, Miyamae Y, Mogushi K, Kazuno S, Fujimura T, Matsushita H, Ueno T, Yokomizo T, Miida T, Ismael Samudio, Michael Andreeff, Marina Konopleva. Bone marrow adipocyte-derived free fatty acids induce gene signature linking transcription with metabolic changes that contribute to survival of acute monocytic leukemia cells. 56th American Society of Hematolog, 2014(12月・アメリカ)
62. Tabe Y, Harada M, Miyamae Y, Kazuno S, Fujimura T, Ueno T, Miida T, Marina Konopleva, Michael Andreeff. Selective inhibitor of nuclear export selinexor (KPT-330) and BCL2 inhibitor ABT-199 enhance the anti-lymphoma effect of BTK inhibitor ibrutinib in mantle cell lymphoma. 56th American Society of Hematology, 2014(12月・アメリカ)
63. Tabe Y, Kojima K, Jin L, Iwanami H, Matsushita H, Kazuno S, Michael Kauffman, Sharon Shacham, Fujimura T, Ueno T, Miida T, Michael Andreeff. Molecular mechanisms of inhibition of ribosomal biogenesis and translational flux by the Selective Inhibitor of Nuclear Export (SINE) XPO1/CRM1 antagonist KPT-185 in mantle cell lymphoma. Global Academic Programs (MD Anderson Cancer Center), 2014(5月・韓国)

柿木隆介

64. Kakigi R. Pain and itch perception in humans. The First CiNet Conference, “New Directions in Pain Neuroscience”, 2014(12月・大阪)
65. Kakigi R. Pain and itch perception in humans. 8th IGAKUKEN International Symposium, “Pain Modulation and Opioid Functions”, 2014(9月・東京)
66. Kakigi R. Pain and itch perception in humans. 30th International Congress of Clinical Neurophysiology (ICCN2014), 2014(3月・ドイツ)

松田浩珍

67. Tanaka A, Matsuda H, et al. Relevance between skin condition and itch during development of atopic dermatitis. 24th International Symposium of Itch, 2014(10月・東京)
68. Matsuda H, Tanaka A, et al. Effect of ultra-pure soft water on atopic dermatitis in children. EAACI, 2014(6月・デンマーク)
69. Matsuda H, Tanaka A, et al. Involvement of skin surface pH on barrier function in development of atopic dermatitis. EAACI, 2014(6月・デンマーク)

山口重樹

70. Matsuzawa R, Kaneko K, Asakawa T, Kato E, Fukushima T, Takasusuki T, Maekawa M, Yamaguchi S, Hori Y. Effects of pregabalin on D-serine content and NMDA receptor-mediated synaptic transmission in the mouse spinal dorsal horn. Neuroscience 2014, 2014(11月・アメリカ)
71. Terashima T, Yamaguchi S, Takasusuki T, Hori Y, Yaksh TL. Antinociceptive mechanisms of spinal beta-endorphine with opioid receptor antagonists on acute pain. Neuroscience 2014, 2014(11月・アメリカ)
72. Ishikawa k, Yamaguchi S, Takasusuki T, Ueki K. Seminar for nurses to share information about new opioid products at introductory periods –how to use fentanyl patch for one day with safety.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

2nd Asian Congress on Pain, 2014(3月・台湾)

73. Takasusuki T, Terashima T, Ishikawa K, Fujii K, Yamaguchi S, Tony L Yaksh. Effects of calcium dependent calcium channels on spinal substance P release. 2nd Asian Congress on Pain, 2014(3月・台湾)
74. Fujii K, Yamaguchi S, Fujioka T, Takasusuki T, Hamaguchi S. Changes in the arterial blood flow after brachial plexus nerve block in anesthetized dogs. 2nd Asian Congress on Pain, 2014(3月・台湾)

2013

高森建二

75. Kamo A, Tominaga M, Kamata Y, Takamori K. Eximer lamp induces directly cutaneous nerve degeneration in animal models for pruritus. 22nd Congress of the European Academy of Dermatology and Venereology (EADV), 2013(10月・トルコ)
76. Kamo A, Tominaga M, Kamata Y, Noguchi A, Kimura U, Osamu N, Taneda K, Takamori K. Anti-pruritic effects of Neurotrophin in NC/Nga mice with atopic dermatitis-like symptoms. 7th World Congress on Itch, 2013(9月・アメリカ)
77. Kamata Y, Tominaga M, Umehara Y, Kamo A, Takamori K. Transcriptional regulation of human semaphorin 3A gene in normal epidermal keratinocytes: implication of application to intractable itch in atopic dermatitis. 7th World Congress on Itch, 2013(9月・アメリカ)
78. Tominaga M, Kamo A, Osamu N, Tengara S, Kamata Y, Noguchi A, Takamori K. Histamine H4 receptor antagonists ineffective against itch and skin inflammation in atopic dermatitis mouse model. 7th World Congress on Itch, 2013(9月・アメリカ)

横溝岳彦

79. Okuno T, Matunobu T, Yokoyama C, Yokomizo T. Biosynthetic pathway of 12-hydroxyeicosatetraenoic acid, a BLT2 ligand. 13th International Conference on Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation and Related Diseases, 2013(11月・プエルトリコ)
80. Koga T, Sasaki F, Saeki K, Ichiki T, Okuno T, Yokomizo T. Leukotriene B4 receptor 1 is a potential marker of mouse dendritic cells. The 8th Korea-Japan Conference on Cellular Signaling for Young Scientists, 2013(11月・福岡)
81. Sasaki F, Koga T, Saeki K, Okuno T, Yokomizo T. Physiological and pathological roles of leukotriene B4 receptor 1 in M2 macrophages. The 8th Korea-Japan Conference on Cellular Signaling for Young Scientists, 2013(11月・福岡)
82. Ikeda K, Sasaki F, Ueno A, Okuno T, Koga T, Yokomizo T. Generation, characterization and humanization of high-affinity monoclonal antibody against leukotriene B4 receptor 1 (BLT1). Faseb SRC: Lysophospholipid and Other Related Mediators-From Bench to Clinic, 2013(8月・ニセコ)
83. Koga T, Sasaki F, Saeki K, Ichiki T, Okuno T, Yokomizo T. Role of leukotriene B4 receptor BLT1 in dendritic cells. Faseb SRC: Lysophospholipid and Other Related Mediators-From Bench to Clinic, 2013(8月・ニセコ)
84. Liu M, Saeki K, Yokomizo T. Crucial role of the 12-HHT receptor BLT2 in epidermal wound healing. Faseb SRC: Lysophospholipid and Other Related Mediators-From Bench to Clinic, 2013(8月・ニセコ)
85. Sasaki F, Koga T, Saeki K, Okuno T, Yokomizo T. The physiological function of a leukotriene B4

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

receptor 1 in M2 macrophages. Faseb SRC: Lysophospholipid and Other Related Mediators-From Bench to Clinic, 2013(8月・ニセコ)

86. Yokomizo T. Leukotriene B4 receptors: BLT1 and BLT2. Faseb SRC: Lysophospholipid and Other Related Mediators-From Bench to Clinic, 2013(8月・ニセコ)

長岡 功

87. Nagaoka I., Igarashi M, Someya A, Sakamoto K. Current aspects of the chondroprotective and anti-inflammatory actions of a chitosan monomer glucosamine. Chitin Chitosan Res 19: 135. 10th Asia Pacific Chitin & Chitosan Symposium/27th Japanese Chitin and Chitosan Symposium, 2013 (10月・米子)

88. Someya A, Sakamoto K, Nagaoka I. Glucosamine suppresses IL-8 expression through the O-N-acetylglucosamine modification of transcription factor Sp1 in synovial cells. Chitin Chitosan Res 19: 215. 10th Asia Pacific Chitin & Chitosan Symposium/27th Japanese Chitin and Chitosan Symposium, 2013(10月・米子)

89. Igarashi M, Suzuki K, Someya A, Sakamoto K, Nagaoka I. Sirtuin 1 is a target gene of glucosamine in chondrocytes. Chitin Chitosan Res 19: 218. 10th Asia Pacific Chitin & Chitosan Symposium/27th Japanese Chitin and Chitosan Symposium, 2013(10月・米子)

山倉文幸

90. Chuang CY, Degendorfer G, Hammer A, Malle E, Kawasaki H, Yamakura E., Whitelock JM, Davies MJ. Peroxynitrite-mediated damage in the artery wall and its consequences. The 2013 meeting of the Society for Free Radical Research (SFRR), 2013 (9月・ギリシャ)

91. Kawasaki H, Ikeda M, Sakai K, Matsumoto A, Iizumi K, Uda M, Baba T, Takamori K., Yamakura E. Identification of 6-NO₂Trp containing proteins in SHRSP – possible biomarker and relation to hypertension. The 2013 meeting of the Society for Free Radical Research (SFRR), 2013 (9月・ギリシャ)

92. Kawasaki H, Ikeda M, Sakai K, Shigenaga A, Iizumi K, Uda M, Baba T, Takamori K., Yamakura E. Proteomic analysis for identification of 6-NO₂Trp containing proteins in stroke-prone spontaneously hypertensive rat, SHRSP. SFRBM 2013-20th Annual Meeting of the Society for Free Radical Biology and Medicine, 2013(11月・アメリカ)

93. Uda M, Kawasaki H, Iizumi K, Shigenaga A, Baba T, Yamakura F. Presence of nitrotryptophan-containing proteins in the adult rat skeletal muscle. SFRBM 2013-20th Annual Meeting of the Society for Free Radical Biology and Medicine, 2013(11月・アメリカ)

94. G Degendorfe, CY Chuang, Yamakura F., Kawasaki H, Davies MJ. Peroxynitrous acid mediated oxidation of fibronectin affects protein structure and compromises endothelial cell binding. SFRBM 2013-20th Annual Meeting of the Society for Free Radical Biology and Medicine, 2013 (11月・アメリカ)

岩淵和久

95. Iwabuchi K. Organization and functions of glycolipid-enriched microdomains in phagocytes. 54th International Conference on the Bioscience of Lipids: Linking Transcription to Physiology in Lipidomics, 2013(9月・イタリア)

96. Iwabuchi K. Role of Glycolipids in Innate Immune Response. 22nd International Symposium on Glycoconjugates, 2013(6月・中国)

田部陽子

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

97. Tabé Y, Kojima K, Jin L, Iwanami H, Matsushita H, Kazuno S, Kauffman M, Shacham S, Fujimura T, Ueno T, Miida T, Andreeff M. Molecular mechanisms of inhibition of ribosomal biogenesis and translational flux by the Selective Inhibitor of Nuclear Export (SINE) XPO1/CRM1 antagonist KPT-185 in mantle cell lymphoma. 55th American Society of Hematology Annual Meeting, 2013(12月・アメリカ)
98. Tabé Y, Jin L, Hatanaka Y, Matsushita H, Kazuno S, Fujimura T, Ueno T, Sasai K, Iwabuchi K, Andreeff M, Konopleva M, Miida T. Integrative genomic and proteomic analysis of low-dose ionizing irradiation effects on bone marrow stromal microenvironment and on survival of pre-leukemic cells. 55th American Society of Hematology Annual Meeting, 2013(12月・アメリカ)
99. Tabé Y, Jin L, Iwanami H, Matsushita H, Kazuno S, Fujimura T, Ueno T, Miida T, Weinstock D, Thomas DA, Andreeff M, Konopleva M. Efficacy and mechanisms of the mTOR inhibitor AZD2014 combined with L-Asparaginase or JAK2 inhibitor TG101348 in ALL. 55th American Society of Hematology Annual Meeting, 2013(12月・アメリカ)
100. Tabé Y, Jin L, Iwanami H, Matsushita H, Kazuno S, Fujimura T, Ueno T, Miida T, Andreeff M, Konopleva M, Kimura S. Metabolic shift in hypoxia-adapted CML cells and mechanisms of acquired dasatinib resistance uncovered by proteomic iTRAQ profiling. 55th American Society of Hematology Annual Meeting, 2013(12月・アメリカ)
101. Tabé Y, Jin L, Kazuno S, Fujimura T, Matsushita H, Ueno T, Miida T, Andreeff M, Konopleva M. Molecular mechanisms of adipocyte-leukemia interactions revealed by the quantitative proteomics technology: pro-survival function of adipocyte-derived free fatty acids on acute monoblastic leukemia mitochondrial biogenesis. 55th American Society of Hematology Annual Meeting, 2013(12月・アメリカ)
102. Yamada H, Tabé Y, Ishii K, Terao Y, Takeda S, Horii T, Ohsaka A. Performance evaluation of a novel high-risk Human Papilloma Virus Genotyping test (Clinichip HPV™). American Association for Clinical Chemistry Annual Meeting, 2013(7月・アメリカ)
103. Takemura H, Tabé Y, Yamaguchi K, Ishii K, Kasuga K, Horii T, Miida T, Ohsaka A. Detection of tumor cells in body fluids by the automated morphological analysis system CellaVision DM96 following the automated cell counting by the Sysmex XE5000. American Association for Clinical Chemistry Annual Meeting, 2013(7月・アメリカ)
104. Idei M, Tabé Y, Miyake K, Hamada C, Takemura H, Io H, Ishii K, Horii T, Tomino Y, Ohsaka A, Miida T. The clinical significance of mesothelial cell in peritoneal dialysis effluent detected by Cellavision DM96. American Association for Clinical Chemistry Annual Meeting, 2013(7月・アメリカ)

池田勝久

105. Ikeda K. Subclassification of chronic rhinosinusitis with nasal polyp based on eosinophil and neutrophil: Immunological backgrounds of Japanese populations. 7th International symposium on recent advances in rhinosinusitis and nasal polyposis, 2013(10月・松江)
106. Ikeda K. Role of eosinophils in chronic rhinosinusitis with nasal polyps. IFOS, 2013(6月・韓国)

柿木隆介

107. Kakigi R. Pain and itch perception in humans. 5th Asian Pain Symposium, 2013(12月・岡崎)
108. Kakigi R. Painful and itchy brain. 1st Joint CU-NIPS Symposium "Frontier in Physiological Sciences Research, From Basic Research to Diseases and Treatments, 2013(10月・タイ)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

松田浩珍

109. Matsuda H, Tanaka A, et al. Influence of the potential hydrogen on skin barrier function and immune responses in NC/Tnd mice, a model for human AD. The European Academy of Allergy and Clinical Immunology (EAACI), 2013(6月・イタリア)
110. Matsuda H, Tanaka A, et al. House dust mite allergens induce IgE-independent activation of canine mast cells NI-1. The European Academy of Allergy and Clinical Immunology (EAACI), 2013(6月・イタリア)

山口重樹

111. Yamaguchi S. Challenges to setting reasonable opioid therapy for chronic non-cancer pain in Japan: The first guidelines in Asia. The 30th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, 2013(10月・アメリカ)

【国内学会】**2016****高森建二**

112. 高森建二. 『かゆみのメカニズムと対策』～特にレミッチとかゆみの相関について～. レミッチエリアフォーラム, 2016(2月・神奈川)

長岡 功

113. Hu Zhongshuang, 鈴木 香, 田村弘志, 長岡 功. Neutrophil extracellular traps (NETs) induces the IL-1beta production by macrophages. 日本細菌学雑誌, 2016; 71: 150. 第 89 回日本細菌学会総会, 2016(3月・大阪)
114. 伊坂聡子, 染谷明正, 野沢雅彦, 井上直樹, 杉原富人, 長岡 功, 金子和夫. ラット変形性関節症モデルに対するコラーゲンペプチドの効果. 第 12 回グルコサミン研究会学術集会プログラム, 2016; 6-7. 第 12 回グルコサミン研究会学術集会, 2016(2月・東京)
115. 五十嵐庸, 坂本廣司, 長岡 功. グルコサミンは軟骨細胞においてサーチュイン 1 を介して II 型コラーゲンの発現を亢進する. 第 12 回グルコサミン研究会学術集会プログラム, 2016; 8. 第 12 回グルコサミン研究会学術集会, 2016(2月・東京)
116. 橋口素子, 鈴木 香, 金子和夫, 長岡 功. ヒト RA 患者由来滑膜細胞 MH7A の細胞増殖とアポトーシスに及ぼすアロエエモジンの効果—メトトレキサートとの比較. 第 12 回グルコサミン研究会学術集会プログラム, 2015; 10-11. 第 12 回グルコサミン研究会学術集会, 2016(2月・東京)
117. 鶴田暁史, 長岡 功. プロラグビー選手に対するゼリードリンク型機能性食品の効果. 第 12 回グルコサミン研究会学術集会プログラム, 2016; 12-13. 第 12 回グルコサミン研究会学術集会, 2016(2月・東京)

櫻井 隆

118. 山名智人, 上窪裕二, 井上由理子, 櫻井 隆. 海馬の神経細胞におけるナノシリカの細胞毒性. 第 93 回日本生理学会大会, 2016(3月・札幌)
119. 山名智人, 上窪裕二, 井上由理子, 櫻井 隆. シリカナノ粒子は海馬神経細胞に対して酸化ストレスを引き起こす. 第 89 回日本薬理学会年会, 2016(3月・横浜).
120. 上窪裕二, 新里和恵, 橋本祥江, 櫻井 隆. β セクレターゼによるシナプス形成と機能の制御. 第 89 回日本薬理学会年会, 2016(3月・横浜)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

岩渕和久

121. 海老名昭寛, 工藤綾子, 岩渕和久. 感染症看護専門看護師としての倫理調整における現状と課題. 第 31 回日本環境感染学会総会, 2016 (2 月・京都)
122. 後藤祐介, 川上和美, 工藤綾子, 岩渕和久. MRSA サーベイランスにおける感染管理担当看護師の役割と困難さの要因. 第 31 回日本環境感染学会総会, 2016(2 月・京都)
123. 安田雅一, 岩渕和久, 工藤綾子. 初産婦と経産婦の予防接種に対する認識. 第 31 回日本環境感染学会総会, 2016(2 月・京都)

池田勝久

124. 中村真浩, 三輪正人, 池田勝久. 気道上皮と表皮でのフィラグリン発現の検討. 第 34 回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 2016(2 月・三重)

柿木隆介

125. 柿木隆介. 痒みと痛みの脳内認知機構. 第 45 回日本慢性疼痛学会, 2016(2 月・佐賀)

松田浩珍

126. 松田浩珍, 田中あかね. アトピーと表皮バリア. 第79回日本皮膚科学会 東京・東部支部合同学術集会, 2016(2 月・東京)

山口重樹

127. 濱口眞輔, 山下雄介, 小松崎誠, 安島崇晃, 佐藤雄也, 坂口結夢, 山口重樹. 慢性疼痛に対するオピオイド徐放製剤処方の後方視的調査. 第 45 回日本慢性疼痛学会, 2016(2 月・佐賀)
128. 小澤継史, 濱口眞輔, 山口重樹, 小林俊哉. リエゾン精神医学を導入した慢性頭痛患者の治療経験. 第 45 回日本慢性疼痛学会, 2016(2 月・佐賀)
129. 寺島哲二, 池田知史, 小松崎誠, 古川直樹, 木村嘉之, 濱口眞輔, 山口重樹. 自殺企図の誘因となったフェンタニル貼付製剤乱用の一例. 第 45 回日本慢性疼痛学会, 2016(2 月・佐賀)
130. 山口重樹. どうする, わかっていない慢性疼痛のオピオイド治療. 第 45 回日本慢性疼痛学会, 2016(2 月・佐賀)

2015**高森建二**

131. Tominaga M, Kusube F, Kawasaki H, Yamakura F, Naito H, Ogawa H, Tomooka Y, Takamori K. Electrophysiological characterization of BNP- and GRP-responsive dorsal horn neurons in spinal itch transmission. 第 40 回日本研究皮膚科学会, 2015(12 月・岡山)
132. Kamata Y, Umehara Y, Tominaga M, Negi O, Ogawa H, Takamori K. Inhibitory factors in semaphorin 3A expression of human epidermal keratinocytes. 第 40 回日本研究皮膚科学会, 2015(12 月・岡山)
133. Umehara Y, Kamata Y, Tominaga M, Niyonsaba F, Ogawa H, Takamori K. Effects of antimicrobial peptides on expression of axon guidance molecules in normal human epidermal keratinocytes. 第 40 回日本研究皮膚科学会, 2015(12 月・岡山)
134. Hattori F, Ikeda S, Okumura K, Tominaga M, Takamori K, Ogawa H, Okamoto K, Niyonsaba F. Host defense protein S100A7/psoriasin regulates pores in the epidermis: aquaporins and tight junctions. 第 40 回日本研究皮膚科学会, 2015(12 月・岡山)
135. 鎌田弥生, 富永光俊, 梅原芳恵, 高森建二. ヒト表皮角化細胞を用いたセマフォリン 3A 遺伝子の近位プロモーター領域の解析. 第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学会大会合同大会, 2015(12 月・神戸)
136. 鎌田弥生, 坂口安澄, 梅原芳恵, 富永光俊, 根木 治, 小川秀興, 高森建二. ヒスタミン H1 受

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

- 容体拮抗薬による表皮角化細胞における軸索ガイダンス分子の発現調節. 第45回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 2015(11月・島根)
137. 高森建二. かゆみの研究の最前線～かゆみのメカニズムの解明とその対策～. 第6回岐阜皮膚科臨床セミナー, 2015(11月・岐阜)
138. 梅原芳恵, 鎌田弥生, 富永光俊, Francois Niyonsaba, 小川秀興, 高森建二. 抗菌ペプチド LL-37 は培養正常ヒト表皮角化細胞における神経反発因子 semaphorin 3A の発現を促進する. 第45回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 2015(11月・島根)
139. 高森建二. かゆみのメカニズムとその対策. レミッチ効能追加記念講演会, 2015(9月・京都)
140. 梅原芳恵, 富永光俊, 松田浩則, 鎌田弥生, 高森建二. ヒト iPS 細胞からのかゆみ末梢神経誘導法の開発. 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会 合同大会, 2015(12月・神戸)
141. 鎌田弥生, 木村有太子, 松田浩則, Suhandy Tenggara, 加茂 敦子, 富永光俊, 高森建二. 血漿 グランザイム濃度とアトピー性皮膚炎の重症度の相関解析. 第20回日本病態プロテアーゼ学会, 2015(8月・名古屋)
142. 高森建二. 透析に伴うかゆみを制御する. 京葉泌尿器疾患フォーラム, 2015(3月・千葉)
- 横溝岳彦**
143. 市木貴子, 古賀友紹, 奥野利明, 佐伯和子, 阪口政清, 山本靖彦, 横溝岳彦. ロイコトリエン B4 第一受容体 BLT1 と RAGE は機能的に相互作用する. 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会 合同大会, 2015(12月・神戸)
144. 岩本怜, 古賀友, 奥野利, 松田彰, 村上晶, 横溝岳彦. ロイコトリエン B4 第二受容体(BLT2) は角膜創傷治癒を促進する. 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会 合同大会, 2015(12月・神戸)
145. 古賀友紹, 奥野利明, 佐伯和子, 中村衣里, 多田昇弘, 横溝岳彦. CRISPR/Cas9 によるロイコトリエン A4 水解酵素欠損マウスの作製. 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会 合同大会, 2015(12月・神戸)
146. 池田恒基, 佐々木文之, 上野あゆみ, 佐伯和子, 奥野利明, 古賀友紹, 横溝岳彦. ロイコトリエン B4 第一受容体(BLT1)とFLAG タグに対するマウス単クローン抗体のヒトキメラ化. 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会 合同大会, 2015(2月・神戸)
147. 佐伯和子, 石井由美子, 横溝岳彦. 上皮バリア機能維持における 12-HHT 受容体 BLT2 の役割. 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会 合同大会 ワークショップ, 2015(12月・神戸)
148. 重松美沙子, 古賀友紹, 佐伯和子, 奥野利明, 外須美夫, 横溝岳彦. ロイコトリエン B4 第二受容体 BLT2 は急性肺傷害時に肺保護作用を発揮する. 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会 合同大会 ワークショップ, 2015(12月・神戸)
149. 重松美沙子, 古賀友紹, 佐伯和子, 奥野利明, 横溝岳彦. Pneumolysin 誘導性急性肺傷害における BLT2 の肺保護作用. 第12回東京呼吸器リサーチフォーラム, 最優秀発表賞, 2015(11月・東京)
150. 若山貴則, 齋田良知, 小林洋平, 奥野利明, 横溝岳彦, 倉田憲一, 鎌野俊哉, 深作進, 金子和夫, 根本昌幸. 変形性膝関節症患者における関節内酸化ストレスと ω 3 不飽和脂肪酸の検討. 第88回日本整形外科学会基礎学術集会, 2015(10月・富山)
151. 岩本怜, 古賀友紹, 奥野利明, 村上晶, 横溝岳彦, 松田彰. 角膜損傷の新規治療薬としての脂質メディエーターの可能性. 第35回日本眼薬理学会, 2015(9月・東京)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

152. 横溝岳彦. 生理活性脂質受容体 BLT1 と BLT2: 眼疾患治療応用の可能性. 第 35 回日本眼薬理学会 特別講演, 2015(9 月・東京)
153. 武田知起, 小宮由季子, 木庭彰彦, 仲矢道雄, 黒瀬等, 横溝岳彦, 清水孝雄, 内博史, 古江増隆, 石井祐次, 山田英之. ダイオキシンによる肝障害の新たな機構 ロイコトリエン B4 合成亢進の役割. 第 42 回日本毒性学会, 2015 (6 月・金沢)
154. 横溝岳彦. 国策としての脂質研究のサポートを. 第 57 回日本脂質生化学会, 2015(5 月・東京)
155. Saeki K, Liu M, Yokomizo T. Platelet-derived lipid mediator, 12-HHT promotes epidermal wound healing by accelerating keratinocyte migration via the BLT2 receptor. 第 37 回日本血栓止血学会学術集会 シンポジウム(招待講演), 2015(5 月・甲府)
156. 岩本怜, 古賀友紹, Liu M, 奥野利明, 松田彰, 横溝岳彦, 村上晶. ロイコトリエン B4 第二受容体 (BLT2) は角膜創傷治癒を促進する. 日本眼科学会総会, 2015(4 月・札幌)

長岡功

157. 胡 忠双, 鈴木 香, 田村弘志, 長岡 功. マクロファージ系細胞における IL-1 β 産生に対する NETs (neutrophil extracellular traps) の作用. 第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学会合同大会プログラム, 2015; 3: 1132. 2015(12 月・神戸)
158. 染谷明正, 坂本廣司, 長岡 功. グルコサミンは O-N-グルコサミン修飾を介して Sp1 の転写活性と核内局在性を調節する. 第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学会合同大会プログラム, 2015; 1: 552. 2015(12 月・神戸)
159. Hu Z, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I. NETs (neutrophil extracellular traps) induces the the IL-1 β production by macrophages. 第 21 回日本エンドトキシン・自然免疫研究会 プログラム抄録集: 21. 2015(12 月・東京)
160. 鈴木 香, 村上泰介, 胡 忠双, 長岡 功. 肝類洞内皮細胞による血液浄化作用に対するヒト生体防御ペプチド LL-37 の効果. 第 2 回日本血管血流学会学術集会抄録 14. 2015(11 月・東京)
161. Hu Z, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I. The role of NETs (neutrophil extracellular traps) in the IL-1 β production by macrophages. 第 98 回日本細菌学会関東支部会総会プログラム・抄録集 41. 2015(10 月・東京)
162. 五十嵐 庸, 坂本廣司, 長岡 功. グルコサミンは軟骨細胞において II 型コラーゲン遺伝子の発現を増加する. 第 22 回日本未病システム学会学術総会抄録集 121. 2015(10 月・札幌)
163. 染谷明正, 坂本廣司, 長岡 功. 糖化修飾を介したグルコサミンによる転写因子 Sp1 の機能抑制機構. 第 22 回日本未病システム学会学術総会抄録集 166. 2015(10 月・札幌)
164. 染谷明正, 坂本廣司, 長岡 功. グルコサミンによる転写因子 Sp1 の制御機構について. キチン・キトサン研究 21: 110-111. 第 29 回キチン・キトサン学会大会, 2015(8 月・熊本)
165. 五十嵐庸, 坂本廣司, 長岡 功. グルコサミンは軟骨細胞において II 型コラーゲン遺伝子の発現を亢進する. キチン・キトサン研究 21: 150-151. 第 29 回キチン・キトサン学会大会, 2015(8 月・熊本)
166. 長岡 功. グルコサミンと健康 –その多彩な作用. 抗加齢と健康科学 –キチン・キトサンのパワー. Let's 不思議! 東海大学 第52回公開セミナー, 2015(8 月・熊本)
167. 村上泰介, 田村弘志, 長岡 功. LPS 刺激 RAW264.7 細胞からの HMGN1 の放出機序. 第 26 回日本生体防御学会学術総会 講演抄録集 55. 2015(7 月・東京)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

168. Hu Z, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I. The role of NETs (neutrophil extracellular traps) in the IL-1 β production by macrophages. 第 26 回日本生体防御学会学術総会 講演抄録集 54. 2015 (7 月・東京)
169. 胡 忠双, 村上泰介, 鈴木 香, 田村弘志, 長岡 功. NETs (Neutrophil extracellular traps) と LPS による共刺激がマクロファージからの IL-1 β 放出を誘導する. 第 62 回トキシシンポジウム予稿集 11. 2015 (7 月・志摩)
170. 細田浩司, 胡 忠双, 田村弘志, 長岡 功. 炎症増強因子 TREM-1 のリガンド同定の試み. 第 62 回トキシシンポジウム予稿集 11. 2015 (7 月・志摩)
171. 鈴木 香, 村上泰介, 長岡 功. ヒト抗菌ペプチド LL-37 によるかゆみ誘発(マスト細胞の活性化). 第 62 回トキシシンポジウム予稿集 15. 2015 (7 月・志摩)
172. 鈴木 香, 田村弘志, 長岡 功. Cell surface HS proteoglycans mediate the uptake of antimicrobial peptide LL-37-LPS complex by LSECs. 日本細菌学雑誌 70: 231. 第 88 回日本細菌学会総会, 2015 (3 月・岐阜)
173. 胡 忠双, 鈴木 香, 田村弘志, 長岡 功. NETs (neutrophil extracellular traps) induce the IL-1 β production by macrophages. 日本細菌学雑誌 70: 232. 第 88 回日本細菌学会総会, 2015 (3 月・岐阜)
174. Nagaoka I, Hu Z, Suzuki K, Tamura H. Potential effects of human antimicrobial peptide LL-37 on macrophage pyroptosis and sepsis. 第 88 回日本薬理学会年会, プログラム S1F-15-4. 2015 (3 月・名古屋)
175. 長岡 功, 坂本廣司, 山本哲郎. 軟骨代謝マーカーを用いたグルコサミンの評価. 第 11 回グルコサミン研究会学術集会プログラム 12. 第 11 回グルコサミン研究会学術集会, 2015 (2 月・東京)
176. 五十嵐庸, 鈴木 香, 坂本廣司, 長岡 功. グルコサミンは軟骨細胞において II 型コラーゲン遺伝子の発現を亢進する. 第 11 回グルコサミン研究会学術集会プログラム 16. 第 11 回グルコサミン研究会学術集会, 2015 (2 月・東京)
177. 染谷明正, 坂本廣司, 長岡 功. グルコサミンは糖化修飾作用を介して転写因子 Sp1 の細胞内局在を調節する. 第 11 回グルコサミン研究会学術集会プログラム 18. 第 11 回グルコサミン研究会学術集会, 2015 (2 月・東京)
178. 斉木彩乃, 信夫 正, 澤田陽子, 五十嵐庸, 長岡 功. 滑膜細胞の炎症応答に対するグルコサミンとリンゴポリフェノールの影響. 第 11 回グルコサミン研究会学術集会プログラム 20. 第 11 回グルコサミン研究会学術集会, 2015 (2 月・東京)
179. 鶴田暁史, 長岡 功. 女性アスリートにおける軟骨代謝とゼリードリンク型機能性食品の効果. 第 11 回グルコサミン研究会学術集会プログラム 30-31. 第 11 回グルコサミン研究会学術集会, 2015 (2 月・東京)

森本幾夫

180. 森本幾夫. CD26 の機能と治療応用. 中皮腫シンポジウム, 2015 (12 月・兵庫)
181. 森本幾夫. CD26 抗体を基盤とするトランスレーショナルリサーチ. 第 57 回日本小児血液・がん学会, 2015 (11 月・山梨)
182. Hatano R, Yamada T, Otsuka H, Komiyama E, Iwao N, Okumura K, Morimoto C, Ohnuma K. Anti-interleukin-26 therapy for lung fibrosis of GVHD. 第 74 回日本癌第 77 回日本血液学会学術集会, 2015 (10 月・金沢)
183. 林 睦, 間所裕子, 山田幸司, 西田浩子, 坂元亨宇, 森本幾夫, 山田健人. Antitumor activity of anti-CD26 humanized monoclonal antibody conjugated with triptolide via intranuclear

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

- transportation. 学会学術総会, 2015(10月・名古屋)
184. 古宮栄利子, 山崎裕人, 山田健人, 森本幾夫. CD26 promotes invasiveness of malignant pleural mesothelioma cell via upregulation of periostin. 第74回日本癌学会学術総会, 2015(10月・名古屋)
185. 波多野良, 大沼 圭, 石井智徳, 岩田哲史, 奥村 康, 関川 巖, 森本幾夫. T細胞共刺激分子CD26に基づく全身性エリテマトーデスの病態および疾患活動性の新規バイオマーカーの探索. 第59回日本リウマチ学会総会, 2015(4月・名古屋)
- 樋野興夫**
186. 北野隆之, 小林敏之, 小橋(張)丹青, 樋野興夫. Tsc2欠損腫瘍細胞の増殖をrapamycinと協調的に抑制するシグナル阻害薬の探索. 第38回日本分子生物学会年会. 第88回日本生化学学会大会合同大会, 2015(12月・神戸)
187. 樋野興夫, 今井美沙. Establishment of early diagnosis/treatment system for malignant mesothelioma. 第20回日韓ワークショップ(講演), 2015(11月・東京)
188. 樋野興夫. 予防医学. 疾患予防セミナー(講演), 2015(11月・長野)
189. 樋野興夫. 発がんの連盟的首位性～遺伝と環境～(講演). 第74回日本癌学会学術総会, 2015(10月・名古屋)
190. 水谷奈津子, 松岡周二, 梶野一徳, 脇屋緑, 樋野興夫. 悪性中皮腫に対する新規治療抗体の樹立. 第74回日本癌学会学術総会, 2015(10月・名古屋)
191. 小林敏之, 小橋(張)丹青, 樋野興夫. FolliculinとTxnipによるストレス応答経路制御. 第74回日本癌学会学術総会, 2015(10月・名古屋)
192. 佐伯春美, 梶野一徳, 樋野興夫. 子宮内膜癌におけるミスマッチ修復遺伝子発現: 背景子宮内膜の免疫組織化学的検討. 第74回日本癌学会学術総会, 2015(10月・名古屋)
193. 小島雅貴, 梶野一徳, 樋野興夫. ERC/Mesothelinが中皮腫の組織型に及ぼす影響. 第74回日本癌学会学術総会. 2015(10月・名古屋)
194. 松村優子, 伊藤恭彦, Nadila Wali, 伊藤 匠, 茂柳 薫, 寺尾泰久, 竹田 省, 奥村 康, 竹田和由, 樋野興夫, 折茂 彰. 癌内繊維芽細胞は転移促進性のオートクラインシグナルを誘導して癌細胞を悪性化する. 第74回日本癌学会学術総会, 2015(10月・名古屋)
195. 松岡周二, 水谷奈津子, 荒瀬 尚, 樋野興夫. 抗MHC Class I及びMHC class II抗体は補体非依存性に様々なリンフォーマ細胞やATL細胞株に大きな穴をあけて殺す. 第74回日本癌学会学術総会, 2015(10月・名古屋)
196. 小橋(張)丹青, 小林敏之, 樋野興夫. EGF受容体のシグナル伝達に関わるErc/mesothelinの役割. 第74回日本癌学会学術総会, 2015(10月・名古屋)
197. 岡澤 裕, 水越幸輔, 小見山博光, 伊藤恭彦, 五藤倫敏, 垣生園子, 樋野興夫, 坂本一博, 折茂 彰. 患者由来大腸癌は様々な異なった転移様式を呈する. 第74回日本癌学会学術総会, 2015(10月・名古屋)
198. 堀本義哉, 荒川 敦, 氷室貴規, 猪狩史江, 田辺真彦, 樋野興夫, 齋藤光江. Differences in expression patterns among cancer stem cell markers in breast cancer samples. 第104回日本病理学会総会, 2015(4月・名古屋)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

199. 樋野興夫. 純度の高い専門性と社会的包容力～病理医の役割～. 第104回日本病理学会総会市民公開講座, 2015(4月・名古屋)

櫻井 隆

200. 上窪裕二, 山名智人, 櫻井 隆. GPCR複合体形成による神経機能の制御. 第38回日本神経科学大会, 2015(7月・神戸)

201. 坂入伯駿, 上窪裕二, 櫻井 隆. 代謝型グルタミン酸受容体1型はアデノシン A1 受容体のシグナルを制御する. 第88回日本薬理学会年会, 2015(3月・名古屋)

山倉文幸

202. 川崎広明, 馬場 猛, 重永綾子, 飯泉恭一, 高森建二, 山倉文幸. 2型糖尿病モデルマウスでのトリプトファンニトロ化による Glutathione s-transferase の機能傷害. 第15回日本NO学会学術集会, 2015(6月・大阪)

203. 飯泉恭一, 富永光俊, 川崎広明, 重永綾子, 加茂敦子, 鎌田弥生, 高森建二, 山倉文幸. 6-ニトロトリプトファン修飾免疫グロブリンはアトピー性皮膚炎のマーカーになり得るか? 第15回日本NO学会学術集会, 2015(6月・大阪)

岩淵和久

204. 中山仁志, 横山紀子, 栗原秀剛, 岩淵和久. ラクトシルセラミドの脂質マイクロドメインはヒト好中球におけるLPS誘導性炎症応答を仲介する. 第88回日本生化学会大会, 2015(12月・兵庫)

205. 村手源英, 阿部充宏, 笠原浩二, 岩淵和久, 梅田真郷, 小林俊秀. 細胞膜の脂質二重層を構成する各種の脂質が示す非対称分布とその破綻. 第88回日本生化学会大会, 2015(12月・兵庫)

206. 岩淵和久, 中山仁志, 横山紀子, 石井久美子, 小林俊秀. ラクトシルセラミドの脂質マイクロドメインの構造と機能解析について. 第8回セラミド研究会, 2015(10月・札幌)

207. 横山三紀, 市野瀬志津子, 石井久美子, 栗原秀剛, 市野瀬省三, 只野有富桂子, 多田昇弘, 寺澤和恵, 井上カタジナアンナ, 小林俊秀, 古川鋼一, 岩淵和久. 糖脂質は血液精巣関門のリモデリングに必要なタイトジャンクションストランドの配置を制御する. 第8回セラミド研究会, 2015(10月・札幌)

208. 岩淵和久. スフィンゴ糖脂質の脂質ラフトの構造的特徴は免疫応答性を変えうるか. Glyco-Immunology 2015 糖鎖免疫, 2015(8月・東京)

209. 岩淵和久, 中山仁志. ヒト好中球におけるCD14とラクトシルセラミドを介したLPSシグナリング. 第24回内毒素・LPS研究会, 2015(6月・東京)

210. Nakayama H, Yokoyama N, Iwabuchi K. Glycosphingolipid-mediated inflammation in human neutrophils. 第9回スフィンゴセラミド研究会, 2015(10月・加賀)

211. ルーディ チミンチ イキャロンゴ ボ ラウエレ, 横山紀子, 中山仁志, 平林義雄, 岩淵和久. ホスファチジルグルコシドを介した好中球分化について. 第57回日本脂質生化学会大会, 2015(6月・東京)

須賀 康

212. 須賀 康. アトピー性皮膚炎を読み解く. 座長:三石 剛. 第6回八千代地域連携皮膚科勉強会, 2015(10月・八千代市)

213. 須賀 康. 魚鱗癬からアトピー性皮膚炎を読み解く. 座長:松村康洋, 加藤則人. 第8回京都こどもの皮膚病カンファレンス, 2015(10月・京都)

214. 須賀 康. アトピー性皮膚炎のアウトグローとバイオマーカー. 第3回小児アトピー性皮膚炎フォーラ

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

ム, 2015(3月・東京)

稲田英一

215. 斎藤理恵, 長谷川理恵, 榎本達也, 高橋良佳, 稲田英一. 帯状疱疹後掻痒には複数の機序が関与している可能性がある. 日本麻酔科学会第62回学術集会, 2015(5月・神戸)

卜部貴夫

216. 島田佳明, 田中亮太, 志村秀樹, 山城一雄, 卜部貴夫, 服部信孝. 合成 HSP27 は BBB 保護効果により tPA 療法時の出血性梗塞を予防する. 第33回日本神経治療学会総会, 2015(11月・名古屋)

217. 卜部貴夫. シンポジウム2 脳梗塞の病態と新規治療開発の将来像: 虚血性脳損傷における細胞内シグナル伝達系制御による防御メカニズムの検討. 第27回日本脳循環代謝学会総会, 2015(10月・富山)

218. 平 健一郎, 上野祐司, 黒木卓馬, 島田佳明, 山城一雄, 田中亮太, 卜部貴夫, 服部信孝. 脳虚血後 peri-infarct area における Semaphorin 3A と神経再生に関する検討. 第27回日本脳循環代謝学会総会, 2015(10月・富山)

柿木隆介

219. 柿木隆介. 痛みと痒みの脳内認知機構. 第42回日本脳科学会, 2015(11月・宮崎)

220. 柿木隆介. 痒みと痛みの脳内認知機構. 第25回日本磁気歯科学会, 2015(11月・東京)

松田浩珍

221. 安藤 泉, 唐澤 薫, 松田浩珍, 田中あかね. イヌにおける外部刺激に誘引される血清マグネシウム(Mg)の変動. 第158回日本獣医学会学術集会, 2015(9月・青森)

222. 辻野久美子, 美船有紀, 清水孝恵, 足立直紀, 松田浩珍, 日笠喜朗. アトピー性皮膚炎(AD)自然発症モデル NC/Tnd マウスの養育放棄モデルとしての可能性. 第158回日本獣医学会学術集会, 2015(9月・青森)

223. 張 孝善, 種田久美子, 松田浩珍, 田中あかね. アトピー性皮膚炎モデルマウスにおける皮膚pH調節因子の解析. 第158回日本獣医学会学術集会, 2015(9月・青森)

224. 雨貝陽介, 松田浩珍, 田中あかね. 細胞外ドメインの点変異による KIT 活性化機構の解析. 第158回日本獣医学会学術集会, 2015(9月・青森)

225. 松田浩珍. アトピー性皮膚炎の新しい治療戦略-高純度軟化水による皮膚バリア修復-. 日本比較臨床医学会, 2015(3月・東京)

平林義雄

226. 長塚靖子, Peter Greimel, 清水知佳, 佐々貴之, 中嶋和紀, 平林義雄. UGGT は小胞体ストレスに応答してホスファチジルグルコシドを合成する. 第88回日本生化学会, 2015(12月・兵庫)

227. 中嶋和紀, 長塚靖子, 中山仁志, 岩淵和久, 平林義雄. LC-Ion mobility-ESI-MS/MS によるホスファチジルグルコシド代謝物の高感度・高選択的定量法. 第34回日本糖質学会年会, 2015(7月・東京)

山口重樹

228. 長嶋祥子, 山口重樹, 濱口眞輔, 木村嘉之, 高薄敏史, 寺島哲二. T 間隔および QT dispersion におよぼす筋弛緩回復薬の影響について. 第22回日本静脈麻酔学会, 2015(11月・東京)

229. 長嶋祥子, 山口重樹, 濱口眞輔, 木村嘉之, 高薄敏史, 寺島哲二. QT 間隔および QT dispersion におよぼすスガマデクスの影響について. 日本蘇生学会 第34回大会, 2015(11月・秋田)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

230. 矢崎美和, 木村嘉之, 永尾 勝, 濱口眞輔, 山口重樹. 帝王切開術中にアナフィラキシーを起こした1症例. 第119回日本産科麻酔学会, 2015(11月・東京)
231. 山口重樹. 緩和における新しいオピオイドの使い方～フェンタニル口腔内吸収製剤と突出痛を理解する～. 日本臨床麻酔学会第35回大会, 2015(10月・神奈川)

2014**高森建二**

232. Tominaga M, Akiyama T, Carstens MI, Carstens E, Takamori K. Analysis of spinal neurotransmitters in histaminergic and non-histaminergic itch. 第39回日本研究皮膚科学会, 2014(12月・大阪)
233. Kamata Y, Kimura U, Matsuda H, Tengara S, Iizumi K, Tominaga M, Takamori K. Roles of granzyme A in pathology of patients with atopic dermatitis. 第39回日本研究皮膚科学会, 2014(12月・大阪)
234. Ko KC, Tominaga M, Kamata Y, Umehara Y, Takamori K. Role of cyclosporine A in inhibitory mechanism of pruritus in atopic dermatitis. 第39回日本研究皮膚科学会, 2014(12月・大阪)
235. Umehara Y, Kamata Y, Tominaga M, Niyonsaba F, Takamori K. Effects of antimicrobial peptides on semaphorin 3A expression in normal human epidermal keratinocytes. 第39回日本研究皮膚科学会, 2014(12月・大阪)
236. Kamo A, Tominaga M, Kamata Y, Kaneda K, Ko KC, Matsuda H, Kimura U, Takamori K. Irradiation of excimer lamp induces intraepidermal nerve degeneration and inhibits itch-related behavior in a dry-skin mouse model. 第39回日本研究皮膚科学会, 2014(12月・大阪)
237. 高森建二. 膿疱性乾癬に対する顆粒球吸着除去療法. 第133回浦安皮膚懇話会, 2014(12月・浦安)
238. 高森建二. アトピー性皮膚炎のかゆみを制御する. 第44回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 2014(11月・仙台)
239. 高森建二. 食物アレルギー; フルーツ系, OAS. 第44回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 2014(11月・仙台)
240. 加茂敦子, 富永光俊, 高森建二. 表皮内神経線維に対する紫外線療法エキシマランプ照射の影響—難治性痒み治療としての有用性の検討—. 第13回コ・メディカル形態機能学会, 2014(11月・仙台)
241. 富永光俊, 高森建二. 皮膚のかゆみの発生機序と制御—特に、アトピー性皮膚炎に関して—. 第7回セラミド研究会, 2014(10月・東京)
242. 高森建二. アトピー性皮膚炎のかゆみを科学する. お江戸城東デルマ会, 2014(10月・東京)
243. Umehara Y, Kamata Y, Tominnaga M, Niyonsaba F, Takamori K. Antimicrobial peptide LL-37 induces semaphorin 3A in normal human epidermal keratinocytes. 第24回国際かゆみシンポジウム, 2014(10月・東京)
244. Ko KC, Tominaga M, Kamata Y, Umehara Y, Takamori K. Antipruritic mechanisms of cyclosporine A in atopic dermatitis mouse. 第24回国際かゆみシンポジウム, 2014(10月・東京)
245. 高森建二. かゆみのメカニズム. 第29回日本乾癬学会学術大会, 2014(9月・高知)
246. 鎌田弥生, 木村有太子, Suhandy Tengara, 加茂敦子, 富永光俊, 高森建二. アトピー性皮膚炎の難治性痒み発現におけるグランザイム A の役割. 第19回日本病態プロテアーゼ学会, 2014(8月・大阪)
247. 富永光俊, 穂山 祐, Earl Carstens, 高森建二. 脊髄におけるかゆみの神経伝達機構の解明. 平

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

- 成 26 年度生理学若手研究者フォーラム, 2014(7 月・東京)
248. 高森建二. 内科疾患における皮膚障害. タリオン皮膚科学術講演会, 2014(7 月・大阪)
249. 高森建二. QOL に基づいた乾癬治療の構築～将来の展望も含めて～. 第 398 回日本皮膚科学会北海道地方会, 2014(6 月・旭川)
250. 高森建二. 症例から学ぶ小児アトピー性皮膚炎の積極的治療の有効性と安全性. 第 38 回日本小児皮膚科学会学術大会, 2014(6 月・東京)
251. 日野治子, 高森建二. 健全な肉体、健全な精神をつくるには? 日本皮膚科学会東京支部, 2014(2 月・東京)
252. 高森建二. 透析. 第一回筑紫透析フォーラム, 2014(1 月・福岡)
253. 高森建二. 透析の伴いかゆみを制御する. 富山透析そう痒症フォーラム, 2014(1 月・富山)
- 横溝岳彦**
254. Sasaki F, Koga T, Saeki K, Okuno T, Yokomizo T. Leukotriene B4 receptor 1 signaling promotes neovascular age-related macular degeneration. 第 43 回日本免疫学会総会, 2014(12 月・東京)
255. 市木貴子, 古賀友紹, 奥野利明, 阪口政清, 横溝岳彦. ロイコトリエン B4 第一受容体 BLT1 と RAGE の相互作用. 第 11 回東京呼吸器リサーチフォーラム, 2014(11 月・東京)
256. 横溝岳彦. 古くて新しい生理活性脂質 12-HHT の機能. 8th Metabolic Research Cutting Edge, 2014(11 月・東京)
257. 佐伯和子, Liu M, 横溝岳彦. アスピリンによる皮膚創傷治癒の遅延は 12-HHT 産生低下によって引き起こされる. 第 87 回日本生化学会大会, 2014(10 月・京都)
258. 古賀友紹, 佐々木文之, 佐伯和子, 市木貴子, 奥野利明, 横溝岳彦. ロイコトリエン B4 第一受容体 BLT1 陽性樹状細胞は Th1 分化誘導を促進する. 第 87 回日本生化学会大会, 2014(10 月・京都)
259. 城(渡辺)愛理, 大瀬貴元, 西松寛明, 高橋政夫, 池田洋一郎, 和田健彦, 白河潤一, 永井竜児, 宮田敏男, 長野哲雄, 横溝岳彦, 平田恭信, 稲城玲子, 南学正臣. 糖化抑制酵素 GLO1 は加齢に伴う内皮機能障害を軽減する. 第 87 回日本生化学会大会, 2014(10 月・京都)
260. 岩本 怜, 古賀友紹, Liu M, 奥野利明, 松田 彰, 村上 晶, 横溝岳彦. ロイコトリエン B4 第二受容体 BLT2 の角膜創傷治癒における役割. 第 87 回日本生化学会大会, 2014(10 月・京都)
261. 市木貴子, 古賀友紹, 奥野利明, 阪口政清, 横溝岳彦. ロイコトリエン B4 第一受容体 BLT1 と RAGE の相互作用. 第 87 回日本生化学会大会, 2014(10 月・京都)
262. 横溝岳彦. 12-HHT 受容体 BLT2 は皮膚創傷治癒を促進する. 第 87 回日本生化学会大会シンポジウム, 2014(10 月・京都)
263. 石井由美子, 佐伯和子, Liu M, 奥野利明, 横溝岳彦. 上皮細胞間接着におけるロイコトリエン B4 第二受容体(BLT2)の役割の解明. 第 87 回日本生化学会大会, 2014(10 月・京都)
264. 重松美沙子, 古賀友紹, 奥野利明, 佐伯和子, 横溝岳彦. Pneumolysin 誘導性急性肺傷害モデルにおける BLT2 の肺保護作用. 第 87 回日本生化学会大会, 2014(10 月・京都)
265. 高橋七瀬, 奥野利明, 大場麻生, 牧野真太郎, 竹田省, 横溝岳彦. 質量分析計を用いた妊産婦血中エイコサノイドの測定. 第 87 回日本生化学会大会, 2014(10 月・京都)
266. 古賀友紹, 佐々木文之, 佐伯和子, 奥野利明, 横溝岳彦. 新規樹状細胞サブセットマーカー分子としてのロイコトリエン B4 受容体. 第 35 回日本炎症・再生学会(シンポジウム), 2014(7 月・沖縄)
267. 古賀友紹, 佐々木文之, 佐伯和子, 市木貴子, 奥野利明, 横溝岳彦. 新規樹状細胞サブセットマーカー分子としてのロイコトリエン B4 受容体. 第 35 回日本炎症・再生学会(シンポジウム), 2014(7 月・沖縄)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

268. 横溝岳彦. 生理活性脂質と免疫・炎症・組織修復. 第 35 回日本炎症・再生学会(教育講演), 2014(7月・沖縄)
269. 横溝岳彦. 生理活性脂質と皮膚創傷治癒. ライブコンテンツイメージングセミナー2014, 2014(6月・東京)
270. 横溝岳彦. 皮膚創傷治癒における 12-HHT 受容体 BLT2 の役割. 第 56 回日本脂質生化学会, 2014(6月・大阪)
271. Liu M, Saeki K, Okuno T, Koga T, Sugimoto Y, Yokomizo T. Crucial role of the 12-HHT receptor BLT2 in epidermal wound healing. 第 11 回 GPCR 研究会, 2014(5月・東京)
272. 市木貴子, 佐々木文之, 横溝岳彦. 高感度 FLAG 抗体 2H8 と磁性微粒子を用いた高純度 GPCR 免疫沈法. 第 11 回 GPCR 研究会, 2014(5月・東京)
273. 石井由美子, 佐伯和子, Min L, 奥野利明, 横溝岳彦. ロイコトリエン B4 第二受容体(BLT2)による細胞間接着増強作用. 平成 26 年度日本生化学会九州支部例会, 2014(5月・福岡)
274. 古賀友紹, 佐々木文之, 佐伯和子, 奥野利明, 横溝岳彦. 新規樹状細胞サブセットマーカー分子としてのロイコトリエン B4 受容体. 第 134 回日本薬学会, 2014(3月・熊本)
275. 奥野利明, 劉 珉, 佐伯和子, 松延武彦, 横溝岳彦. 12-HHT 受容体 BLT2 の上皮保護作用. 第 134 回日本薬学会, 2014(3月・熊本)
276. 横溝岳彦. 生理活性脂質受容体の皮膚創傷治癒における役割. 第 2 回ケラチノサイトと免疫を勉強する会, 2014(3月・東京)

長岡 功

277. 鈴木 香, 村上泰介, 胡 忠双, 細田浩司, 長岡 功. Cathelicidin ファミリーの抗菌ペプチド LL-37 によるエンドトキシン除去作用. 第 20 回日本エンドトキシン・自然免疫研究会 プログラム・抄録集 45, 2014(12月・東京)
278. 染谷明正, 坂本廣司, 長岡 功. グルコサミンによる転写因子 Sp1 の糖鎖修飾を介した IL-8 産生制御機構. 日本機能性食品医用学会誌 5: 445. 第 12 回日本機能性食品医用学会総会, 2014(12月・東京)
279. 五十嵐庸, 鈴木 香, 坂本廣司, 長岡 功. グルコサミンおよび N-アセチルグルコサミンは軟骨細胞においてサーチュイン 1 の遺伝子発現を亢進する. 日本機能性食品医用学会誌 5: 466. 第 12 回日本機能性食品医用学会総会, 2014(12月・京都)
280. 胡 忠双, 村上泰介, 鈴木 香, 田村弘志, 長岡 功. 抗菌ペプチド LL-37 によるマクロファージのピロトーシス制御. 第 20 回日本エンドトキシン・自然免疫研究会 プログラム・抄録集 22, 2014(12月・東京)
281. 多田浩之, 松下健二, 長岡 功, 高田春比古. Porphyromonas gingivalis ジンジパインは IL-33 誘導を介してヒト歯肉上皮細胞の CAP18/LL-37 産生をダウンレギュレーションする. 第 20 回日本エンドトキシン・自然免疫研究会 プログラム・抄録集: 52, 2014(12月・東京)
282. 長岡 功. 機能性ペプチド(特に生体防御ペプチド)の構造と多様性. ペプチド研究の新潮流. “未来へのバイオ技術”勉強会. バイオインダストリー協会(JBA)バイオセミナーシリーズ, 2014(11月・東京)
283. 長岡 功, 鈴木 香. ヒト抗菌ペプチド LL-37 による血管内皮細胞の LPS に対する反応性の制御. 第 1 回日本血管血流学会学術集会 抄録集 3, 2014(11月・東京)
284. 五十嵐庸, 鈴木 香, 坂本廣司, 長岡 功. グルコサミンおよび N-アセチルグルコサミンは軟骨細胞においてサーチュイン 1 の遺伝子発現を増加する. 第 21 回日本未病システム学会学術総会

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

- 抄録集 94, 2014(11月・大阪)
285. 染谷明正, 坂本廣司, 長岡 功. 滑膜細胞におけるグルコサミンによる転写因子 Sp1 の制御機構について. 第 21 回日本未病システム学会学術総会 抄録集 114, 2014(11月・大阪)
286. 山岸淑恵, 今井乾介, 長尾淳二, 長岡 功. 滑膜細胞に対するグルコサミンをはじめとする機能性素材の抗炎症作用の評価. 第 21 回日本未病システム学会学術総会 抄録集 115, 2014(11月・大阪)
287. 鶴田暁史, 長岡 功. 女性アスリートに対するゼリードリンク型食品の効果. 第 21 回日本未病システム学会学術総会 抄録集 121, 2014(11月・大阪)
288. 蓬田 伸, 染谷明正, 菅野秀一, 富澤亜也子, 長岡 功, 石川正明. 抗がん剤耐性細胞におけるグアニンヌクレオチド交換タンパク質(guanine nucleotide-exchange protein; GEP)の役割. 生化学 86: 130. 第 87 回日本生化学会大会, 2014(10月・京都)
289. 染谷明正, 坂本廣司, 長岡 功, 石川正明. グルコサミンによる O-N-アセチルグルコサミン修飾を介した転写因子 Sp1 の制御機構について. 生化学 86: 158. 第 87 回日本生化学会大会, 2014(10月・京都)
290. 五十嵐 庸, 鈴木 香, 坂本廣司, 長岡 功. グルコサミンおよび N-アセチルグルコサミンは軟骨細胞においてサーチュイン 1 の遺伝子発現を亢進する. 生化学 86: 158. 第 87 回日本生化学会大会, 2014(10月・京都)
291. 細田浩司, 田村弘志, 長岡 功. C/EBP 転写調節遺伝子群によるヒト単球・マクロファージ系細胞における TREM-1 の転写制御. 生化学 86: 187. 第 87 回日本生化学会大会, 2014(10月・京都)
292. 村上泰介, 田村弘志, 長岡 功. LPS 刺激によるマクロファージ細胞からの HMGN1 の放出機構. 生化学 86: 188. 第 87 回日本生化学会大会, 2014(10月・京都)
293. 鈴木 香, 胡 忠双, 田村弘志, 長岡 功. 血管内皮細胞による LPS の取り込みに対するヒト抗菌ペプチド LL-37 の促進作用. 第 61 回トキシシンポジウム予稿集, 68-72. 2014(9月・鳴門)
294. 胡 忠双, 村上泰介, 鈴木 香, 田村弘志, 長岡 功. 抗菌ペプチド LL-37 によるマクロファージの細胞死ピロトーシスの制御. 第 61 回トキシシンポジウム予稿集 41-43, 2014(9月・鳴門)
295. 染谷明正, 坂本廣司, 長岡 功. グルコサミンは転写因子 Sp1 の細胞内局在性を O-N-アセチルグルコサミン修飾を介して調節する. キチン・キトサン研究 20: 170. 第 28 回キチン・キトサンシンポジウム, 2014(8月・東京)
296. 長岡 功. グルコサミンと健康. 第 28 回キチン・キトサンシンポジウム ランチオンセミナー, 2014(8月・東京)
297. 五十嵐庸, 鈴木 香, 坂本廣司, 長岡 功. グルコサミンおよび N-アセチルグルコサミンは軟骨細胞においてサーチュイン 1 の遺伝子発現を亢進する. キチン・キトサン研究 20: 171. 第 28 回キチン・キトサンシンポジウム, 2014(8月・東京)
298. 胡 忠双, 村上泰介, 鈴木 香, 田村弘志, 長岡 功. マクロファージの pyroptosis に対する抗菌ペプチド LL-37 の効果. 第 23 回日本 Cell Death 学会学術集会プログラム・抄録集 59, 2014(7月・東京)
299. Hu Z, Murakami T, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka. The effects of LL-37 on the LPS/ATP-induced pyroptosis of macrophages and a murine sepsis model. 日本細菌学会雑誌 69: 137. 第 87 回日本細菌学会総会, 2014(3月・東京)
300. Suzuki K, Nagaoka I. Antimicrobial peptide LL-37 enhances the LPS uptake without cell activation in endothelial cells. 日本細菌学会雑誌 69: 185. 第 87 回日本細菌学会総会, 2014(3月・東京)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

301. 牧野聖也, 池上秀二, 狩野 宏, 浅見幸夫, 伊藤裕之, 鈴木良雄, 河合祥雄, 澤木啓祐, 長岡 功, 竹田和由, 奥村 康. 1073R-1 乳酸菌で発酵したヨーグルトの摂取がインフルエンザ特異的抗体価に与える影響. 日本農芸化学会 2014 年度大会「2014 年度産学官学術交流委員会フォーラム」, 2014(3 月・川崎)

302. 五十嵐庸, 鈴木 香, 坂本廣司, 長岡 功. グルコサミンおよび N-アセチルグルコサミンは軟骨細胞においてサーチュイン1の遺伝子発現を亢進する. 第 10 回グルコサミン研究会学術集会プログラム 18. 第 10 回グルコサミン研究会学術集会, 2014(2 月・東京)

森本幾夫

303. 大沼 圭, 齊藤辰彦, 波多野良, 岩田哲史, 鈴木博史, 森本幾夫. DPP4 阻害剤の服用によって誘発される多関節症とそのバイオマーカー. 第 58 回日本リウマチ学会学術集会, 2014(4 月・東京)

304. 波多野良, 大沼 圭, 岩田哲史, 石井智徳, 関川 巖, 森本幾夫. IL-10 産生誘導による CD26 共刺激経路の negative feedback 機構の解析. 第 58 回日本リウマチ学会学術集会, 2014(4 月・東京)

樋野興夫

305. 樋野興夫. 環境発がん分子診断マーカーと治療法の開発. 第 73 回日本癌学会学術総会, 2014(9 月・横浜)

306. 小橋(張)丹青, 小林敏之, 樋野興夫. 脂質ラフトにおけるシグナル伝達に関わる Erc/mesothelin の役割. 第 73 回日本癌学会学術総会, 2014(9 月・横浜)

307. 佐伯春美, 梶野一徳, 樋野興夫. 子宮内膜癌におけるミスマッチ修復遺伝子発現の検討—免疫組織化学染色の有用性—. 第 73 回日本癌学会学術総会, 2014(9 月・横浜)

308. 小林敏之, 小橋(張)丹青, 江花弘基, 瀬山邦明, 高橋和久, 樋野興夫. Folliculin における Txnip 発現誘導とストレス応答制御. 第 73 回日本癌学会学術総会, 2014(9 月・横浜)

309. 水谷奈津子, 松岡周二, 梶野一徳, 脇屋 緑, 樋野興夫. 悪性中皮腫に対する新規治療抗体の樹立. 第 73 回日本癌学会学術総会, 2014(9 月・横浜)

310. 河野春奈, 伊藤敬孝, 堀江重郎, 小林敏之, 樋野興夫. Tsc2 欠損胚性幹細胞の遺伝子発現異常. 第 73 回日本癌学会学術総会, 2014(9 月・横浜)

311. Okazawa Y, Mizukoshi K, Komiyama H, Fujii T, Goto M, Habu S, Hino O, Sakamoto K, Orimo A. The subsequent epithelial-mesenchymal and mesenchymal-epithelial transition model barely depicts colon cancer metastasis. 第 73 回日本癌学会学術総会, 2014(9 月・横浜)

312. Matsumura Y, Ito Y, Wali N, Mogushi K, Terao Y, Takeda S, Okumura K, Takeda K, Hino O, Orimo A. Carcinoma-associated fibroblasts convert barely metastatic human breast cancer cells to highly metastatic cancer cells. 第 73 回日本癌学会学術総会, 2014(9 月・横浜)

313. 樋野興夫. 医師の 2 つの使命～がん哲学外来～. 第 103 回日本病理学会総会 ワークショップ, 2014(4 月・広島)

314. 樋野興夫. 病理学～過渡期の指導原理と新時代の形成力～. 第 103 回日本病理学会総会 特別企画, 2014(4 月・広島)

315. 堀本義哉, 平 郁, 荒川 敦, 氷室貴規, 徳田恵美, 樋野興夫, 齋藤光江. 乳癌リンパ節転移巣における化学療法効果の重要性. 第 103 回日本病理学会総会, 2014(4 月・広島)

櫻井 隆

316. 上窪裕二, 坂入伯駿, 田端俊英, 櫻井 隆. アデニン A1 受容体と代謝型グルタミン酸受容体の複合体形成と機能的相互作用. 第 131 回日本薬理学会関東部会, 2014(10 月・横浜)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

317. 上窪裕二, 榎山 拓, 櫻井 隆. アデノシン A1 受容体と代謝型グルタミン酸受容体(mGluR1)の相互作用による小脳シナプス可塑性の制御. 第 87 回日本薬理学会年会, 2014(3 月・宮城)

山倉文幸

318. 川崎広明, 馬場 猛, 松本綾子, 飯泉恭一, 池田啓一, 高森建二, 山倉文幸. 2 型糖尿病モデルマウスにおける 6-トリプトファンの生体内生成. 第 36 回日本トリプトファン研究会学術集会, 2014(10 月・旭川)

319. 飯泉恭一, 富永光俊, 川崎広明, 重永綾子, 加茂敦子, 鎌田弥生, 高森建二, 山倉文幸. 6-トリプトファンの血漿バイオマーカーとしての可能性—アトピー性皮膚炎—. 第36回日本トリプトファン研究会学術集会, 2014(10 月・旭川)

320. 川崎広明, 池田雅彦, 酒居一雄, 重永綾子, 飯泉恭一, 宇田宗弘, 馬場 猛, 高森建二, 山倉文幸. 脳卒中易発性高血圧自然発症ラット SHR-SP での 6-トリプトファン生成～タンパク質機能傷害と病態形成の関連性の解明～. 第 14 回日本 NO 学会学術集会, 2014(5 月・佐賀)

岩淵和久

321. 中山仁志, 玉木友樹, ルーティ チミンチ イキャロンゴ ホ`ラウエル, 岩淵和久. ヒト好中球における CD14 依存性 LPS シグナルはラクトシルセラミドのマイクロドメインにより仲介される. 第 7 回セラミド研究会, 2014(10 月・東京)

322. 中山仁志, 玉木友樹, ルーティ チミンチ イキャロンゴ ホ`ラウエル, 栗原秀剛, 岩淵和久. リポ多糖はヒト好中球におけるラクトシルセラミドを介したシグナル伝達機構を活性化する. 第 87 回日本生化学会, 2014(10 月・京都)

323. 岩淵和久, 玉木友樹, 増田浩美, 松本 亮, 中山仁志, 小林俊秀, 石井久美子, 早川智広, 小川秀興, 高森建二. 抗体や毒素を用いた糖脂質膜マイクロドメインの構造と機能解析について. 第 33 回日本糖質学会, 2014(8 月・名古屋)

324. 岩淵和久. ラクトシルセラミドの膜ドメインの情報伝達機構について. 第 9 回スフィンゴテラピー研究会, 2014(7 月・金沢)

325. 岩淵和久, 中山仁志, 松本 亮, 増田浩美, 柳田光昭, 加賀直子, 小林俊秀, 早川智宏, 石井久美子, 小川秀興, 高森 建二. マウス好中球におけるラクトシルセラミドの膜マイクロドメインについて. 第 56 回日本脂質生化学会大会, 2014(6 月・大阪)

326. 中山仁志, 岩淵和久. 病原性抗酸菌によるラクトシルセラミドを利用した食胞成熟回避機構について. 難治疾患共同研究拠点集会「糖鎖免疫 Glyco-Immunology 2014」, 2014(2 月・東京)

327. 岩淵和久, 中山仁志. 病原関連分子パターン(PAMPS)とラクトシルセラミドとの糖鎖-糖鎖相互作用を介した感染・生体防御機構. 難治疾患共同研究拠点集会「糖鎖免疫 Glyco-Immunology 2014」, 2014(2 月・東京)

328. 岩淵和久, 中山仁志. 病原関連分子パターン(PAMPS)とラクトシルセラミドとの糖鎖-糖鎖相互作用を介した感染・生体防御機構. 難治疾患共同研究拠点集会「糖鎖免疫 Glyco-Immunology 2014」, 2014(2 月・東京)

卜部貴夫

329. 上野祐司, 小池正人, 島田佳明, 志村秀樹, 内山安男, 卜部貴夫, 服部信孝. ラット慢性脳虚血における L-carnitine は軸索再生を促進させ脳白質を保護する. 第 55 回日本神経学会学術集会, 2014(5 月・博多)

330. 三島有美子, 宮元伸和, 田中亮太, 大石英則, 新井 一, 服部信孝, 下澤達雄, 卜部貴夫. アドレノメデュリンノックアウトマウスを用いた慢性脳低灌流モデルにおける虚血性白質障害の検討. 第 39 回日本脳卒中学会総会, 2014(3 月・大阪)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

松田浩珍

331. Tanaka A, Matsuda H, et al. Involvement of skin surface pH on development of atopic dermatitis. 日本研究皮膚科学会, 2014(12月・大阪)
332. 松田浩珍, 田中あかね. 皮膚 pH の変化と皮膚バリア損傷との関連. 日本獣医学会学術集会, 2014(9月・札幌)

山口重樹

333. 山口重樹. 予後予測が困難な非がんの終末期とこれからの緩和医療. 第 8 回日本緩和医療薬学会年会, 2014(10月・愛媛)
334. 山口重樹. 鎮痛薬としてのアセトアミノフェンの役割. 第 42 回 日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 2014(10月・新潟)
335. 山口重樹. アセトアミノフェン再考～静注剤の登場. 日本小児麻酔学会第 20 回大会, 2014(9月・札幌)
336. 山口重樹. アセトアミノフェンの新たな展開. 第 52 回日本癌治療学会学術集会, 2014(8月・横浜)
337. 大谷太郎, 山口重樹, 濱口眞輔. 超音波ガイド下治療と教育 医学生や研修医たちに向けた超音波ガイド下治療のすゝめ. 日本ペインクリニック学会第 48 回大会, 2014(7月・東京)
338. 山口重樹. 神経障害性疼痛の治療 神経障害性疼痛に対するオピオイド鎮痛薬の新たな展開. 日本ペインクリニック学会第 48 回大会, 2014(7月・東京)
339. 山口重樹, Donald R. Taylor. 慢性痛のオピオイド治療. 日本ペインクリニック学会第 48 回大会, 2014(7月・東京)
340. 山口重樹. 電気けいれん療法(ECT)の麻酔:最新のトレンドーECT 麻酔と不整脈ー. 日本麻酔科学会. 第 61 回学術集会, 2014(5月・横浜)
341. 山口重樹. 麻酔の安全性を向上させる最新テクノロジー —ごみから医療安全:使用済注射薬自動認識システムを用いた麻酔記録記載漏れ防止の試み—. 日本麻酔科学会第 61 回学術集会, 2014(5月・横浜)
342. 山口重樹. リウマチ性疾患の疼痛マネジメント リウマチ性疾患の痛みに対する薬物療法. 第 58 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2014(4月・東京)
343. 山口重樹. 帝王切開術に対する脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔について. 第一回日本区域麻酔学会, 2014(4月・岡山)
344. 山口重樹. オピオイド鎮痛薬の現況と今後:適正使用を考える. 第 43 回日本慢性疼痛学会, 2014(2月・横浜)
345. 山口重樹. オピオイド治療中患者における周術期管理の問題点:症例を通じて. 第 26 回日本老年麻酔学会, 2014(2月・東京)

2013**高森建二**

346. 富永光俊, 高森建二. アトピー性皮膚炎—かゆみのメカニズム—. 第 43 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会ランチオンセミナー, 2013(12月・金沢)
347. 高森建二. 感染症. 第 64 回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 2013(11月・名古屋)
348. 高森建二. 透析そう痒症はなぜ痒い—メカニズムと対策—. 青森レミッチ講演会, 2013(9月・青森)
349. 高森建二. かゆみの病態と治療の最近の話題—特にアトピー性皮膚炎のかゆみのメカニズムと対策について—. 第 63 回関東耳鼻咽喉科アレルギー懇話会, 2013(9月・東京)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

350. 高森建二. 小児アトピー性皮膚炎における積極的な治療介入の有用性. 第 37 回日本小児皮膚科学会学術大会モーニングセミナー, 2013(7月・東京)
351. 高森建二. 透析そ痒い症はなぜ痒い. 透析患者のかゆみを考える夕べ, 2013(7月・山形)
352. 高森建二. 皮膚研究の最前線～皮膚のバリア機能の解明は皮膚所見の見方をどう変えたか～. 日本透析学会, 2013(6月・福岡)
353. 富永光俊, 高森建二. かゆみと皮膚—セマフォリン他について—. 第 112 回日本皮膚科学会総会, 2013(6月・横浜)
354. 高森建二. かゆみのメカニズムと制御—保湿剤の有効性—. 第112回日本皮膚科学会総会教育講演 30. 2013(6月・横浜)

横溝岳彦

355. Koga T, Sasaki F, Saeki K, Ichiki T, Okuno T, Yokomizo T. BLT1 defines a DC1 subset that induces Th1 differentiation by releasing IL-12p35. 第 42 回日本免疫学会, 2013(12月・千葉)
356. Sasaki F, Koga T, Saeki K, Okuno T, Yokomizo T. Physiological and pathological roles of leukotriene B4 receptor 1 in M2 macrophages. 第 42 回日本免疫学会, 2013(12月・千葉)
357. 横溝岳彦. 第一世代の脂質メディエーター:エイコサノイドと疾患. 第 3 回都医学研シンポジウム, 2013(11月・東京)
358. 佐々木文之, 池田恒基, 上野あゆみ, 佐伯和子, 奥野利明, 古賀友紹, 横溝岳彦. マウス BLT1 および DYKDDDDK 配列に対して高親和性を有するヒト化単クローン抗体の樹立. 第 86 回日本生化学会大会, 2013(9月・横浜)
359. 奥野利明, 松延武彦, 横溝岳彦. トロンボキサン合成酵素非依存的な 12-HHT 産生機構. 第 86 回日本生化学会大会, 2013(9月・横浜)
360. 石井由美子, 佐伯和子, Min L, 奥野利明, 横溝岳彦. ロイコトリエン B4 第二受容体(BLT2)の細胞接着形成における役割. 第 86 回日本生化学会大会, 2013(9月・横浜)
361. 重松美沙子, 古賀友紹, 佐伯和子, 横溝岳彦. 急性肺損傷モデルにおける BLT2)の肺保護作用. 第 86 回日本生化学会大会, 2013(9月・横浜)
362. 横溝岳彦. 生理活性脂質産生を介した血小板の新しい機能. 第 14 回 Pharmaco-Hematology シンポジウム, 2013(6月・東京)
363. Liu M, 佐伯和子, 松延武彦, 奥野利明, 中溝聡, 梶島健治, 横溝岳彦. ロイコトリエン B4 第二受容体(BLT2)の皮膚創傷治癒における促進的役割. 第 55 回日本脂質生化学会, 2013(6月・松島)
364. 古賀友紹, 佐々木文之, 佐伯和子, 奥野利明, 横溝岳彦. 新規樹状細胞サブセットマーカーとしての BLT1 受容体. 第 55 回日本脂質生化学会, 2013(6月・松島)

長岡 功

365. 長岡 功. 新活乳酸菌 NN12 について. 第二回新活乳酸菌 NN12 研究発表会, 2013(12月・東京)
366. 五十嵐庸, 鈴木 香, 坂本廣司, 長岡 功. サーチュイン 1 は軟骨細胞におけるグルコサミンの標的遺伝子である. 日本機能性食品医学会誌 8: 109. 第 11 回日本機能性食品医学会総会, 2013(12月・東京)
367. 胡 忠双, 村上泰介, 鈴木 香, 田村弘志, 長岡 功. LPS/ATP で誘導されるピロトーシスに対する抗菌ペプチドLL-37の効果と作用機構. 第19回日本エンドキシン・自然免疫研究会 プログラム・抄録集 30. 2013(12月・滋賀)
368. 長岡 功. ロコモティブシンドロームの予防と対策 ～食品成分を用いた評価～お茶の水がん学ア

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

- カデミア第 99 回集会, 2013(11 月・東京)
369. 長岡 功. サプリメントと変形性関節症. 第 20 回日本未病システム学会学術総会 抄録集 86. 2013(11 月・東京)
370. 牧野聖也, 池上秀二, 狩野 宏, 浅見幸夫, 伊藤裕之, 鈴木良雄, 河合祥雄, 澤木啓祐, 長岡 功, 竹田和由, 奥村 康. 1073R-1 乳酸菌で発酵したヨーグルトの摂取がインフルエンザ特異的抗体価に与える影響. 第 41 回日本臨床免疫学会総会, 2013(11 月・下関)
371. 胡 忠双, 村上泰介, 鈴木 香, 田村弘志, 長岡 功. マクロファージ系細胞のピロトーシスに対する抗菌ペプチド LL-37 の制御作用. 第 13 回日本 AS 学会/第 7 回日本血流血管学会 合同学術集会, プログラム抄録集 21. 2013(11 月・東京)
372. 五十嵐庸, 鈴木 香, 坂本廣司, 長岡 功. サーチュイン 1 は軟骨細胞におけるグルコサミンの標的遺伝子である. 第 20 回日本未病システム学会学術総会 抄録集 118. 2013(11 月・東京)
373. 長岡 功, 鈴木朝日, 黒川美保子, 朝長昭仁, 渡邊景太, 山本哲郎. コラーゲン含有ペプチドの膝関節痛と各種軟骨マーカーに対する効果. 第 20 回日本未病システム学会学術総会 抄録集 137. 2013(11 月・東京)
374. 斉木彩乃, 加賀出穂, 信夫 正, 澤田陽子, 元島義輔, 五十嵐庸, 長岡 功. 滑膜細胞の炎症応答に対するグルコサミンとリンゴポリフェノールの影響. 第 20 回日本未病システム学会学術総会 抄録集 139. 2013(11 月・東京)
375. 染谷明正, 坂本廣司, 長岡 功. グルコサミンは転写因子 Sp1 の O-N-アセチル修飾を介して IL-8 の発現を抑制する. 第 20 回日本未病システム学会学術総会 抄録集 138. 2013(11 月・東京)
376. 牧野聖也, 池上秀二, 狩野 宏, 浅見幸夫, 伊藤裕之, 鈴木良雄, 河合祥雄, 澤木啓祐, 長岡 功, 竹田和由, 奥村 康. 1073R-1 乳酸菌で発酵したヨーグルトの摂取がインフルエンザ特異的抗体価に与える影響. 日本食品免疫学会 第 9 回学術大会, 2013(10 月・東京)
377. 長岡 功. ロコモティブシンドロームの予防と対策 ～食品成分を用いた評価～「脚の老化対策 最前線 ～ロコモティブシンドロームを予防するために～」. 第 60 回日本栄養改善学会学術総会, 2013(9 月・神戸)
378. 蓬田 伸, 染谷明正, 菅野秀一, 富澤亜也子, 長岡 功, 石川正明. Doxorubicin 耐性 K562 細胞における P-糖タンパク質発現に対するグアニンヌクレオチド交換タンパク質 (guanine nucleotide-exchange protein; GEP) の関与. 生化学 85 (8): 125. 第 86 回日本生化学会大会, 2013(9 月・横浜)
379. Hu Z, Murakami T, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I. Dual mechanism of antimicrobial cathelicidin peptide LL-37 for the inhibition of LPS/ATP-induced pyroptosis. 生化学 85 (8): 130. 第 86 回日本生化学会大会, 2013(9 月・横浜)
380. 鈴木 香, 山倉文幸, 長岡 功. 抗菌ペプチド LL-37 による血管内皮細胞における LPS の取り込み促進メカニズム. 生化学 85 (8): 131. 第 86 回日本生化学会大会, 2013(9 月・横浜)
381. 染谷明正, 坂本廣司, 長岡 功. 滑膜細胞からの IL-8 産生に対するグルコサミンの分子抑制メカニズム. 生化学 85 (8): 151. 第 86 回日本生化学会大会, 2013(9 月・横浜)
382. 五十嵐庸, 鈴木香, 坂本廣司, 長岡 功. サーチュイン 1 は軟骨細胞におけるグルコサミンの標的遺伝子である. 生化学 85 (8): 151. 第 86 回日本生化学会大会, 2013(9 月・横浜)
383. 細田浩司, 田村弘志, 長岡 功. C/EBPファミリーによるヒト単球・マクロファージ系細胞 THP-1 における TREM-1 の転写制御. 生化学 85 (8): 157. 第 86 回日本生化学会大会, 2013(9 月・横浜)
384. 村上 泰介, 田村 弘志, 長岡 功. Alarmin である HMGN1 は LPS 刺激された壊死性のマクロファージから放出される. 生化学 85 (8): 157. 第 86 回日本生化学会大会, 2013(9 月・横浜)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

385. 長岡 功. グルコサミンと健康 –グルコサミンの細胞機能調節作用–「健康をもう一度考える –情報と栄養成分と生体応答–」. 栄養学若手研究者の集い 第 47 回サマーセミナー, 2013(8 月・筑波)
386. 胡 忠双, 村上泰介, 鈴木 香, 田村弘志, 森田隆司, 長岡 功. 抗菌ペプチド LL-37 は二つのメカニズムによって LPS/ATP で誘導されるピロトーシスを抑制する. 第 60 回トキシシンポジウム予稿集 48-51. 2013(7 月・兵庫)
387. 染谷明正, 坂本廣司, 長岡 功. グルコサミンによる転写因子 Sp1 の O-N-アセチルグルコサミン修飾と IL-8 発現抑制. 第 34 回日本炎症・再生医学会プログラム予稿集 114. 2013(7 月・京都)
388. 村上泰介, 田村弘志, 長岡 功. LPS 刺激マクロファージ系細胞からの HMGN1 放出機構. 第 34 回日本炎症・再生医学会プログラム予稿集 120. 2013(7 月・チリ)
389. 胡 忠双, 村上泰介, 鈴木 香, 田村弘志, 長岡 功. 抗菌ペプチド LL-37 によるマクロファージピロトーシスの制御. 第 34 回日本炎症・再生医学会プログラム予稿集 121. 2013(7 月・京都)
- 樋野興夫**
390. 塩野雅俊, 小林敏之, 樋野興夫, 石岡千加史. トランスジェニック Tsc2 変異(Eker)ラットにおける N525S 置換型変異 Tsc2 発現及びその優性抑制的胎生致死作用. 第 72 回日本癌学会学術総会, 2013(10 月・横浜)
391. 譚 珂, 梶野一徳, 脇屋 緑, 樋野興夫. miRNA による ERC/mesothelin 転写産物の制御. 第 72 回日本癌学会学術総会, 2013(10 月・横浜)
392. 小橋(張)丹青, 小林敏之, 樋野興夫. Tsc2 KO マウス腎腫瘍細胞における Erc/mesothelin とインテグリン $\beta 1$ シグナル伝達関連の解明. 第 72 回日本癌学会学術総会, 2013(10 月・横浜)
393. 樋野興夫. 環境発がん制御研究～山極勝三郎生誕 150 周年～. 第 72 回日本癌学会学術総会, 2013(10 月・横浜)
394. 河野春奈, 伊藤敬孝, 高井節夫, 新井 一, 堀江重郎, 小林敏之, 樋野興夫. Eker ラット ES 細胞, iPS 細胞による腎癌発生メカニズムの解析. 第 72 回日本癌学会学術総会, 2013(10 月・横浜)
395. 望月早月, 阿部 仁, 尾原健太郎, 落合大樹, 北川雄光, 樋野興夫, 佐藤 博, 岡田保典. Src は ADAM28 の発現に重要な役割を果たす. 第 72 回日本癌学会学術総会, 2013(10 月・横浜)
396. 古来木拜尔, 烏布力哈斯, 馬合木特, 亜 森, 茂櫛 薫, 飯島久美子, 田中真二, 田中 博, 有井滋樹, 樋野興夫. チロシニアミトランスフェラーゼの低発現は肝細胞癌の低分化発症に寄与し、その発現はエピジェネティック異常と関連する. 第 72 回日本癌学会学術総会, 2013(10 月・横浜)
397. 水越幸輔, 岡澤裕, 小見山博光, 藤井智明, 伊藤恭彦, 五藤倫敏, 垣生園子, 樋野興夫, 坂本一博, 折茂 彰. 患者大腸癌組織片の移植モデルにおける顕著な肝臓および肺への転移形成. 第 72 回日本癌学会学術総会, 2013(10 月・横浜)
398. Fujii T, Horimoto Y, Acar A, Ito Y, Saito M, Hino O, Orimo A. Jagged1-stimulated Notch3 signalling activation in carcinoma-associated fibroblasts mediates their activated tumour-promoting trait. 第 72 回日本癌学会学術総会, 2013(10 月・横浜)
399. 樋野興夫. 山極勝三郎 & 吉田富三の温故創新～新時代の形成力を求めて～. 第 102 回日本病理学会総会, 特別企画 山極勝三郎 生誕 150 周年記念 & 吉田富三 生誕 110 周年記念シンポジウム～癌研究の歩みを未来に～, 2013(6 月・札幌)
400. 西原広史, 川俣 太, 永生高広, 加藤容崇, 樋野興夫, 武富紹信, 田中伸哉. 消化器癌における ERC/mesothelin 発現の分子病理学的解析. 第 102 回日本病理学会総会, 2013(6 月・札幌)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

櫻井 隆

401. 坂入伯駿, 上窪裕二, 櫻井 隆, GPCR 複合体形成によるシグナル伝達制御. 順天堂大学 2013 (10月・東京)

山倉文幸

402. 川崎広明, 池田雅彦, 酒居一雄, 重永綾子, 飯泉恭一, 宇田宗弘, 馬場 猛, 高森建二, 山倉文幸. 脳卒中易発症ラットにおけるニトロトリプトファン生成とタンパク質機能傷害. 第 86 回日本生化学会大会, 2013(9月・横浜)

403. 飯泉恭一, 富永光俊, 川崎広明, 重永綾子, 加茂敦子, 鎌田弥生, 高森建二, 山倉文幸. 6-ニトロトリプトファンはアトピー性皮膚炎患者の血漿バイオマーカーとなり得るか? 第 35 回日本トリプトファン研究会学術集会, 2013(9月・京都)

404. 池田啓一, 松本 孝, 川崎広明, 松本綾子, 細見 修, 小林 淳, 佐々木啓, 山倉文幸. ペルオキシナイトライトによる卵白リゾチームのトリプトファンニトロ化は tri-N-acetylchitotriose により阻害されるか? 第 35 回日本トリプトファン研究会学術集会, 2013(9月・京都)

405. 川崎広明, 池田雅彦, 酒居一雄, 重永綾子, 飯泉恭一, 宇田宗弘, 馬場 猛, 高森建二, 山倉文幸. 脳卒中易発性高血圧自然発症ラット SHR-SP におけるトリプトファンニトロ化修飾の生成. 第 35 回日本トリプトファン研究会学術集会, 2013(9月・京都)

406. 川崎広明, 富永光俊, 加茂敦子, 飯泉恭一, 重永綾子, 高森建二, 山倉文幸. Carbonic anhydrase III のニトロ化修飾によるアトピー性皮膚炎の病態形成機構の解明. 第 13 回日本 NO 学会学術集会, 2013(6月・沖縄)

407. 飯泉恭一, 富永光俊, 川崎広明, 重永綾子, 加茂敦子, 鎌田弥生, 高森建二, 山倉文幸. 抗 6-ニトロトリプトファン抗体を用いた血漿バイオマーカーの探索-アトピー性皮膚炎患者による試み. 第 13 回日本 NO 学会学術集会, 2013(6月・沖縄)

岩淵和久

408. 中山仁志, 栗原秀剛, 森田康裕, 木下タロウ, 高森建二, 小川秀興, 岩淵和久. 病原性抗酸菌のラクトシルセラミドを利用したヒト好中球食胞成熟回避機構. 第 6 回セラミド研究会, 2013(11月・札幌)

409. 中山仁志, 栗原秀剛, 高森建二, 小川秀興, 岩淵和久. ヒトマクロファージにおけるラクトシルセラミドの役割について. 第 86 回日本生化学会大会, 2013(9月・横浜)

410. 中山仁志, Chiricozzi E, Mauri L, Prinneti A, Sonnino S, 岩淵和久. ラクトシルセラミドはヒト好中球の細胞膜上で Lyn と直接会合している. 第 32 回日本糖質学会年会, 2013(8月・大阪)

411. 増田浩美, 松本 亮, 中山仁志, 加賀直子, 岩淵和久. 抗ラクトシルセラミド抗体の反応特異性について. 第 8 回スフィンゴテラピー研究会, 2013(7月・加賀)

412. 中山仁志, 栗原秀剛, 森田康裕, 木下タロウ, Alessandro Prinetti, Sandro Sonnino, 小川秀興, 高森建二, 岩淵和久. ヒト好中球における抗酸菌認識・貪食の分子機構について. 第 55 回日本脂質生化学会, 2013(6月・松島)

池田勝久

413. 池田勝久, 塩沢晃人. アレルギー性鼻炎患者初代培養鼻粘膜上皮細胞の IL-17A 刺激による各種サイトカインの網羅的解析. 第 63 回日本アレルギー学会春秋学術学会, 2013(11月・東京)

松田浩珍

414. 松田浩珍, 田中あかね, 他. アトピー性皮膚炎における皮膚 pH 調節の重要性. 日本獣医学会学術集会, 2013(9月・岐阜)

415. 松田浩珍, 田中あかね, 他. カジメに含まれる dieckol のアトピー性皮膚炎に対する治療効果. 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

本獣医学会学術集会, 2013(9月・岐阜)
 416. 松田浩珍, 田中あかね, 他. アトピー性皮膚炎の皮膚における HIF-1 α の発現について. 日本獣医学会学術集会, 2013(9月・岐阜)

山口重樹

417. 山口重樹. オピオイド鎮痛薬の依存を巡って—米国におけるオピオイド鎮痛薬の乱用・依存問題. 第7回日本緩和医療薬学会, 2013(9月・千葉)
418. 山口重樹. 新しい鎮痛薬や鎮痛補助薬の分子薬理学的基礎知識—新規オピオイド鎮痛薬の基礎知識と適正使用. 第7回日本緩和医療薬学会, 2013(9月・千葉)
419. 山口重樹. 麻酔科と小児がん治療—獨協医科大学病院の小児がん医療における麻酔科医の活動について5. 第19回日本小児麻酔学会, 2013(9月・神戸)
420. 山口重樹. 緩和医療—がん疼痛緩和の今後—がん疼痛におけるペインクリニック医が語るオピオイド治療. 日本ペインクリニック学会第47回大会, 2013(7月・大宮)
421. 山口重樹. 慢性痛に対するオピオイド治療—非がん性の慢性痛におけるオピオイド治療を適正に普及するには—. 日本ペインクリニック学会第47回大会, 2013(7月・大宮)

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況など

ホームページで公開している場合には、URL を記載してください。

<既に実施しているもの>

シンポジウム・学会等

高森建二

- 2016年4月23日(土): 順天堂大学本郷キャンパスセンチュリータワー南10階講義室, 東京.
 文部科学省平成25年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 第3回ワークショップ
 「難治性"かゆみ"の発症機構解明と予防・治療法開発の研究基盤構築」
 ホームページ http://www.juntendo.ac.jp/graduate/laboratory/labokankyo_igaku/lecture/l_70.html
- 2015年10月10日(土): 順天堂大学本郷キャンパスセンチュリータワー南10階講義室, 東京.
 文部科学省平成25年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 第2回公開シンポジウム
 「難治性"かゆみ"の発症機構解明と予防・治療法開発の研究基盤構築」
 ホームページ http://www.juntendo.ac.jp/graduate/laboratory/labokankyo_igaku/lecture/l_67.html
 プレスリリース: <http://www.juntendo.ac.jp/news/20150914-02.html>
- 2014年11月29日(土): 順天堂大学本郷キャンパスセンチュリータワー南10階講義室, 東京.
 文部科学省平成25年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 第2回公開ワークショップ
 「難治性"かゆみ"の発症機構解明と予防・治療法開発の研究基盤構築」
 ホームページ http://www.juntendo.ac.jp/graduate/laboratory/labokankyo_igaku/lecture/l_62.html
- 2014年4月26日(土): 順天堂大学本郷キャンパス有山記念館講堂, 東京.
 文部科学省平成25年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 第1回公開シンポジウム
 「難治性"かゆみ"の発症機構解明と予防・治療法開発の研究基盤構築」
 ホームページ http://www.juntendo.ac.jp/graduate/laboratory/labokankyo_igaku/lecture/l_58.html
- 2013年9月4日(火) 順天堂大学本郷キャンパス10号館カンファレンスルーム105号室, 東京.
 文部科学省平成25年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 第1回非公開ワークショップ
 「難治性"かゆみ"の発症機構解明と予防・治療法開発の研究基盤構築」

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

横溝岳彦

6. 2015年2月10～12日:東京.
6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators, Co-organizer.
7. 2013年8月4～9日:ニセコ.
Faseb SRC: Lysophospholipid and Other Related Mediators-From Bench to Clinic, Co-organizer.

長岡 功

8. 2016年2月13日:東京. 第12回ファンクショナルフード学会.
9. 2014年12月5～6日:東京. 第20回日本エンドトキシン・自然免疫研究会 プログラム・抄録集 52.
10. 2014年11月15日:東京. 第1回日本血管血流学会学術集会 抄録集 3.
11. 2014年8月7～8日:東京. 第28回キチン・キトサンシンポジウム.

インターネットでの公開状況**高森建二**

12. 環境医学研究所 研究内容・業績:
http://www.juntendo.ac.jp/graduate/laboratory/labokankyo_igaku/

横溝岳彦

13. 生化学第一講座:http://plaza.umin.ac.jp/j_bio/
14. 2014年 Press release:http://www.eurekalert.org/pub_releases/2014-05/rup-uae050714.php
15. 2014年 順天堂大学プレスリリース:<http://www.juntendo.ac.jp/graduate/pdf/news08.pdf>

長岡 功

16. 生化学・生体防御学講座:
http://www.juntendo.ac.jp/graduate/laboratory/laboseikagaku_seitaibogyo/html/index_j.html

櫻井 隆

17. 薬理学講座:<http://pharmacology.sakura.ne.jp/index.html>

岩淵和久

18. http://www.juntendo.ac.jp/graduate/nurs/research/profile_12.html
19. http://www.juntendo.ac.jp/graduate/laboratory/labokankyo_igaku/k4_iwabuchi.html
20. <https://globalmedicaldiscovery.com/key-scientific-articles/direct-interaction-instrumental-for-signaling-processes-between-laccase-and-lyn-in-the-lipid-rafts-of-neutrophil-like-cells/>
(世界中で出版される医学・生物学の論文から編集部が注目する新たな発見と考えた論文を毎週20報選んで紹介するカナダの医学情報 Web サイトの May 8 2015 の週で JLR の論文が紹介された。)

松田浩珍

21. 研究者プロフィール:<http://kenkyu-web.tuat.ac.jp/Profiles/3/0000237/profile.html>
22. 東京農工大 http://www.tuat.ac.jp/~mol_path/

平林義雄

23. 理化学研究所プレスリリース:http://www.riken.jp/pr/press/2015/20150828_2/ 東北大学・東京大学

【その他の研究成果の公開】**広報活動**

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

高森建二

24. 高森建二. 冬の乾燥肌. 株式会社ニッポン放送『高嶋ひでたけのあさラジ!』. 2016(1月)
25. 高森建二. 内臓疾患に伴う痒みのメカニズムと対策(演者). 2015(10月)
26. 高森建二. かゆみのメカニズムと治療について. 「10MTV オピニオン」イマジニア株式会社. 2015(10月)
27. 高森建二. そのかゆみ、内蔵疾患のサインかも!? ラジオ NIKKEI. 2015(10月)
28. 高森建二. からだのかゆみ, 乾燥からくるかゆみ, 内臓の病気からくるかゆみ. TBS 系列全国28局ネット番組「いっぷく」. 2015(放映2月)
29. 高森建二. 乾燥肌, 健康カプセル! ゲンキの時間, 画像提供. 2014(放映11月)
30. 高森建二. 内臓疾患が原因の難治性かゆみ, 週刊ポスト「医心伝身」. 2014(11月)
31. 高森建二. かゆみでわかる病気, 日刊ゲンダイ. 2014(10月)
32. 高森建二. 油断大敵! 体がかゆいとき, NHK e テレ「チョイス」. 2014(放映5月)
33. 高森建二. 身体の痒み・カサつき・粉吹きはセラミド不足が原因. スワロージュ Vol. 13. 2014

長岡 功

34. 長岡 功. 熊本日日新聞. グルコサミンと健康 ―その多彩な作用 寿命延長効果にも期待. 「抗加齢と健康科学」～キッチン・キトサンのパワー～. 東海大学第52回公開セミナー「Let's 不思議!」
35. 長岡 功. 茶の間の健康トレンド「健康寿命を脅かす関節疾患」. 茶の間. 2016; 2: 102-103.
36. 長岡 功. 研究人「医学の基礎を追求、生体防御学が大きなテーマ」. 健康ジャーナル. 2016; 339: 6.
37. 長岡 功. 抗炎症・抗血栓作用から始まったグルコサミン研究 -医学の基礎を追及し生体防御学を大きなテーマに研究を続けて-. Healthy & Beauty. 2016; 2: 24-25.
38. 長岡 功. 機能的表示・関節サポート「境界領域の被験者で対応できる」. 健康産業新聞. 2015(4月)
39. 長岡 功. グルコサミン 機能的表示可能か 病者食も選択肢に. 健康産業流通産業新聞. 2015(2月)
40. 長岡 功. 最新のキッチン・キトサン研究の成果 69 題発表、抗腫瘍効果をはじめとする注目すべき機能的明らかに ―医療への応用など今後の期待感増す―. 健康ジャーナル. 2014(9月)
41. 長岡 功. 第9回グルコサミン研究会・研修会開催、研究・治療など最新の情報を講演 ―健食の機能的表示、糖化と病態、変形性膝関節症など―. 健康ジャーナル. 2014(9月)
42. 田村弘志, 長岡 功. バイオ・医療の産学連携開発上市支援で社会貢献. 2014年度版 注目情報はこれだ!! . 2014(3月)
43. 長岡 功. 「健康寿命」に大切なのは、軟骨成分グルコサミン!. 茶の間 9月号. 2013(9月)
44. 長岡 功. 定期診断でストレス自覚. 日本経済新聞. 2013(5月)
45. 長岡 功. コラーゲンペプチド含有食品のヒザ関節痛に対する効果について. 産経ニュース. 2013(2月)

北村庸雄

46. 北村庸雄. 肝疾患と痒み --Cholestatic Itch-- . 第140回浦安皮膚臨床懇話会. 2016(2月・浦安)

柿木隆介

47. 中川 慧, 柿木隆介. 脳に電気刺激→かゆみ抑制. 朝日新聞(夕刊). 2015(8月)
48. 柿木隆介. 「かゆみ」. TBS テレビ いっぷく! 2015(2月)
49. 柿木隆介. 「痛みについて」, NHK 総合 ためしてガッテン. 2015(1月)
50. 望月秀紀, 柿木隆介. 「かゆみかく快感」伝わる部位特定 岡崎の研究機関 アトピー治療に光.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

毎日新聞. 2014(1月)

51. 望月秀紀, 柿木隆介. 「かくと気持ちよい」仕組み解明. 読売新聞. 2014(1月)
52. 望月秀紀, 柿木隆介. かゆみかくと…恋の快感? 生理学研 脳の反応解明 「皮膚の症状改善 役立つ可能性」. 朝日新聞. 2014(1月)
53. 望月秀紀, 柿木隆介. かいて快感、脳構造解明 生理研 「報酬系」が活性化. 東愛知新聞. 2014(1月)
54. 望月秀紀, 柿木隆介. 「かいた時の快感」解明 脳内の部位が活性化 アトピー治療に期待も日本経済新聞. 2014(1月)
55. 望月秀紀, 柿木隆介. かく快感 褒められた時と同じ 岡崎・生理研 脳の仕組み解明. 中日新聞. 2014(1月).

<これから実施する予定のもの>

【シンポジウム・学会等】

1. 文部科学省平成 25 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 第 3 回公開シンポジウム
「難治性"かゆみ"の発症機構解明と予防・治療法開発の研究基盤構築」
平成 28 年度中に開催予定

14 その他の研究成果等

「12 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記11(4)に記載した研究成果に対応するものには * を付してください。

【特許】

高森建二

1. 吉岡康子, 鎌田弥生, 富永光俊, 高森建二. 特願 2015-074574 号.
セマフォリン 3A 遺伝子発現増強剤、及びセマフォリン 3A タンパク産生亢進剤.
出願者: 小林製薬株式会社, 学校法人順天堂(共同出願).
出願日: 2015 年 3 月 31 日
2. 梅原芳恵, 鎌田弥生, 富永光俊, ニヨンサバ・フランソワ, 高森建二. 特願 2014-177778 号
掻痒性皮膚疾患の治療又は予防.
出願者: 学校法人順天堂
出願日: 2014 年 9 月 2 日
3. 鎌田弥生, 富永光俊, 高森建二. PCT/JP2014/062073
セマフォリン 3A の発現調節法.
出願者: 学校法人順天堂
出願日: 2013 年 5 月 2 日

横溝岳彦

4. 佐々木文之, 横溝岳彦. 特願 2014-228828
加齢黄斑変性症予防治療剤.
出願者: 学校法人順天堂
出願日: 2014 年 11 月 11 日

長岡 功

5. 長岡 功, 五十嵐庸, 坂本廣司. 特願 2013-262048
サーチュイン 1 遺伝子の発現増強剤.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

出願者:学校法人順天堂, 甲陽ケミカル株式会社.

出願日:2013年12月19日

公開日:2014年9月11日. 公開番号:特開 2014-166982

森本幾夫

6. 山田健人, 林睦, 山田幸司, 森本幾夫, 岡本俊博, 金子有太郎. 特願 2015-179672

抗 CD26 抗体と他の抗がん剤とを組み合わせた癌治療用組成物

出願者(権利者):ワイズ・エー・シー株式会社

出願日:2015年9月11日

出願国:日本及び PCT 加盟国

7. 森本幾夫, 大沼 圭, 波多野良. 特願 2014-199260

免疫抑制剤(CD26 分子のリガント Cav-Ig 蛋白が慢性 GVHD 治療に有効).

出願者:学校法人順天堂

出願日:2014年9月29日

出願国:PCT 加盟国

8. 森本幾夫, 大沼 圭. 特願 2013-187124

MERS コロナウイルス感染予防治療剤(ヒト CD26 抗体が MERS コロナウイルス感染の予防及び治療に用いる).

出願者:学校法人順天堂

出願日:2013年9月17日

出願国:PCT 加盟国

9. 森本幾夫, 大沼 圭, 波多野良, 山田健人. 特願 2013-158533

抗ヒト CD26 モノクローナル抗体又はその抗原結合性断片(ホルマリン固定パラフィン包埋した病理組織の免疫染色が可能なコンパニオン診断薬としての新規抗ヒト CD26 単クローン抗体開発).

出願者:学校法人順天堂

出願日:2013年7月31日

出願国:PCT 加盟国

山倉文幸

10. 山倉文幸, 川崎広明, 酒居一雄. 特願 2013-109299

一酸化窒素ストレスの診断方法.

出願者:学校法人順天堂, 日研ザイル(株)

【企業との連携実績】

高森建二

1. 高森建二. 表皮内神経線維と痒みに対する保湿剤の影響. 伊那食品工業株式会社との共同研究
2. 高森建二. 表皮内神経線維に対する光線療法の影響とそのメカニズムの解明. ウシオ電機株式会社との共同研究
3. 高森建二. 痒みのメカニズムの解明と治療応用に関する研究. 科研製薬株式会社との共同研究
4. 高森建二. 表皮内神経線維と痒みに有効な化合物の検討. 小林製薬株式会社との共同研究
5. 高森建二. 表皮内神経線維と痒みに対する保湿剤の影響. 佐藤製薬株式会社との共同研究
6. 高森建二. 痒み治療法の開発に関する研究. 東レ株式会社との共同研究
7. 高森建二. 表皮内神経線維に対する NTP の影響とそのメカニズムの解明. 日本臓器製薬株式

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

会社との共同研究

8. 高森建二. 表皮内神経線維に対する保湿剤・軟膏の影響. マルホ株式会社との共同研究
9. 高森建二. 表皮内神経線維と痒みに対する軟膏・薬剤の評価. ミノファーゲン製薬との共同研究
10. 高森建二. 皮膚バリアと痒みに対する食品の影響. 株式会社明治との共同研究
11. 高森建二. 皮膚バリアと痒みに対する保湿テープ剤の影響. 株式会社ポーラファルマとの共同研究
12. 高森建二. アトピー性皮膚炎病態に対する薬剤の影響. ヤンセンファーマ株式会社との共同研究
13. 高森建二. 保湿剤による痒み抑制効果に関する研究. BIODERMA との共同研究
14. 高森建二. 表皮内神経線維に対する保湿剤の影響. FANCL との共同研究

横溝岳彦

15. 横溝岳彦. 難治性皮膚潰瘍治療薬の開発. 興和株式会社との共同研究 (2015年4月)

森本幾夫

16. 森本幾夫. 血清中 sCD26 濃度、DPP-4 活性及びリンパ球イムノフェノタイプ測定に要する抗体の選択及び製造に関する検討. キッセイ薬品株式会社との受託研究契約(2016年2月～2017年1月)

山倉文幸

17. 山倉文幸. 生体内ニトロリプトファンの簡易検出系の確立に関する研究. 日研ザイル株式会社との共同研究(委託研究費は無し)

岩淵和久

18. 岩淵和久. 脂質ドメインの超微細構造の解析. 理化学研究所との共同研究 (2013-)
19. 岩淵和久. ホスファチジルグルコシド及びそのリゾ体の免疫細胞機能発現における役割解明ならびに疾患関連性の検討. 小野薬品工業との共同研究(2014-2016)

関川 巖

20. 関川 巖. 抗 CTGF(Connective tissue growth factor)抗体の乾癬や関節リウマチでの有効性の研究. 日本農産(株)・富山大学医学部との共同研究

北村庸雄

21. 北村庸雄. 慢性肝疾患の痒み治療薬として昨年薬価収載された「ナルフラフィン」を現在進行中の動物実験に適用予定. 東レ・メディカル株式会社より原末供与

平林義雄

22. 平林義雄. 小野薬品との共同研究 (順天堂大学とも共同参加)

15 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

<「選定時」に付された留意事項>

最終的な研究成果の集約が課題である。

<「選定時」に付された留意事項への対応>

アトピー性皮膚炎(AD)における難治性かゆみの発症は、複数の環境・遺伝要因が末梢(皮膚、免疫細胞、後根神経節)及び中枢(脊髄、脳)に影響することで複雑化する。その発症メカニズムを一つずつ明らかにし、紐解くことが他疾患における難治性かゆみの発症メカニズムの解明に繋がる可能性がある。そこで、罹患率が増加中であり、国民病ともいえるADを中心的な研究対象にすることで、①表皮角化細胞におけるSema3A発現誘導因子の発見、②難治性かゆみに対する治療標的マイクログリアの発見、③皮膚pHの上昇に関与するCAIIIのニトロ化傷害の発見、④表皮pHが上昇するとKLK5が活性化され、PAR2の開裂を介してかゆみ関連因子 TSLP、IL-31、NGFが増加することを発見、⑤か

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

ゆみ誘発活性があるケモカイン IP-10 が AD 患者血清で上昇することを発見、⑥S1P 刺激によってケラチノサイトにおける TNF- α シグナリングを介した起痒物質 endothelin-1 の産生亢進の発見などの成果を上げた。これら成果を乾癬、鼻炎のかゆみに適応し、難治性かゆみのメカニズムの解明及び治療標的分子・細胞の探索に向けて比較検討したところ、⑦鼻こすりの起痒物質候補 TSLP、MCP-1、G-C SF の同定などの成果を上げた。今後も、これら難治性かゆみの発症メカニズムを内臓疾患(胆汁鬱滞や悪性腫瘍 “paraneoplastic itch”)やウイルス性疾患(帯状疱疹)などの他疾患の難治性かゆみに適応、比較検討することで、疾患横断的なかゆみ予防・治療法の開発に向けて集約する。同時に、難治性かゆみの発症メカニズムは個々の病態や疾患で異なることを考慮し、オーダーメイド医療としてのかゆみの予防・治療法の開発も進める。さらに、見出された各かゆみ治療法を組み合わせる(併用すること)ことで、難治性かゆみの発症メカニズムの多様性に対処する。

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備 考
		法 人 負 担	私 学 助 成	共同研 究機関 負担	受託 研究等	寄付金	その他()	
平成 25 年度	施設	0						
	装置	74,982	37,491	37,491				
	設備	108,685	36,228	72,457				
	研究費	124,396	66,414	56,406	1,116	460		うち一般補助10,524
平成 26 年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	141,262	71,600	60,384	8,179	1,099		うち一般補助11,818
平成 27 年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	142,711	80,654	58,831	2,819	407		うち一般補助10,265
総 額	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	74,982	37,491	37,491	0	0	0	
	設備	108,685	36,228	72,457	0	0	0	
	研究費	408,369	218,668	175,621	0	12,114	1,966	
総 計	592,036	292,387	285,569	0	12,114	1,966		

17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)

(千円)

施設 の 名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
環境医学研究所	H15	747 m ²	1	40	320,271	145,867	私学助成

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 m²

(様式1)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1311011

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置) QTRAP6500 LC/MS/MS System	H25	JPQT6500F	1	4,048 h	74,982	37,491	私学助成
(研究設備) 超解像レーザー顕微鏡Gated STEDアップグレードシステム	H25		1	901 h	39,900	26,600	私学助成
蛍光細胞動態解析システム一式	H25	TAXI Scan-FL	1	219 h	28,035	18,690	私学助成
SCLABA-Realシステム Light Version	H25	SR-S	1	1,782 h	13,818	9,212	私学助成
SH800 細胞分取システム一式	H25	SH800	1	268 h	26,932	17,955	私学助成
(情報処理関係設備)				h			
				h			
				h			
				h			
				h			

18 研究費の支出状況

(千円)

年度	平成 25 年度		
小科目	支出額	積算内訳	
		主な用途	金額
教育研究経費支出			
消耗品費	57,554	試薬、器具等	57,554
光熱水費	0		0
通信運搬費	14	電話料金等	14
印刷製本費	521	業績集等印刷費	521
旅費交通費	1,897	学会参加交通費	1,897
報酬・委託料 (修理費等)	14,740	清掃・保守・分析委託	14,740
	8,658	機器修理等	8,658
計	83,384		
アルバイト関係支出			
人件費支出 (兼務職員)	2,049	研究補助員	2,049
			時給 1,250円, 年間時間数 1,443時間 実人数 2人
教育研究経費支出 計	0 2,049		
設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	15,006		15,006
図書	0		0
計	15,006		
研究スタッフ関係支出			
リサーチ・アシスタント	2,821		学内2人
ポスト・ドクター	13,189		学内5人
研究支援推進経費	6,371		学内2人
計	22,381		学内9人

年度	平成 26 年度		
小科目	支出額	積算内訳	
		主な用途	金額
教育研究経費支出			
消耗品費	60,795	試薬、器具等	60,795
光熱水費	0		0
通信運搬費	15	電話料金等	15
印刷製本費	252	業績集等印刷費	252
旅費交通費	1,730	学会参加交通費	1,730

		法人番号		131025
		プロジェクト番号		S1311011
報酬・委託料	15,047	清掃・保守・分析委託	15,047	
(修理費等)	3,471	機器修理等	3,471	
計	81,310			
ア ル パ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	6,474	研究補助員		時給 1,280円, 年間時間数 4,718時間 実人数 5人
教育研究経費支出				
計	6,474			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	12,567			
図 書	0			
計	12,567			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	3,737			学内3人
ポスト・ドクター	27,896			学内8人
研究支援推進経費				
計	31,633			学内11人

年 度	平成 27 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	68,993	試薬、器具等	68,993	
光 熱 水 費	0		0	
通 信 運 搬 費	366	電話料金等	366	
印 刷 製 本 費	307	業績集等印刷費	307	
旅 費 交 通 費	232	学会参加交通費	232	
報 酬 ・ 委 託 料	16,101	清掃・保守・分析委託	16,101	
()	2,024	機器修理等	2,024	
計	88,023			
ア ル パ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	5,057			時給 1,413円, 年間時間数 3,118時間 実人数 4人
教育研究経費支出				
計	5,057			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	11,186			
図 書				
計	11,186			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	2,877			学内3人
ポスト・ドクター	16,287			学内5人
研究支援推進経費	16,055			学内7人
計	35,219			学内15人

戦略的研究基盤形成支援事業 「難治性“かゆみ”の発症機構 解明と予防・治療開発の研究基盤構築」 外部評価表	
評価委員名	北海道大学大学院 先端生命研究院 特任教授 五十嵐 靖之 先生
<p>1、健常人や様々な病態で誘起される、人間生活の QLO 向上に深く関わる難治性のかゆみという新しい課題に、順天堂大学の多くの基礎、臨床研究者が結集して、その発症メカニズムの解明、分子の同定などに大きな成果をあげている点が、一つの大学のなし得る集中的取り組みとして画期的である。</p> <p>2、また大学外の専門家とも共同研究が適切に組み立てられており、アメリカにおける Itch Center に匹敵するような日本の難治性かゆみの研究拠点としての確立をめざしている点も高く評価されよう。</p> <p>3、かゆみ分子、その分子の関与するメカニズムが、さまざまな研究領域で明らかにされようとしている。その基礎研究をそれぞれ更に発展させるとともに、それら異なるメカニズムの相互関連を見いだしていくための協同的な取り組みが更に追求される必要がある。すなわち、個別の課題を結びつけるような共同研究の展開、チームづくりが重要となるだろう。</p> <p>4、そうした基礎研究を踏まえた創薬をめざす応用開発にどう展開できるか、臨床研究への展開とともに、薬事戦略をもったかたちで製薬会社などとの連携構築が今後の課題として求められよう。</p>	

氏名 五十嵐靖之



戦略的研究基盤形成支援事業「難治性“かゆみ”の発症機構
解明と予防・治療開発の研究基盤構築」外部評価表

評価委員名

鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 特任教授
丸山 征郎

研究プロジェクトは「難治性の“かゆみ”の発症機構とその予防法・治療法の基盤構築」というユニークで独創的、意欲的な総合的取り組みである。

この2年間で確実に以下のような成果を挙げてきている。

I. かゆみのメディエーター、受容体など発症機構の解明

1) 脂質メディエーター

- ① Sphingosine-1-phosphate: ヒスタミン非依存性のかゆみの誘導.これが endothelin-1 介在性であることを解明—
- ② Leukotrine(LT)B4 が LTB4 receptor 1 を介してかゆみを誘導する

2) タンパク性、ペプチド、アミノ酸性メディエーター

- ① Kallikrein 5 : PAR-2 活性化を介する
- ② グルタミン酸、サブスタンスP, gastrin-releasing peptide(GRP): これは脊髄後角を介する神経伝達経路を介する


II. “かゆみ”と脳内中枢性活動

- 1) いわゆる“伝染性かゆみ”に脳内基底核、島回、中脳の活動が関係すること、
- 2) かゆみを搔くことの快楽に、中脳、線条体など快楽中枢、脳内報酬系が関わっていること、

III. 治療法に対する研究

- 1) 経頭蓋直流電気刺激による第一次体性感覚野刺激によるかゆみ感覚抑制経路の解明
- 2) 微量生理活性脂質の高感度測定系の確立

これらは“かゆみ”という alarm signal の病態とその制御法の解明につながるものと評価されるが、特に“伝染性かゆみ”の脳内機序の解明は、かゆみと生体防御機構の解明、その進化論的意味論につながるものと評価したい。

氏名 丸山 征郎 



University of Milan
PhD in Biochemical Sciences
Department of Medical Biotechnology and Translational Medicine
Via Fratelli Cervi, 93 - 20090 Segrate (Milano), Italy
Tel: (+39)0250330360 - Fax: (+39)0250330365
Prof. Sandro Sonnino e-mail: Sandro.Sonnino@unimi.it

To whom it may concern.

Segrate, May 18th, 2016

Subject: Evaluation of the Researches for Intractable Itch in the Institute for Environmental and Gender Specific Medicine at the Juntendo University

In date May 17, 2016, I had the honor to be invited to visit the Institute for Environmental and Gender Specific Medicine at the Juntendo University. The Institute was founded in April 2002, supported by a grant of the High-Tech Research Center Project for Private Universities: matching fund subsidy from the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) of Japan. To date, they have conducted research in environmental and gender-specific medicine and related fields with the help of visiting faculty members and many collaborators. Based on previous achievements in their institute, they applied for funding in the form of Strategic Research Foundation Grant-aided Project for Private Universities from the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, to support our project regarding intractable itch, and were awarded funds in 2013. This project will be financially supported for 5 years.

I could visit all the laboratories verifying their organization together with the instrument positions and maintenance. I was very impressed by the organization of the Institute. The laboratories were very well organized with every day instruments and products well distributed. The laboratories were also well accessible to the clinical and basic scientists. This organization allows the good developing of researches. I was also impressed with the quality of animal house. Experimental animals are very well maintained using a system to prevent any dispersion of smells into the environments.

I could discuss some of the results and have a vision of the results obtained by a research project for elucidation of the pathogenic mechanism and development of preventive and therapeutic method in intractable itch, which is currently conducted in the Institute. To progress in this project, they held the 1st and 2nd Workshops and the 1st and 2nd Symposiums from beginning of April, 2013 to end of March, 2016 in meeting places of Juntendo University.

This project was well organized. Many of research groups have successfully evaluated and constantly published high quality papers. Moreover, each group has been well collaborated with each other. Many themes of this project are related to skin diseases with intractable itch such as atopic dermatitis and psoriasis. Some groups are focusing on systemic diseases with intractable itch such as liver disease. Therefore, I suggest that the project members will more focus and keep up their research activities on these well progressed themes.

As an external evaluator, I evaluated the intermediary results obtained by the project regarding intractable itch and found them very important to trace new therapeutic opportunities in the next future. Itch (or pruritus) has been defined as an unpleasant sensation that provokes the desire to scratch. In the next future, the research project, especially focused on skin and systemic diseases with intractable itch that be believed to signal danger from various environmental factors or physiological abnormalities, would be helpful for patients suffering from intractable itch.



University of Milan
PhD in Biochemical Sciences
Department of Medical Biotechnology and Translational Medicine
Via Fratelli Cervi, 93 - 20090 Segrate (Milano), Italy
Tel: (+39)0250330360 - Fax: (+39)0250330365
Prof. Sandro Sonnino e-mail: Sandro.Sonnino@unimi.it

I like to underline some comments for this project.

Aim of this project is to elucidate the pathogenic mechanism and develop preventive and therapeutic methods targeting intractable itch. To accomplish their goal, project members have done basic and clinical researches, and constantly published high quality papers. Target molecules such as GPCRs, lipid mediators, antimicrobial peptides, cytokines and axonal guidance molecules regarding pathogenic mechanism of intractable itch are found in some projects. In addition, several therapeutic target cells such as immune cells, keratinocytes and glial cells are identified in the projects. Central mechanisms of itch perception are also partly revealed in human. In addition, pruritic animal models such as primary biliary cirrhosis and psoriasis are developed in some projects. In addition, Clinical research for a relationship between post-herpetic pruritus and QOL are performed in the project. Several lipid mediates, such as Leukotriene B₄ and sphingosine-1-phosphate are involved in the mechanisms of intractable itch. Thus, this project developed the new quantitative lipidomics methods. For instance LC-MS methods combined with ion mobility system for quantification of a trace amount of bioactive sphingolipids and glycolipids. These methods have great potential to clarify biological functions of bio-active lipids.

Therefore, I strongly expect that achievements of this organization would contribute to improvement in patients suffering from intractable itch. I would like that this organization will contribute to the development of preventive and therapeutic methods to treat intractable itch in the future.



Sandro Sonnino